Suit GUNDAM MS IL LIS

ティーツー出版

機動戦士ガンダム MSパイロット名鑑

一年戦争編

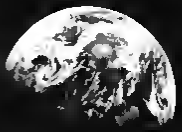


機動戦士ガンダム MSパイロット名鑑 「一年戦争編」

T2出版

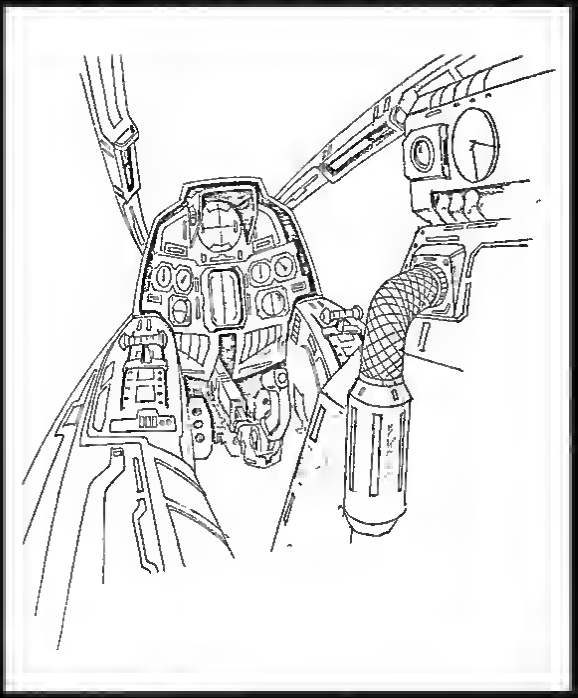
機動戦士ガンダム

MSパイロット名鑑〈一年戦争編〉



MOBILE SUIT GUNDAM

MS PILOT LIST【One Year War】



RX-78 COCKPIT

地球連邦軍がRX計画の一環として開発したMS、RX-78ガンダムのコクピット。アムロ・レイ曹長はこのシートに座り、一年戦争を戦い抜いた

MOBILE SUIT GUNDAM
MS PILOT LIST【One Year War】

CONTENTS



パイロット名鑑【地球連邦軍編】……005
パイロット名鑑【ジオン公国軍編】……035
その他の戦死者たち……102
一年戦争を戦い抜いた歴戦のパイロットたち……104
宇宙世紀基礎用語辞典〈一年戦争編〉……106
パイロット・マニュアル……115
MS&MAプロファイル……119
各作品放映リスト……132
各作品スタッフリスト……136
各作品声優リスト……138
参考文献……141
索引……142

はじめに

MS Pilot List【One Year War】

GUNDAM

宇宙世紀――それは人類の90%がスペースコロニーという新しい生活圏を手に入れた時代。だが宇宙世紀（UC）0079年、サイド3がジオン公国を名乗り地球連邦に対して独立戦争を開始した。これがのちに<一年戦争>と呼ばれる戦いの幕開けである。この人類史上最悪の宇宙大戦は、モビルスーツ（MS）と呼ばれる人型機動兵器の戦いの幕開けでもあり、後世に多大な影響を及ぼすことになる。

このMSが軍事上の中枢をしめるようになると、連邦、ジオンを問わず多くの人間がMSパイロットとして戦場に投入された。そこには歴史として語られることのないドラマがあり葛藤があった。本書では、そのパイロットたちの物語にスポットを当て紹介していく。なお、本書で紹介する人物たちは、基本的に一年戦争に参戦した、MS及び攻撃能力のある戦闘兵器に搭乗したパイロットである。

紹介作品

- 機動戦士ガンダム（テレビ、劇場作品）
- 機動戦士ガンダム0080　ポケットの中の戦争（OVA作品）
- 機動戦士ガンダム0083　スターダストメモリー（OVA作品）
- 機動戦士ガンダム／第08MS小隊（OVA作品）
- 機動戦士ガンダム外伝（セガサターンソフト）
- 機動戦士ガンダムMSV（プラモデル）

パイロット名鑑

〈地球連邦軍編〉

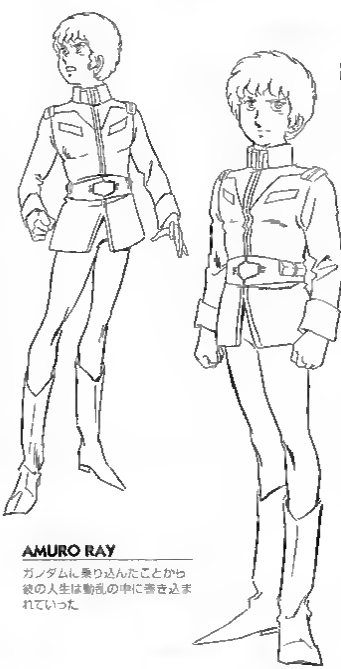


アムロ・レイ

『機動戦士ガンダム』

「僕だって、自信があってやってるわけじゃないのに」

声優：古見



AMURO RAY

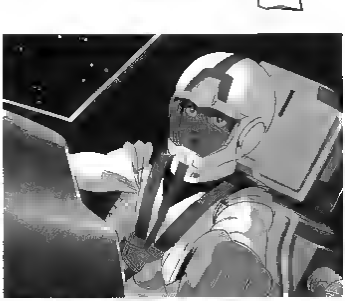
ガンダムに乗り込んだことから彼の人生は動乱の中に巻き込まれていった

宇宙に呼ばれた少年

アムロ・レイ曹長ほど数奇な巡り合わせを辿ってエースパイロットとなった人物はいない。UC0079年のサイド7。ここでもし歯車が少しでもずれたとしたら、彼は一生MSになど乗ることはなかっただろう。だが運命は、アムロに戦場を馳せる戦士となることを強要したのだった。それは、広大な宇宙が、人類の革新、ニュータイプの具象たる彼を呼び寄せたのかもしれない。

アムロ・レイはUC0064年に地球の旧日本、山陰地方に生まれる。父親テム・レイは連邦軍技術大尉にしてコロニー技師でもあった。彼は幼少のころから、転任の多い父に連れられて各地のコロニーを渡り歩き、やがて最新のコロニーであるサイド7に落ちついた。

UC0079年9月18日、連邦軍のMS開発計画「V作戦」の結実たる、RXシリーズMSの運用艦ホワイトベースがサイド7に入港する。そしてそれを追ってジオン軍の主力MSザクの小隊もサイド7に侵入し、RXシリーズの破壊を目的に、コロニー内で砲撃戦を開始した。



▲ガンダムに乗り、戦場を生き抜いていくうちに、アムロ・レイ曹長のニュータイプとしての素質が開花していった

遭難の途中、偶然RX-78ガンダムの操縦マニュアルを拾得したアムロは、逃げまどう民間人を守るためガンダムに搭乗。格闘戦を行い、初めての操縦にして2機のザクの撃破に成功する。このとき、彼は15歳であった。この戦闘は史上初のMS同士のものであり、その意味でも彼は歴史に残る人物となった。

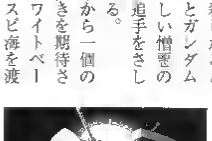
イレギュラーとして

アムロとサイド7の民間人は、この戦闘による緊急避難としてホワイトベースに乗艦することになる。この艦は先の戦闘で正規乗組員をほぼ全員失っており、見習い士官、訓練兵、民間人有志の共同作業で航行を開始。以後、終戦までそのメンバーのまま運用された。なお、このときホワイトベース襲撃を行ったジオン軍独立部隊指揮官は、ルウム戦役で連邦軍戦艦5隻を沈め「赤い彗星」の異名で恐れられた男、シャア・アズナブル少佐であった。

ここより、ホワイトベースとアムロ・レイ曹長（当時民間人）の長い旅が始まった。軍の最高機密にして最新鋭の戦力でありながら民間人と訓練兵によって運用され、しかも一定の戦果をあげてしまったホワイトベースを、連邦軍の上層部は持て余したのである。シャアの追撃を逃れて地球に降下した彼らは、軍から見捨てられたようなかたちで、ジオン軍制圧下の北米大陸をさまよわねばならなかった。艦の最強の戦力であるガンダムのパイロットたることを期待されたアムロは、その重圧と自負の狭間で苦しみながらも戦果をあげてゆく。

なかでも、10月4日、ジオン軍地球方面軍司令にしてザビ家の末弟ガルマ・ザビを戦死せしめたことは特筆に値する。これにより、北米におけるジオン勢力は大幅に縮小したが、カリスマであったガルマを殺したことで、ホワイトベースとガンダムはジオンにとって激しい憎悪の対象となり、次々と追手をさし向けられることになる。

このことで連邦軍から一個の独立部隊としての働きを期待されるようになったホワイトベースは、11月7日、カスピ海を渡



▲ガンダムは当時のMSの最高性能を誇った



▲ジオンの主力MSザクも　ガンダムの圧倒的な性能の前に敗れていった





RX-78 GUNDAM

このMSの登場で　連邦軍とジオン軍のミリタリーバランスが激変してしまった

ってレビル将軍のオデッサ作戦に参加。アムロはこの作戦で、キンリア・ザビ直属の特務小隊「黒い三連星」を撃破している。「黒い三連星」は「赤い彗星」と並び称されるルウム戦役の英雄で、全員がエース級の実力パイロットだが、アムロはこの3人全員を撃墜したのである。他にもこの作戦中に彼は、連邦軍エルラン中将がジオンに内通していることを看破、告発し、またジオン軍オデッサ採掘基地司令官マ・クベが発射した水爆ミサイルの空中迎撃に成功するなど功績は計り知れず、事実上の最大功労者と言ってよい。

人類の革新、ニュータイプ

オデッサで軍功の大きかったホワイトベースのクルーは、ジャブローの連邦軍総本部にて戦時特例によって軍へ強制的に編入され、アムロは曹長に任官。同時にホワイトベースは第13独立部隊となり、ソロモン攻略作戦へ参加するための艦隊とは別行動でソロモンへ向かうよう命令される。

再び宇宙に出てからのアムロの軍功は華麗の一言に尽きる。ホワイトベースが地球を後にした12月2日だけでも、ノヤアの追撃部隊を二度に渡って退け、新型のMAを2機撃墜。続いてドレン大尉率いるキャメル艦隊を迎撃して、リノクドム2機とムサイ級巡洋艦3隻を撃破、「赤い彗星」の伝説を思わせる活躍ぶりを示す。

さらに、サイド6付近の宙域にて、トズル・ザビ直属の精鋭部隊であるコンスコン隊と戦闘、出撃してきたリックドム12機のうち9機を撃墜するという記録を立てる。この戦いぶりを間近で見たホワイトベースのクルーたちより、「アムロ曹長は、敵の動きがあらかじめわかっているような戦いかたをする」というような報告がされている。

このころになると、ホワイトベースのガンダムの名は、連邦、ジオン、中立コロニーを問わず広く世に知られるようになっていた。この時点でアムロの撃墜数はすでに100機を超えている。初めてMSに乗ってからわずか3か月でこのスコアである。

やがて連邦軍内部でも、認識力、共感力が著しく優れた存在「ニュータイプ」という概念が知られるようになり、アムロはまさにそのような特殊な存在である



▲宇宙、陸上、水中とあらゆるフィールドでの作戦が可能だった

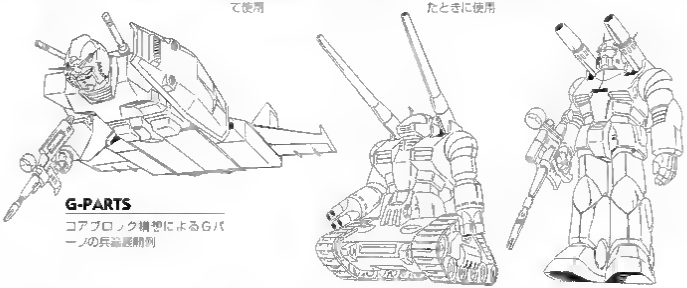


▲コクピットはコアブロックシステムを採用。パイロットの生還率が高い



FF-X7 CORE FIGHTER

コアブロックシステムの中枢として、RXシリーズMSのコックピットになる戦闘機



と見られるようになる。

共感は戦いの悲しみとともに

12月24日、ソロモン攻略戦に参加。この戦いでアムロは敵味方双方の数多くの将兵たちに、百戦錬磨の戦いぶりを見せつけることになった。そして、ソロモン司令官ドズル・ザビが自ら駆り、連邦軍艦艇に多大な被害を与えた重MAビグザムを落とすことに成功。司令官を失って、ソロモンは陥落する。

ソロモン陥落後、アムロは一日にして連邦軍艦艇を4隻撃沈した新型MAエルメスと交戦。戦いのさなか、彼は敵パイロット、ララァとニュータイプ同士の超感覚的な共鳴を起こす。その、人と人との新しい共感は、シャアの父ジオン ズム・ダイクンが夢見た人類の革新の第一歩だった。しかし心が通じたのも束の間、ララァはアムロの攻撃からシャアをかばって戦死。その命を宇宙に散らすこととなる。この出来事は、アムロの心に一生深い傷となって残った。

12月31日、「星一号作戦」最終段階、連邦軍は宇宙要塞ア・バオア・クーに進軍。アムロはここで、シャアの駆るジオン最後のMSジオングと死闘を繰り広げる。ニュータイプ同士の戦いは相打ちに終わり、一年戦争は連邦の勝利に終わるが、最前線にあったホワイトベースのクルーたちがほとんど全員生還できたのは、アムロの超感覚のなせるわざだとも言われている。

終戦協定締結後、連邦軍は、スペースノイドの革新であるニュータイプを畏れ、アムロを英雄として遇しながらも地球の重力のもと厳重な監視下に置く。彼はそこで、7年のあいだ孤独の時を過ごすことになる。


▲マ ァア ク ら 乗して ガンダム の機体 は大破 しかし アムロ レイ 最は 間的な生涯を選げる

セイラ・マス

「機動戦士ガンダム」

「自信を持って。あなたならきっとできてよ」



SAYLA MASS

ジオン ズム ダイクンの一人娘でありシャアの妹。この事実が彼女を苦しめる結果になる

シャアの妹、ジオンの娘

UC0079年の当時、セイラ・マス軍曹はサイド7の1バンチに住んでいた17歳の少女であり、9月18日、ジオン公国軍シャア・アズナブルの特務部隊ザク小隊による連邦軍MS実験施設襲撃事件の際、ザクの砲撃を逃れてホワイトベースに退避した民間人の一人である。美しい金髪と整った顔立ちの美少女で、立ち居振る舞い、言葉使いには常に一分の隙もない。性格は極めて剛しく、いじけた男には容赦なく平手打ちが飛んだほどである。

彼女の本名はアルテイシア・ソム・ダイクンといい、かつての有能な政治家にしてサイド国家主義「コントリズム」提唱者、そしてサイド3ジオン共和国樹立者であるジオン・ズム・ダイクンの実の娘である。父ジオンが急死したのち、ザビ家が急速に権力を握り独裁制を敷くと、彼女と彼女の兄キャスバルはザビ家から逃れるため、ダイクンの元側近ジンバ・ラルに連れられてサイド3を脱出、名前を変えて地球へ渡っていた。しかしある日兄が突然行方をくらますと、一人



▲一年戦争後半になると、人員不足の[illegible]としてGファイターで出撃していく

になった彼女はサイド7に移住してきたのだった。

ホワイトベースのクルーとなったセイラは、やがて自分たちを追撃している「赤い彗星」シャアが生き別れになった兄キャスバルであることに気づき、兄の生存を喜びながらも分かれてしまった互いの立場に苦しみ続ける。

兄を止めるため、戦士として

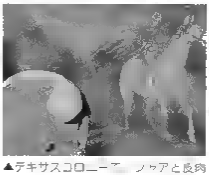
正規の乗組員のいない人手不足のホワイトベースの中にあって、当初セイラはブリッジで通信を担当、艦載MSとの連絡を引き受け、不慣れなパイロットたちを励ましていた。またサイド7で医者を志していたことから、救護担当サンマロの補佐として後方勤務にあたっていた。しかしオデッサ作戦を直前に控えてホワイトベースにガンダム支援用戦闘機Gファイターが配備されると、彼女はその専属パイロットとして戦闘に参加してゆくことになる。

初めは、不慣れな航空機、しかも戦闘用とあってかんばしい働きはできなかったが、徐々にパイロットとして成長し、ガンダムの空中戦闘を有効に支援できるようになっていく。ことにジャブローから宇宙に出てからの成長は著しく、12月2日、重力圏脱出直後のザンジバル迎撃戦でリックドム1機、その後のサイド6宙域でのコンスコン隊との戦闘で同じく1機、12月24日のソロモン攻略戦でも1機と着実にスコアを伸ばし、デキサスコロニーでのデラミン艦隊との戦闘ではドムに加えてムサイ級巡洋艦1隻を撃沈、ニュータイプの素質の片鱗を見せ始める。

最終局面、12月31日のア・バオア・クーの決戦でセイラ軍曹は、乗機を失い、要塞内をさまようちに白兵戦を行うアムロとシャアを発見。制止しようとするが、二人の確執はあまりにも深く、昏く、セイラの叫びは空しく響くだけであった。そして要塞からの脱出口を失ってとうとう死を覚悟した彼女は、どこからか聞こえたような気がしたアムロの声をたとってホワイトベースのランチまでたどり着いたのだった。



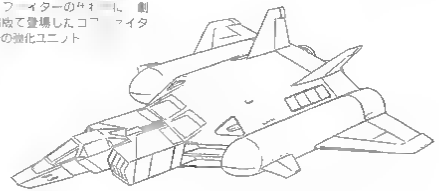
▲ブライトに復讐しようとするカイアに悲しみを覚く



▲デキサスコロニーでシャアと皮肉な再会を果たす

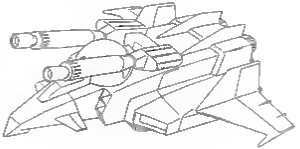
CORE BOOSTER

Gファイターのバリエーションに、劇場版で登場したコアファイターの強化ユニット



G-FIGHTER

ガンダムを支援するために開発された量戦闘機。セイラのほかスレッガーも搭乗した



カイ・シデン

『機動戦士ガンダム』

「なんてドジだ。敵の足を止めることもできやしない」

階級：二等兵



KAI SHIDEN

ヘルフーストで出会った女スパイ　ニハルの死によって　彼は大きく成長する

自らを軟弱者と呼んで

カイ・シデン伍長。父親がコロニー関係の技術者で、最新のサイド7の1バンチに住むようになった、UC0079年当時18歳の少年である。連邦軍の「V作戦」で開発されたRXシリーズを狙ってジャブロー・アズナブルのサク小隊が侵攻してきた際、緊急避難で新鋭強襲揚陸艦ホワイトベースに乗艦、最後終戦までクルーとして艦に残留する。

初めは、臆病で悲観的な性格で、そのくせ斜にかまえた態度を崩さず、たびたび皮肉っぽい言葉を口にしては、他のクルーの眉をひそめさせる問題児だったようだ。初めてホワイトベースに乗艦したときの態度があまりに軟弱だったため、頭に来たセイラに力いっぱいひっぱたかれたという逸話があるほどである。

人員が絶対的に不足しているホワイトベースの中で、初めはやむなく対空砲座の砲手を務める。だがルナノーでの敵補給艦攻撃作戦の際、大型特殊機械のライセンスをもっていることからガンタンクの操縦担当として砲手のハヤトとともに出撃、初陣を果たした。地球に降下して



▲ガンキャノンに乗り　ガンダムの中距離支援に活躍するが、最初は　半ばパニック状態で戦っていた

からはガンタンクをリュウに任せてガンキャノンに乗り換え、中距離からの支援攻撃手となる。ガンキャノンでの初の出撃となった敵包囲網突破作戦では、着地に失敗して転倒し、迫るサクの姿に恐怖して涙目になりながらも奮闘、マゼラトップ1機とサク1機を撃墜している。そして着実に経験を積み、実戦終験ではアムロに次ぐ歴戦パイロットとして重要な戦力となってゆく。そしてそれに反比例して、真剣に生き延びようとしている者を、あざ笑うような態度はなくなっていった。

ミハルとの別れ、そして決意

公式な記録ではもちろんないが、彼については次のようなエピソードが残っている。UC0079年11月7日のオデッサ作戦にも参加し軍功をあげるが、その後、北アイルランドのベルファストにて、自分が強制的に連邦軍所属にされることを知ると反発し、自ら退艦。町をさまようちに、連邦軍の動きをジオンに通報することで弟妹を養っている少女ミハル、ラトキエと知り合う。カイはさりげなくホワイトベースの動きを教えてやりながら、女子といえどスパイまがいのことをしなければ生活できない、この戦争というものに怒りを覚えるようになる。そしてミハルの情報で、シャアの水陸両用MS部隊がホワイトベースを襲っているのを知り、艦に戻って戦いを続けることを決意する。だが、艦に戻った直後、スパイとして潜入していたミハルを発見。その直後に起こった戦闘で彼女を死なせてしまう。以後、彼女の死が彼を大きく変えていくことになるのだった。

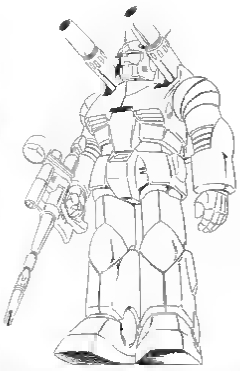
ミハルを失ったことで、彼はパイロットとしても人間としても大きく成長する。軒口は変わらないものの、彼女のような被害者を増やさないためにも戦争を終わらせることを決意。自分自身のなかに戦いの意味を見出したカイは、ア・バオア・クーの決戦までガンキャノンとともに戦い、多大な戦功をあげてみごと生還した。戦後は地球に降りてフリーのジャーナリストとなり、ティターンズの専横に対して反抗をしていった。

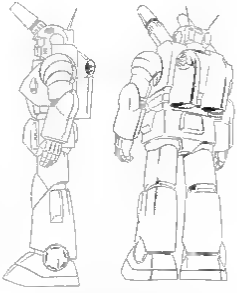


▲マ ノオコ ーでは 終選した機体を捨て 白兵戦を行った



▲戦いが激化する(連れて クルーの連帯感も高まっていく





RX-77 GUNCANNON

武甲 装備は ガノタムよりも強力たが その分 機動性に欠ける

ハヤト・コバヤシ

『機動戦士ガンダム』

「動けなくたって鉄丸があるんだ、やります！」

階級：伍長



HAYATO KOBAYASHI

アムロを憧憬しすぎてしまい彼に対しコンプレックスを抱いてしまっていた

小さな体に熱い血を持つ少年

UC0079年当時、15歳の日系の少年で、サイド7、1バンチのアムロ宅の向かいの家に住んでいたのがハヤト・コバヤシ伍長であった。サイド7に連邦軍の施設がつくられたために家の立ち退きをさせられたことがあり、そのため父親が軍の技術大尉であるアムロのことをあまりよく思っていなかった。

この年の9月18日、軍施設に存在していた連邦軍の新型MSを標的に、ジオン軍の美雄ンヤ・アズナブル配下のザク小隊がサイド7に侵攻、コロニー内で砲撃戦を行う事件が起こる。この戦災で家族を失って天涯孤独になったハヤトは、砲火から逃れるために他の民間人とともに連邦の新型艦ホワイトベースに緊急避難。人手不足から艦の運用を手伝い、そのまま終戦までクルーとして乗艦しつづける。

乗り込んだ当初は対空砲座の砲手を務



▲当初は　カノンタンク『砲撃手を担当。たか　リュウしき後は一人で操縦と砲撃の両方をこなす

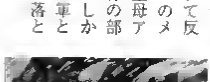
めていたが、ルナツーでの敵補給艦攻撃戦において、リュウのコア・ファイターが誤魔で砲撃ができず、やむなくカイとともにガンタンクで出撃。砲手担当として初のMS戦闘を経験し、以後、彼はガンタンクの専属パイロットとしてMS戦要員となる。小柄で性格もおとなしい彼だが戦闘においてはきわめて勇敢で、キャタピラを破壊されて機動力を喪失したガンタンクに最後まで残り、砲台として弾丸が尽きるまで戦うなど気骨のあるところをよく示した。操縦担当のリュウ・ホセイが戦死した後は、機体を単座式に改修のうえ単独運用するようになった。

焦りと苛立ち、ほのかな恋

ガンタンクはもともと、近接格闘戦用の機体であるガンダムのために遠距離狙撃、敵MSの牽制などを行う長距離支援機であり、その機体特性はガンダムのような派手な活躍や華々しい戦果をあげる種類のものではない。しかしハヤトは、顔には出さないがアムロのスコアに対抗心を抱いており、そしてどうしても追いつけないことにひどく焦っていた。

その焦りのせいか、12月24日、ソロモン攻略戦において被弾し、彼自身も負傷。数日間の療養を余儀なくされる。しかしフラウ上等兵の看病と柔道で鍛えた身体のおかげで傷の完治ははやく、12月31日の宇宙要塞ア・バオア・クーでの最終決戦の戦いには再び参加。激戦のなかで機体を失った後もカイとともにホワイトベースを守って銃撃戦を繰り広げる。そして戦場の混乱のなかでアムロの声を聞いて脱出、他のほとんどのクルーと一緒に、生きて終戦を迎える。

終戦後は地球に降り、ソロモンの負傷で手厚い看護をしてくれたフラウ・ボウ上等兵と結婚。ニュータイプを恐れる連邦軍によって閑職に甘んじていたが、アースノイドの軍閥「ティターンズ」の専横を見かねて反地球連邦軍組織「カラバ」のメンバーとなり、空中攻撃空母アウドムラ艦長として最前線の部隊指揮をとることになる。しかし、その後のネオ・ジオン軍との戦いにおいて、コロニー落としに巻き込まれて戦死。



▲フィ[illegible]ではヤ[illegible]への輸送中をザクに襲われた



▲最後のコンタ[illegible]も破壊されハヤトはセ[illegible]ヘースへ脱出して[illegible]





RX-75 GUNTANK

コア ブロック システムの試験に開発された。地上戦はともかく宇宙での使用は無理があった

リュウ・ホセイ

『機動戦士ガンダム』

「太陽を背にして攻撃しようというのか」

搭乗機：量産型ガンダム

RYU HOSEI



▲アムロのガンダムを救うため コアファイターで特攻をかける





早すぎた戦死

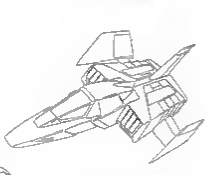
リュウ・ホセイ（当時曹長）は、地球連邦軍に志願入隊し、パイロット候補生となった新兵であった。UC0079年9月18日、「V作戦」の最終実験段階に入った新造戦艦ホワイトベースに訓練で乗り組むが、サイド7にて同日ジオンのサク隊の襲撃を受け、ブライトと協力して民間人を収容、艦を出航させる。

艦では主にジオン軍に対する迎撃要員としてコア・ファイターで戦う。彼はまた飛行経験かなく、初めは素人同然だったが、度重なる戦闘で経験を積むうちに熟練パイロットなみの腕をもつようになる。地球に降りてからはガンタンクの操縦担当としても勇戦。

しかし、11月5日中央アジアにおいて、艦内に突撃してきたランバ・ラル隊と銃撃戦を行って負傷。そしてさらに、ラル隊の残党クラウレ・ハモンによる決死の特攻からガンダムを守るため、重傷をおしてコア・ファイターで出撃、特攻を敢行し命を散らした。

彼の人柄は、生き残ったホワイトベースクルーから知ることができる。難民船に等しいホワイトベースにあって比較的年長であった彼は、乗り合わせたクルー間の信頼関係を築くための努力を惜しまなかった。他人の気持ちをくむことができないブライトをたしなめ、自分勝手なアムロを叱り、艦を降りようとするカイを引き留めた。いま自分が何をすべきか、それを自分で考え行動で示したのがリュウという男だった。リュウが死亡したとき、クルーは、自分たちがかけがえのないものを失ったということを思い知ったのだった。





FF-X7 CORE FIGHTER

ガノダムを支援するために乗り込んだ

RX-75 GUNTANK

主に胸手をハヤトに任せて 後方を受けもっていた

スレッガー・ロウ

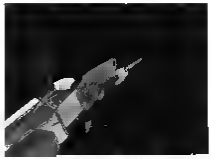
『機動戦士ガンダム』

「私情は禁物よ。悲しいけど、これ戦争なのよね」

声優：中村



▲パイロットとしての腕もセ[illegible]クレーカラを信頼されていた



▲ヒクダムのヤローキ[illegible]イッを機首に受けて　戦死



SLEGGAR LAW

ホワイトベースの中にあっては　比較的大人の人物であった

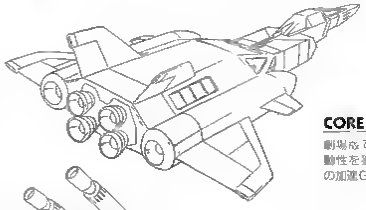
大人を演じたパイロット

戦死したリュウ　ホセイ中尉の後任として、ジャブローにてホワイトベースに着任した連邦軍士官。生粋の戦闘要員であり、パイロットや砲手としても一流以上の腕前をもつ。性格は軽く、軽妙な独特の語り口で周りを煙に巻いたりするが、カイとは違い大人の落ちつきがある。

ホワイトベースが地球を立った UC 0079年12月2日に行われたザンジバル連撃戦では艦の主砲砲手を担当し、多くの砲座の中で彼一人だけがザンジバルに直撃を浴びせることに成功、シャア大佐に冷や汗をかかせる。その後はGファイターのパイロットとして出撃し、サイド6宙域のコンスコン隊との戦いでリックドム1機を撃墜したのを皮切りに、熟練の空戦技術で勇戦、ホワイトベースの重要な戦力となる。

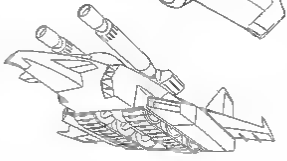
12月24日のソロモン攻略戦に出撃した彼は、この戦場でもノオンのMS隊を相手にめざましい活躍をする。そしてソロモン司令官ドズル・ザビの重MAビグザムの猛威を見て奮起、アムロのガンダムとドッキングしてGアーマーとなり、アムロをビグザムの懐の内に送り込むために敢然と突撃し、壮絶な戦死を遂げた。

彼はホワイトベース操舵士ミライから想いを寄せられていたという逸話もあるが、我々が詮索する権利はないと判断し記述を控えることにする。



CORE BOOSTER

胴体だけの戦機。かなりの機動性を獲得している。発進時の加速Gも凄まじい



G-FIGHTER

ガンダムとドッキングすることによって　カンダムの戦闘時間を延ばすことができた

ジョブ・ジョン



縁の下の力もち的な存在

くせのある金髪が特徴的な、ホワイトベース乗組員の少年。本来の担当は予備パイロットであり、主にガンペリーの副操縦士を務め、リュウがコア・ファイターで出撃のときは、ガンタンクの操縦も担当する。艦にGパーツが配備されたとき、本来は彼がそのパイロットになるはずだったが、MS戦闘の経験が少なかったためセイラがその座につくことになった。

彼は機械関係に強く、ホワイトベースのパワーセクションでエンジンの調整を行いつつ、デッキではMSの整備をすることもできた。さらには銃座について砲撃手となり、あるときは捕虜の監視につくなど多芸ぶりを見せた。彼は人材不足のホワイトベースにあって、その航行を支えた陰の功労者だったといえるかもしれない。

ウッディ



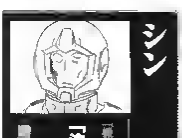
命をかけて艦を守った男

ジャブローの連邦軍本部基地に勤務する技術担当大尉。ホワイトベースのオーバーホールの総責任者を務めた。

ウッディは、黒い三連星からホワイトベースをかばって死んだ輸送隊隊長マチルダ・アジャン中尉の婚約者だった男であり、マチルダが命を賭して守ったこの艦を、彼女の形見であるかのように感じていたと聞く。

UC0079年11月30日、ホワイトベースを追跡して連邦基地の位置を特定したシャア・アズナブルによるジャブロー降下作戦で、ウッディはシャアの駆るズゴックからホワイトベースを守るために、ナパークラフトで特攻をかける。ズゴックのモノアイを破壊するも、攻撃を受けて戦死した。これによりシャアは撤退を余儀なくされてしまう。

シン



不幸ないちばん乗り

地球連邦軍MSパイロット。量産型MS、ゾムに搭乗し、UC0079年12月24日、ジオン軍の宇宙要塞ソロモンの攻略戦に参加する。

周辺宙域でのMS戦の後、連邦の対要塞兵器「ノーラ・システム」の砲撃がソロモンゲートを破壊すると、シン少尉は味方のボール隊とともに要塞内にいちばん乗りで侵入を果たした。しかし、ジオン軍のノロモン司令官ドズル・ザビが自ら最新鋭の巨大MAビグザムで出動、シン少尉たちは連邦軍で初めてこの重MAに遭遇する。

ボール部隊は、ビグザムの拡散メガ粒子砲によって全滅。彼自身もその直後に悲鳴ひとつ残して跡形もなく消滅させられ、ビグザムによる連邦軍最初の犠牲者の一人にもなってしまった。

クリスチーナ・マッケンジー

『機動戦士ガンダム0080』

「自分だけ逃げても、一人では生きていけないから…」



▲パイロットスーツを着たクリスの知るやさしい素顔はなかった



▲図抜な運動力　2人を敵同士として戦わせることになってしまった



CHRISTINA MACKENZIE

テストパイロットのため実戦経験はないに等しかったクリス



気づくことのない悲劇

地球連邦軍の若き女性士官。通称クリス。サイド6の裕福な家庭に生まれ育つが、生来の気丈さと自立心の強さゆえに自ら連邦軍に志願。士官学校を経て、MSのテストパイロットとして地球に赴任し、ニュータイプ専用ガンダム「アレックス」の開発に携わる。やがてアレックスがサイト6に移送されると、クリスもそれに伴い故郷であるこのコロニーへ転任する。

UC0079年12月19日、アレックスの強奪を企図して市街地へ侵攻してきたジオン軍「サイクロプス隊」を迎撃するため、アレックスで出撃。彼女は実戦経験をまったくもたなかったが、重厚なチョバムアーマー装甲を装備したアレックスの性能によりジオンの新型MS、MS-14Eケンプファーの火力をものともせず、腕部装備のガトリング砲の一斉射で敵を完全に破壊する。

この襲撃事件の興奮も冷めやらぬ同年12月25日、折しもクリスマスの日、サイクロプス隊の残党がザク改を駆って市街地に侵攻。クリスは再びアレックスで出撃する。はじめはゲリラ戦術を駆使するザク改に苦戦するが、近接格闘の末、敵の撃破に成功する。

このとき敵のザク改に搭乗していたパイロットは、クリスが偶然知り合い、互いに気になる存在になっていた青年バーニィであった。だが、彼女がこの事実を知ることはなかった。



ALEX FULL ARMOR

チョバムアーマー製の増加装甲を装着した姿



ALEX

一年戦争終結に連邦軍が開発したガンダム。頭部にガトリング砲装備

サウス・バニング

『機動戦士ガンダム0083』

「戦いは一瞬で決まる。迷いのあるほうが負けだ！」

階級：大尉

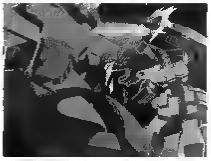


SOUTH BURNING

一介戦争屋は　教官としてパイロット育成に従事する



▲教官としてパイロットを育てるバニング大尉



▲アーバレスト（一点起動）彼の運命を大きく変えてしまった

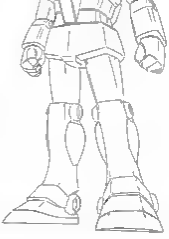
老兵は死なず

地球連邦軍のヘテランMSパイロット。ベイト、アデル、モンシアを引き連れて一年戦争を戦い抜いた歴戦の猛者である。終戦後は地上に降り、オーストラリアのトリントン基地でテストパイロットの教官として勤務していた。

UC0083年10月13日、同基地に連邦軍揚陸艦アルビオンによって試作型ガンダムが搬入。バニングはその重力下運用試験に携わるはずだったが、同日、戦術核装備機種であるガンダム2号機を「デラーズ・フリート」のアナベル・ガトーに強奪される。アルビオンの艦長シナプスはガンダム奪回のために、彼をMS部隊指揮官として招聘。再び宇宙の戦場に舞い戻ることになる。

同年11月8日、観艦式のために集結しつつあったバーミンガム艦隊を、デラーズ・フリートのシーマ艦隊が襲撃。救援のため自ら育て上げた部下たちを率いて出撃したバニングは、敵MS2機を撃墜し、スコアを伸ばす。しかし、アルビオンに帰還する途中、愛機ジム・カスタムの被弾した腹部が突如爆発、脱出する間もなく死亡した。

彼は優秀なパイロットだったが、すでに壮年であったため急激な加重にレッドアウトを起こすようになっていた。出撃直前、別居中の妻から手紙が届いていたが、それを読むことなく散っていった。





RGM-79 GM

短期間かつ低予算で生産されたため　ロールアウト後も徹底的な仕様変更更新を行っていた

アルファ・A・ベイト

「機動戦士ガンダムUC0083」

「俺たちずっとジオンの亡霊につきあわされてきたんだ」

構成：中里＋大野

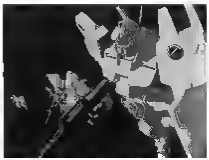


ALPHA A. BAIT

モノアと比べて 沈着冷静であり 状況判断に優れている



▲バニング亡き後のMS部隊を 率いてまとめていた



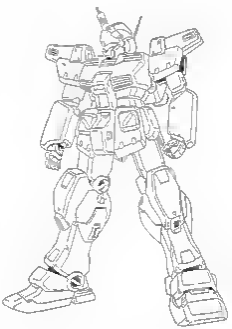
▲彼が乗るゾゴックは 機体性能に優れたMSである

頼もしき助っ人

地球連邦軍のMSパイロット。一年戦争時にはバニングの部下として各地の戦場を渡り歩き、「不死身の第04小隊」と称えられた。同じくバニングの部下だったモンシア、アデルといつもチームを組んでおり、3人組のリーダー格である。

UC0083年10月14日、奪われたガンダムの奪還を命じられた強襲揚陸艦アルビオンに補充パイロットとして着任。再びバニングの指揮下に入る。10月23日のアフリカ・キンバライト基地付近での戦闘では敵の機動力に苦戦し、後方からの攻撃を受けて愛機ゾムの左脚を大破するが見事生還。その後11月8日のバーミンガム艦隊救援作戦でバニングが戦死したことにより戦時特例で大尉に昇進、アルビオンのMS部隊隊長となり、以後の戦闘では近接格闘戦の戦術指揮を一任されている。

ヘイトはこの年のデラーズ紛争において二人の仲間とともに常に最前線にあり、ゾム・カスタムを駆って全ての戦闘行動に参加、大きな戦果をあげた。地球生まれの彼は、この紛争の終結後はアルビオンのクルーたちとともにジャミトフ・ハイマン准将の提唱する旧ジオン公国軍追討組織「ティターンズ」に加盟し、以後エリート軍人として軍閥に加わってゆくことになる。



RGM-79N GM・CUSTOM

エースパイロットのために製造されたゾムの出力向上型。最高クラスの性能を誇る

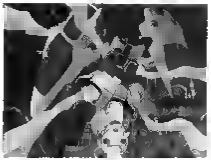
ベルナルド・モンシア

『機動戦士ガンダム0083』

「フン、わさわざ向こうからドンでしかけてくる敵がいるかい」



▲素行に問題があるカ　MS操縦にかけては一流である



▲GP 1のパイロットを巡ってコウキ少尉と私闘をしたこともある



BERNARD MONSHA

一年戦争を生き抜いたベテランであるが　素行に問題があった

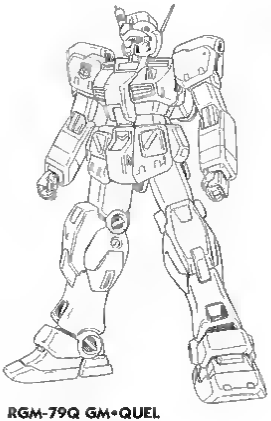
悪名高き無頼漢

地球連邦軍の歴戦MSパイロット。一年戦争中はベイト、アデルとともにバニング率いる第04小隊に所属、各地の戦場を転戦したベテランである。

UC0083年10月14日、ガンダム2号機奪還任務に就く強襲揚陸艦アルビオンに補充パイロットとして赴任。着任早々にして、ガンダム試作1号機専属パイロットの座を巡りテストパイロットのコウ・ウラキ少尉と対立、無断でMSをもち出して私闘に及び、1週間の独房入りを命じられる。

出房直後の10月23日、アフリカ・キンバライト基地攻略戦にて2機撃墜。宇宙に出た後も、10月31日のソーマ艦隊迎撃戦、11月12日からのコロニー落下阻止作戦など、その年の主だった戦闘には全て出撃、着実にスコアを伸ばした。

モンシアは無類の女好きで、アルビオンの女性クルーに対してしばしばセクハラに及ぶ悪癖があった。地球生まれの地球育ちで、スペースノイドを「宇宙人」と呼ぶなど差別意識があった彼は、デラーズ紛争終結直後の12月3日、シャミトフ・ハイマン准将によってアースノイドによる軍閥「ティターンズ」が結成されると、仲間とともにこれに参加、以後は旧ジオン公国軍の残党狩りにその腕を振るうことになる。



RGM-79Q GM•QUEL

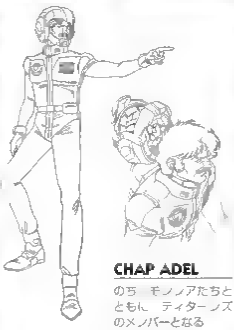
発足当時のティターンズが使用したMS。GMカスタムから派生した

チャップ・アデル

『機動戦士ガンダム0083』

「まさか、こんな事件に関わることになるとはな」

声優：少前



CHAP ADEL

のち、モンシアたちとともに、ティターンズのメンバーとなる



▲ノムキャノン2門を撃つ主に中距離後方支援を担当していた



▲緑動
彼はそれを技術でカバーし

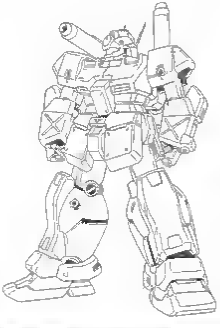
緑の下の力持ち

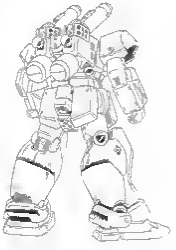
ハニングのもとで一年戦争を戦い抜いた歴戦のパイロットの一人。旧第04小隊のなかでは最も階級が低いが、温厚な性格と思慮深い行動で、メンバーの縁の下の力持ち的存在だった。黒髪で、たくわえた見事な口髭が紳士然とした雰囲気を醸し出しており、同じように髭を生やしながらも野卑な印象になっているモンシアとは対照的である。

UC0083年10月14日、ベイト・モンシアとともに補充パイロットとしてオーストラリア・トリントン基地駐留中の強襲揚陸艦アルビオンに着任。以後1か月にわたるデラーズ紛争の間、この艦とともに常に最前線にあり、10月23日のアフリカ・キンハライト基地、10月31日のソーマ艦隊迎撃戦、最終決戦となった11月12日からのコロニー落下阻止作戦など全ての作戦に参加して勇戦、撃墜記録に次々と華を添えていった。

戦闘では、ベイトがジム・カスタムを使っているのに対してアデルはジム・キャノンIIを愛用しており、2門のビームキャノンによる中距離支援に当たった。

彼は紛争終結まで生き残り、その年の12月3日、アースノイドの軍備化を目論むジャミトフ・ハイマン准将によって「ティターンズ」が結成されると、一人の仲間とともにこれに参加。以後は軍閥エリート士官として旧ジオン公国軍の残党狩りに加わる。





RGC-83 GM•CANNON II

RGC-80の改良量産型。時期型よりも格段に装甲が強化されている。そのため機動性に問題が残った

ディック・アレン



【登場機体：ガンダムAOD-03】

「妻をもった、負けたくないに性差別があっていうことだ」

搭乗：○○

熟練のジム・パイロット

連邦軍オーストラリア・トリントン基地テストパイロット小隊隊員で、MS操縦の腕はバニングに次ぐNo.2。アナハイム・エレクトロニクス社で開発されたバノックパック強化型パワードジムのメインパイロットを務める。彼の熟練の操縦技術に機体のアドバンテージが加わり、模擬戦ではカークス、ウラキ、キースの3人を相手に互角以上に戦うことができる。

UC0083年10月13日、「デラーズ・フリート」のエース、アナベル・ガトーによって奪われたガンダム試作2号機を奪還するため、バニングに率いられて追撃作戦に参加。ウラキら新米パイロットを導きつつ勇戦するが、翌14日早朝、待ち伏せていたドム・トローペンに奇襲され、ラケーテン バズのゼロ距離射撃をコクピットに受けて戦死を遂げた。

ラバン・カークス



【登場機体：ガンダムAOD-03】

「フォーメーション3だ 一気に叩きに行くぜ！」

搭乗：○○

果たせなかった夢

連邦軍オーストラリア・トリントン基地所属のMSテストパイロット。UC0083年10月13日夜、揚陸艦アルビオンがトリントン基地に搬入した2機の新型MSのうち、ガンダム試作2号機がデラーズ・フリートによって奪取される。カークスはガトーの離脱を阻止するためザクで出撃するが、格納庫から出た瞬間を敵ドム、トローペンに狙われ、すれ違いざまにヒートサーベルで両断され死亡した。

カークスはくせのある黒髪を長めに伸ばした若い士官だった。態度は粗野で、しばしばその荒っぽい言動をバニングにたしなめられることが多かった。彼は初めて見る新型ガンダムに心を躍らせていたが、ついにそのコクピットに乗り込むことなく死んでしまった。

カレント



【登場機体：ガンダムAOD-03】

「ふん、バニングのスケベ野郎に指揮を渡すものか」

搭乗：○○

功を焦った代償

連邦軍、オーストラリア・トリントン基地に所属するテストパイロット教官、MS戦術指揮官。不精髭を生やした中年の士官で、バニングと同じく一個小隊の指揮、教育にあたる。同僚であるバニングに強いライバル意識をもっている。

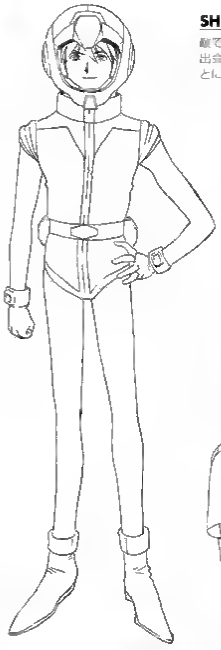
UC0083年10月13日夜から翌日朝にかけての、「ソロモンの悪夢」アナヘル・ガトーによるトリントン基地襲撃、およびガンダム試作2号機強奪事件において、水際から基地を遠距離ミサイル爆撃したジオン軍ユーコン潜水艦を探索、撃破する任務を与えられる。小隊を率いて出撃した彼は、敵を偽り、功を焦って自分の隊だけでガンダム試作2号機も奪還しようと目論むが、ガトーのガンダムに返り討ちにされあえなく戦死、彼の小隊も全滅の浮き目にあう。

シロー・アマダ

『機動戦士ガンダム第08MS小隊』

「俺は、生きる！生きてアイナと添い遂げる！」

階級：少尉



SHIROH AMADA

敵であるアイナ　サハリンとの出会いが　彼の運命を変えることになる





第08MS小隊、結成

シロー・アマダは士官学校を卒業したばかりの連邦軍青年士官である。はじめサイド2で任務に就いていたが、ジオン軍のBC兵器による虐殺で任地を失い、辞令を受けて地球の陸戦部隊に転任。

着任地へ向かう途中のUC0079年10月6日、味方のグムがザクに追われているのをシャトル内から見つけてボールで出撃。敵のカスタム・サクと相打ちになる。宇宙を漂流していた廃艦に緊急避難したシローは、このときザクに乗っていたジオンの女性テストパイロットアイナ・サハリンと知己を得る。彼にとって運命の出会いとなったこの日は、名高いギレン・ザビの大演説が行われた日でもあった。

地球に降りたシローは、地上戦装備の量産型カンダムを装備した「第08MS小隊」の隊長として着任。問題児揃いの隊員たちに手を焼きながらも着実に任務を



▲アマダ少尉が操縦するガンダムEz8。市街地でノリスが駆るグフカスタムと対決する

遂行していった。なかでも、これまで孤高を保ち、独自の行動原理でジオンに対抗してきた現地ゲリラ勢力と彼との間に、限定的ながら友好的な関係が築かれ、共闘までするに至ったということは、特筆に値する。

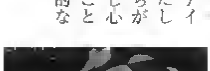
オデッサ作戦も近づいた頃の作戦行動で、シロー以下の第08MS小隊は、ジオン軍ギニアス サハリン少将の秘密基地で密かに開発されていた高機動重MAアプサラスのテスト飛行に遭遇。その圧倒的な火力と機動力に翻弄されながらも、部下であるサンダース軍曹の勇戦により撃退に成功する。これは連邦軍がアプサラスを確認した最初の事例であった。

アイナとの再会

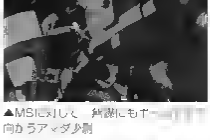
この遭遇戦の報告により、連邦軍はアプサラスに関する調査を開始した。ゲリラ勢力から情報を得たシローはジオン軍射爆場を突き止め、6日間にわたる待ち伏せの末、アプサラスの捕捉に成功。シローはクレハスの底を飛行するアプサラスにガンダムで組み付き、その際の接触通信によって、敵のパイロットが、共に宇宙を漂流したアイナ・サハリンであることを知る。

このとき、シローに組み付かれたままバランスを失ったアプサラスは山岳地帯に不時着した。あと一歩で谷間に転落するという極限状態のなか、シローはアイナに愛を告白。連邦の士官とジオンの名門の娘という身でありながら、吹雪のすさぶ山中、二人はつかのま互いに心を通わせたのだった。

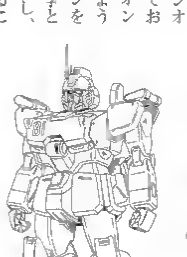
地球に来る前のシローはジオン軍の非道な部分しか見えておらず、「一人でも多くのジオン兵を殺すんだ」と公言するような人物だった。連邦、ジオンを問わず多くの軍人たちが戦争という極限にあって視野狭窄し、戦いの相手が同じ人間であることすら忘れかけていくなか、シローはジオンの人間であるアイナと運命的な出会いを果たした。彼は敵であっても気持ちが通じること、ジオン兵も同じ心を持った人間なのだということを知り、戦争に対して根源的な疑念を抱くのだった。



▲MSに対して、[illegible]向からアッグ少尉



▲[illegible]が改修された[illegible]熱帯地でも行動が可能





RB-79 BALL

GM支援用の戦闘用ポット。これはマゾンガン装備タイプである

RX-79(G)Ez8

[illegible]用パーツを加えて、現場でカスタマイズされたガンダム

カレン・ジョシュワ

『機動戦士ガンダム第08MS小隊』

「倒れるものを止めた馬鹿は、ホント、強いもんだ」

階級：曹長

KAREN JOSHUA

サンダースとともにレローを補佐する有能なパイロット







▲[illegible]、[illegible]わらず最初はアマダ大尉を小馬鹿にしていた



▲頭部が破壊されてしまった[illegible]ムのものを代用している

地球出身の元医学生

地球連邦軍の女性兵で、陸戦用ガンダムを装備した「第08MS小隊」のナンバー2隊員。女性ながらかなり大柄な体格で、性格も豪放、戦場においては冷静にして的確であり、パイロットとしての腕前は一流である。だが彼女は扱いづらい問題児として連隊でも有名で、これまで着任してきた小隊長を何人も心労で倒れさせている。

自らの戦闘経験と腕前に対する自信から、新しく小隊長として赴任してきた新米士官ンロー・アマダをはじめは侮っていたが、何度かの出撃ののち彼が未熟ながら信頼に足る人物だと認めると、レローをよく補佐し協力を惜しまないようになった。

戦闘ではサンダースと共に両翼を固め、時には別動隊を指揮して挟撃戦を行うこともあった。特に第08MS小隊の2度目の出動となった、UC0079年10月の敵陣攻略作戦では陽動部隊としてジオン軍の要塞を正面から攻撃、粘りのある指揮ぶりを発揮し、敵の苛烈な攻撃に対し長時間にわたって持ちこたえ、作戦を成功に導いている。

カレンはもと医学生という珍しい経歴を持ち、死別した夫も連邦所属の軍医であった。彼女は、弱気になったり規律違反を犯したりした味方をしばしば殴打したが、しかしそれは自分と仲間の命を心から大事に思うがゆえの行動なのである。





RX-79(G)

陸戦用量産型ガンダム 砂漠専用タイプ

RX-78のパーツで組まれた機体のため ムよりも高性能

テリー・サンダースJr.

『機動戦士ガンダム第08MS小隊』

「俺は……俺は……死神じゃない！」

階級：軍曹

TELLY SANDERS Jr.

「死神サンダース」の異名をもつ。顔に似合わず性格は温厚





▲サンダースは、コウのノックスを振り切ろうと躍起になる



▲宇宙戦力メインで……ために、ト戦は苦手なようだ

死神と呼ばれた男

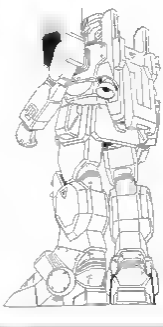
地球と宇宙の各地で戦いを経験してきた叩き上げのベテランパイロット。これまでにジムでザク6機を撃墜したという華々しい記録を持つ。しかし、彼の所属した隊は、ことごとく3度目の出撃で彼を除いて全滅するので、味方からは「死神サンダース」と呼ばれて忌み嫌われている。

UC0079年10月6日、サンダースの隊は連邦の勢力宙域に侵入したザクを迎撃するために出撃して返り討ちにあい、彼を除いて全滅。彼自身も戦闘不能に陥るが、シロー・アマダの作業用ポールに命を救われ辛くも生還し、以来ノローを命の恩人として敬う。

同日、地球の陸戦部隊「第08MS小隊」への転属の辞令を受け、シローとともに任地に着任、陸戦用ガンダムを駆り、豊富な戦闘経験でカレン曹長とともに若いノローをよくサポートして働く。しかしその心の裏では「3度目のジンクス」がまたも起こることを激しく恐怖していた。

第08MS小隊の3度目となる出撃で、彼らはジオン軍の新型重モビルMA「アプサラス」に遭遇する。アプサラスは悪夢のような火力で小隊を翻弄するが、サンダースの捨て身の攻撃を食らって撤退。第08MS小隊は全員無事に生還し、彼は不吉なジンクスを自ら打ち破ったのだった。





RX-79(G)
陸戦用量産型ガンダム
砂漠専用タイプ

エレドア・マシス



「機動戦士ガンダム第08MS小隊」

「撃て？　躊躇に？　畜生！　ずるいとこの星がなり！」

声：佐良

ミュージシャン志望の兵士

地球連邦軍兵士で、地上部隊第08ＭＳ小隊所属。パイロットとしてホバー車に搭乗し、主にアンダーグラウンドナーでの索敵にあたる。ミュージシャン志望である彼は特に耳がよく、敵戦力の位置や数、兵種などを正確に聴き分けることができる有能な人材である。だが、奔放な彼は上官に対しても軽口ばかりたたき、自分勝手な行動が多いため、連隊の中では問題児として通っている。

ＵＣ００７９年10月、待機命令を無視して、近隣の村へ遊びに繰り出したエレドアはミケルともども、ジオン軍の捕虜となってしまう。なんとか自力で脱出に成功した彼は、作業用サクタンクを強奪して逃走するが、その際に左肩に銃撃を受けて重傷を負い、後方の野戦病院へ護送された。

ミケル・ニノリッチ



「機動戦士ガンダム第08MS小隊」

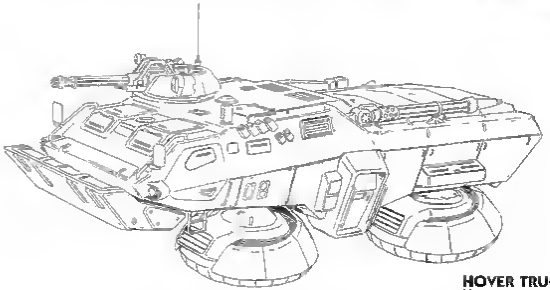
「でも日日、心配しないで、僕は必ず生きて帰るから」

声：佐良

戦争よりも恋が大事

まだ幼さが残る地球連邦軍の新兵。パイロットとしての訓練を修了した後、陸上部隊への配属を命じられ、ＵＣ００７９年10月６日、直接の上官となるシロー・アマダ少尉と同じシャトルで地球に降下、第08ＭＳ小隊に着任した。ＭＳパイロットを志望していたが叶わず、ハノクアップ要員として索敵車の砲手を担当。性格はきわめて陽性で、先任のエレドアにあごで使われてぼやきながらも、真面目に任務に取り組む。

第08ＭＳ小隊が初の配属であるため実戦経験に乏しく、やや揺え性のないところがある。重ＭＡアプサラスとの遭遇戦では、恐怖にかられて無断で発砲、森に伏せていた小隊を敵に発見されてしまうという失態を演じる。故郷にＢＢという恋人を残してきており遠距離恋愛中。



HOVER TRUCK

エレドア　ミケルが乗り込む戦闘用ホバートラック

ユウ・カジマ

『機動戦士ガンダム外伝』

「・・・・・・・・・」

階級：大尉





YOU KAJIMA

寡黙で冷徹な人物と評されかちであるか　仲間意識は強い

ガンダムを倒した男

一年戦争後期　連邦軍パイロットの間で秘かに流行していたシミュレーターが存在していた。それはRX―78ガンダムのパイロットで知られるアムロ・レイ青長が残した戦闘データである。当時からアムロ青長はニュータイプと噂され、その戦闘データは驚異的な数値を示していた。このデータを元にシミュレーターが制作され、MSパイロット育成に一役買ったわけである。が、そのままのデータではあまりにもシビアで、一般パイロットならば秒単位で撃墜されるのがほとんどであった。そのため、シミュレーションではマイナーダウンして使用されるのが常であった。だが、なんとオリジナルデータでシミュレーション上のアムロ&ガンダムに勝利したパイロットがいた。それがユウ・カジマ大尉だったのである。

ユウ・カジマ大尉は、もともと戦闘攻撃機のパイロットであり、そのころから操縦技術においては、突出した才能を見せていたようだ。だが、偵察任務中にMS―05ザクと遭遇。MSの機動性を目の当たりにした彼は、「これからの軍事作戦はMSが中心になる」と判断し、連邦のMSパイロットとして訓練を受けることを希望した。

当時の連邦軍は、RGM―79ジムを完成させた後、「実験部隊」という一種のモルモット部隊を組織している。これは、



MORLINE KITAMURA

実験部隊のオペレーター　エースパイロットのユウに憧れる



▲BD 11に乗りる前は　通常タイプのジムを整備としていた



▲ユウリップ　とは　強い信頼関係で結ばれていた

ＭＳのあらゆる状況に応じた運用ノウハウのデータを収集する目的としていた部隊である。カノマ大尉はほどなくこの部隊に配属され、数々の戦果によって貴重なデータを数多く提供していく。この部隊で彼は、「ＥＸＡＭ」と呼ばれるシステムを搭載したＭＳの専属パイロットとなる。先のシミュレーション記録も、このＭＳを使用しての結果らしい。だが、このＥＸＡＭについて、連邦の公式記録にはいっさい記載がされていない。わずかに残った記録から、一連のＥＸＡＭ搭載のＭＳは「ブルーディスティニー」と呼称されていたことがわかった。

ＥＸＡＭは「ニュータイプの操縦するＭＳの機動性を機械的に再現する」システムであった。ＥＸＡＭを搭載すれば非ニュータイプのパイロットであっても、ニュータイプに対抗できるという。ただ、そのぶん操縦が難しくなり、エース級のパイロットでなければ十分に性能を引き出せないという結果になってしまった。

だが、当時の連邦において、ニュータイプに関する研究はほとんど行われておらず、これらのデータは、いったいどこからもたらされたものなのかという疑問が残る。

一説によればこのＥＸＡＭを開発したのは、クルスト・モーゼス博士という人物であったらしい。彼はジオンからの亡命者だったという記録がある。ジオンのニュータイプ研究部門、フラナガン機関に所属しており、ＥＸＡＭのデータもそこからもたらされたと考えられる。

ＥＸＡＭを搭載したＭＳ、ブルーディスティニー1号機については、不十分ながら交戦記録も残されている。その中には、驚くべきことに同じＥＸＡＭシステム搭載のジオンＭＳとの戦闘も記録されていた。さらにはブルーディスティニー2号機が、一人のジオン兵に強奪され、同3号機が追撃に出ている。そのパイロットもカノマ大尉であった。これらの戦闘でＥＸＡＭ搭載型ＭＳはすべて破壊され、研究データもいっさいが消去されている。このことに関して、軍関係者は堅く口を閉ざしているため、これ以上の調査は困難となってしまった。



▲ア[illegible]ド[illegible]とともに作戦行動中
青いノムと接触する



▲カノマ[illegible]ＢＤ１ブルーディスティニーと
なり[illegible]人と対決する





RX-79 BD-1/3 BLUE DESTINY

ブルーディスティニー[illegible]１号機から
3号機まで製作されたが　性能的には
どれもまったく変わらない

フィリップ・ヒューズ

機動戦士ガンダム外伝
「まったくもう、やってらんねーよ」

階級：少尉



PHILIP HUGHS
だしき上げていまの階級になったタイプである。フュリス准尉とも親しい

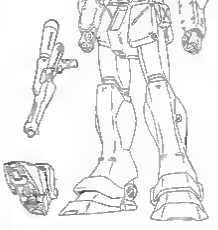


陽気なテストパイロット

フィリップ・ヒューズ少尉は実験部隊の中でも、カジマ大尉とともに古参の部類に入る。幾多のMS戦闘を経験しており、カジマ大尉に及ばないもののMS操縦テクニックにおいては、第1線級の腕前をもつ。だが、生粋の職業軍人という風貌でもなく、その言動は模範的とは言い難いものが目立つ。本人の弁によれば、コロニー育ちで仕事にあぶれたために軍へ志願、MSパイロットになったのだという。かなりドラスティックな印象をもつが仲間内での評判は実力、人柄ともによかったようだ。

彼も一連のEXAM搭載型MS「ブルーディスティニー」に遭遇したパイロットの一人である。だが、これに関しては実験部隊の戦闘記録にも残されていない。ほかの部隊での目撃例も、ジオン型の両肩が赤いMSであったり、陸戦型ジム系であったりと曖昧として輪郭すらつかめていない。だが、共通して言えることはどれも驚異的な機動性を誇り、「蒼い」機体であったことだけである。この事件に関しては、中心にいた人物たちが固く口を閉ざしているために多くを知ることはできないが、噂では対ニュータイプ用に開発されたMSであったという。

ヒューズ少尉は一年戦争を生き延び、終戦後に除隊、生まれ故郷のコロニーに戻り、パン屋を営んでいる。

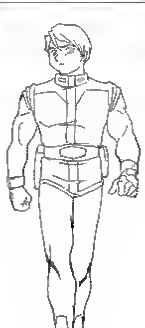




RGM-79G GM COMMAND
さまざまなバリエーションが展開されたジム。この機体もそのひとつで、内部はカスタマイズされている

サマナ・フュリス

『機動戦士ガンダム外伝』
「戦MS無敵沈黙、後はザコだけです」
階級：准尉



SUMMONA FULIS

真面目な性格をよくフィリップ少尉にからかわれるが　その実力を認めた上である



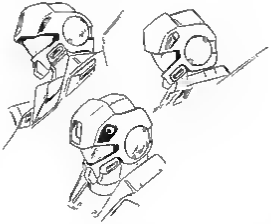
生真面目という利点

サマナ・フュリス准尉は、実験部隊のパイロットであった。戦闘記録については極秘裏に組織された部隊のため、公表されている情報も少なく、抹消されているものも多い。それでも、彼が一年戦争を生き残ったパイロットであるという事実からも、実力は標準以上のものがあったに違いない。

真面目な性格であったようで、それが戦闘スタイルにも表れていたらしい。基本にあくまで忠実で、兵学校の教科書どおりの戦い方であった。相手の敵がエース級のパイロットであった場合、彼のような戦闘スタイルは、行動を予測されてしまうという弱点になるが、反面、データ収集という観点からはフィリップ少尉のようなアクの強い戦い方よりも、バランスのとれたフュリス准尉のほうが有益なデータが収集される場合が多かった。ゆえに、技術者の間では、彼から収集した戦闘サンプリングデータが、もっとも信頼されていたという。

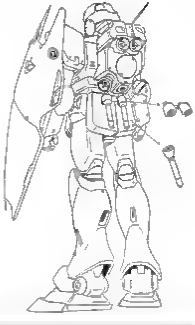
フュリス准尉はフィリップ少尉とともに、カプマ大尉を支援し、ジオン側のEXAM搭載MSと交戦しているが、これも非公式となっている。

彼は、終戦後も軍にとどまり、パイロットを続けているようだ。



RGM-79G GM COMMAND

ジオンMSに対し性能的に見劣りしたGMで戦い抜けたのは　ひとえにパイロットの技量に負けない



COLUMN

パーソナルカラーに関する考証

これまで航空機および陸上兵器において機体色は、カモフラージュ つまり「目立たないこと」が第一条件とされた。これは「速やかに敵の領域内に侵入、敵機に察知されることなく目標物を撃破する」ことを目的とするならば しごく当然の配慮である。MSにおいてもそれは適用されたようである。一部の試作型MSを除いては 機体色は 部隊内、配備地域 もしくは作戦内容によってそれぞれに統一されていた。

だが、初めてMSを開発・実戦投入を行ったジオン軍では エースとして認められたパイロットに特例として、自機MSをパーソナルカラーに塗装することを認めていた。現在よく知られているものでは、シャア・アズナブル大佐の赤いMS-06Fザクや黒い三連星のMS-06R-1高機動型ザク、シン・マツナガ大尉の白いMS-06R-1高機動型ザクだろう。本来ならば機体が識別できるという事実は パイロットにとって不利な要素にほかならない。だが、エース級のパイロットになると、自機を識別させることで敵機へ無言の圧力を与えることが期待できるのである。もっとも顕著な例がシャア・アズナブル大佐の赤いMSである。彼の赤いMSが戦場に現れただけで 味方にはこの上ない高揚感を敵には恐怖感を与えたという。エースパイロットのパーソナルカラーが戦闘フィールドを支配する場合もあったのだ。また、ジオン軍上層部がパーソナルカラーの使用を認めたのは 国民の士気高揚を目的とした宣伝に使用するためであった。パーソナルカラーに彩られたエースパイロットのMSは、度々軍の公式写真に登場し 子供たちの人気を呼んだ。

MS-09ドムの機体色に関して珍しいエピソードがある。一年戦争中期、キンリア少将の命令で地球に降下したガイア少尉以下黒い三連星の3名は、新型陸上用重MSドムを受け取っている。このとき 量産1号機ドムの機体色は彼らのパーソナルカラーであった、ブラック、グレー パープルに塗装されていた。以後 その機体色がそのままドムの正式塗装として採用されたのである。

逆に連邦軍では、ジオン軍に見られるパーソナルカラーを施したMSの例はない。これは考え方の違いによるものだろう。

通常 兵器運用に際して 個人情報が敵側及びマスコミに流れるのは避けるべき事態ではある。戦争といえど、それは殺戮行為にほかならず そのことへの賛辞か個人へ及ぶことは軍として遺憾であり 避けるべき事態であった。そのような理由から 連邦軍内ではMSへのパーソナルカラーの使用は認められなかったようだ。

たた さすがのジオン軍も、あの悪名高きコロニー毒ガス注入作戦の際は例外だったようである。作戦を行ったMSの機体色はすべて標準色に塗装され、所属部隊ナンバーすらも消されていた。

パイロット名鑑

〈ジオン公国軍編〉



シャア・アズナブル

『機動戦士ガンダム』

「戦いは非情さ、そのくらいのことは考えてある」

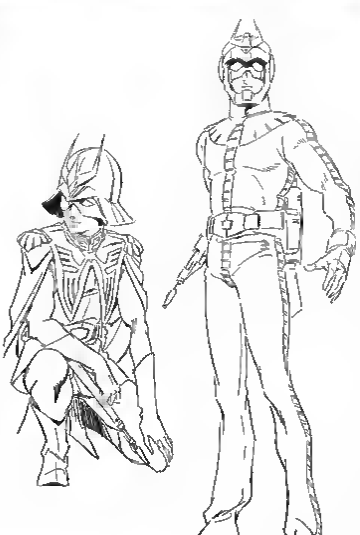
声優：少佐→大佐

シャアの出生

シャア・アズナブルこと、キャスバル・レム・ダイクンはジオン・ズム・ダイクンの長男としてサイド3に生まれた。そして、それは宇宙世紀の激動期の幕開けでもあった。宇宙移民の自主独立を標榜するコントリズム運動の中心的人物として知られるジオン・ズム・ダイクンはシャアの生まれる前年、宇宙世紀0058年にジオン共和国の樹立と、国防隊の発足を宣言していたからである。

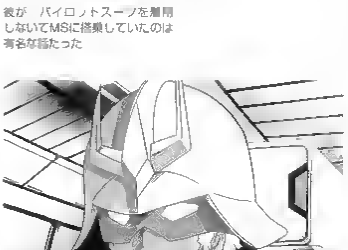
こうしてジオン共和国と地球連邦の間に緊張感が高まり、宇宙が一触即発の危機を迎えていた中、ジオン・ズム・ダイクンが倒れた。おそらくは、これはそれまでの激務がたたっての病死であったと考えられる。しかし、連邦政府の宣伝もあり、これはジオン共和国内の内紛の結果として暗殺されたのであったという認識が一般に広まった。この認識は現在も広く流布しているが、当時の資料は乏しく真相は藪の中である。

当時、ジオン共和国中枢は、この暗殺説により生まれた疑心暗鬼によって内部から崩壊するかに見えた。しかし、それを救ったのが委名高いデキン・ソド・ザビであった。ジオンのいまわの際、後継の指名を受けたとするデキンは聖年公王制を敷き、ザビ家による独裁体制をとる



CHAR AZNABLE

後が　パイロットスーツを着用しないでMSに搭乗していたのは有名な話だった



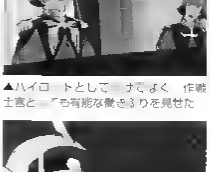
▲古い士官服に　ヘルメットと　マスクの　あまりに　も有名なシャア大佐。表向きは顔に大傷を負っているというが

ことによりジオン公国の人心を掌握、その危機的状況を乗り切ることに成功したのである。だが、その過程で切り捨てられた存在があった。反ザビ家と一括りに処断された彼らの中で、特にジオンと近しい立場にあった者たちは、デキンがジオンを暗殺したと信じた。そして、その中の一人、ジンバ・ラルはジオンの盟友形見である長男キャスバルとその妹アルテインアを連れて地球へ逃亡したのである。

その後、ジンバ・ラルによりデキンこそ父ダイクン暗殺の黒幕であり、圧政の張本人と教え込まれたキャスバルは、一年後には復讐を決意。また同時に、その復讐をスペースコロニーの自治独立を自らの私利私欲に利用したザビ家に対する懲罰であると正当化することとなった。

こうして、シャア・アズナブルという名前と戸籍を手に入れた彼はサイド3の士官学校に入校、ジオン軍人としてザビ家に近付こうと考える。その中で、問題となったのが自身の顔である。彼はジオンの息子として、数年前まではザビ家とも付き合いがあった。つまり、ジオン公国の中枢に近しい者の多くにシャアは顔を知られているのである。その結果、シャアが選んだのが自身の顔を仮面で隠すという奇態な行動であった。一応、酷い傷跡があるため、との理由でその許可を取り付けた彼だが、もちろん実際にその顔を傷つけたり、ましてや整形を試みたりはしなかった。恐らくは後々自分がダイクンの息子と名乗るとき、なんら手を入れられていない自分の顔が広く大衆にアピールすると考えたのであろう。

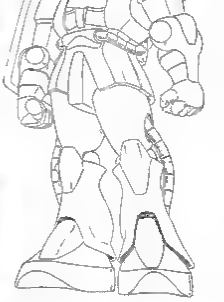
こうして士官学校に入り込んだシャアはその生来の素質と、たゆまぬ努力により優秀な成績を収める。更に、幸運なことにシャアは自分と同世代のザビ家の四男、ガルマと同期となった。シャアは世間知らずのおぼっちゃま肌のガルマに巧妙に接近、彼の信頼を勝ち取り親友という立場を手に入れる。これによりシャアの出世は約束されたようなものであった。しかし、これからが赤い彗星伝説の始まりであった。ジオン公国が連邦に宣戦を布告して2週間後に行われ

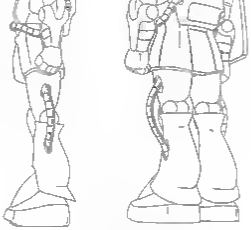


▲パイロットとして一すぐれよく 作戦士官と一ても有能な働きぶりを見せた



▲パーソナルカラーとして 赤いMSに搭乗する





MS-06S ZAKU II

士官クラスが搭乗するザクは一般パイロットのものよりも性能が高い

たルウム戦役。この戦いは、従来の宇宙艦を中心とした編成で挑んだ地球連邦艦隊がMS部隊を中心としたジオン公国に敗れ去った戦いとして知られるが、それ以上に赤い彗星のシャアの存在が敵味方に広く知られた戦いとして知られる。そして、この戦いはシャアの尋常ならざる技量を語る絶好のエピソードとして、後に作られた数々のフィクションで必ず触れられている。ただ、かなり装飾過多に描かれているものもあるため、この史実を後の創作だと信じている人も多い。だが、シャアがここで通常のMSの3倍の速度で移動し、単身宇宙戦艦5隻を撃沈するという戦果を上げたのは紛れもない事実であった。

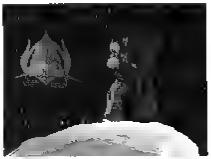
エースの条件

シャアの戦果はほかのエースパイロットと比較して、必ずしも卓越しているとは言い難い。MSの撃墜数に限れば一年戦争末期に生まれた数々のエースパイロットとは比べ物にならないほど少なく、一騎当千の戦果を上げたMAのパイロットと比較すればその戦果は取るに足らないとすらいえる。そうであってなお、シャア・アズナブルをトップエースとして信奉する者が多いのには三つの理由がある。まず、彼が優れた戦略家として単身ではなく、部隊として多くの戦果を上げていること。二つ目は彼が一年戦争を生き残ったこと。そして最後は、連邦のエース、アムロ・レイ曹長のライバルと見なされていることだ。アムロ・レイは連邦のニュータイプ部隊として知られる第13独立戦隊のエースパイロットであり、彼が使用したガンダムは先に挙げた大戦末期のトップエースをことごとく葬っているのである。にも拘わらず、シャアはアムロ曹長の操るガンダムと再三にわたる戦いを経て生き残っているのだ。

ガンタムとの死闘

最後に、ガンダムとの数々の死闘について触れておこう。連邦初のMSであるガンダムと、その運用艦であるホワイトベースを初めて確認したジオン部隊こそシャアの率いるムサイ艦であった。そして、それ以後しばらく、シャアはガンダム追撃の任に就くことになる。

その初期の追撃戦で特に知られているのが大気圏突入寸前を襲った作戦であろ



▲シャア大佐の指揮官用のMS-14ゲルググとララァ少尉のMAN-08エルメス



▲テキサスコロニーとRX-78ガンダムと交戦するシャア大佐機



MS-14S GELGOOG

ガンダムと同様のビームライフルを装備したMS



MSM-07 Z'GOK

このチューンナップされたMSでジャブロー攻略を行った

う。シャアは3機のザクを率い、自ら真紅に塗ったサクで出撃。タイムリミットを過ぎれば、そのまま大気圏に突入して燃え尽きてしまうという危険なタイミングでの戦闘は過去に例がなく、ガンダムの撃破も可能と思われた。しかし、ガンダムはMSとしては類を見ない大気圏突入能力をもっており、シャアは戦術的な敗北を喫することとなった。だが、戦略家としても希有な能力を示すシャアは、ホワイトベースの進入角度を変えさせることによって、ジオン勢力圏下に降下させることに成功したのである。

だが、そこで再会した地球方面軍司令官ガルマ＝ザビをホワイトベースの攻撃から守りきれなかったということで、軍を放逐される。

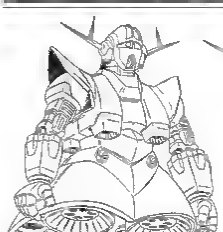
それを救ったのは突撃機動軍司令であり、ガルマの姉でもあったキシリア・ザビであった。これにより大佐に出世したシャアはマ・クベ大佐の指揮官として大西洋上でホワイトベースを捕捉。その追跡を続けることによって、ジオン軍として初めてジャブローに潜入。さらにキャリフォルニア・ベースと連携してジャブローに攻撃を仕掛けている。

この戦いでシャアは、連邦の量産型MSであるズムの撃破を行っているが、これ以降、機動巡洋艦ザンジバルで宇宙に戻り、ガンダムとの度重なる戦闘を除き、ほとんど個人的な戦闘を行ってはいない。

むしろ、フラナガン機関と連携してのサイコミュの実戦投入に積極的に関与するなど、一パイロット、一エースを越えた働きを見せた。

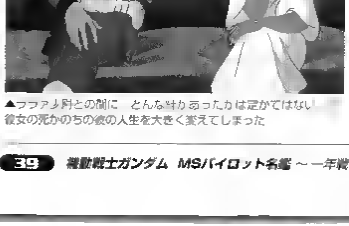
そして、シャア最後の戦いがア・バオア・クーにおいて行われた。その戦いは最新のニュータイプ用MSである、ジオングに乗り込んでのものであった。だが、結果はガンダムとの相討ちに終わり、双方ともに辛うじて生き残るというものであった。

だが、ニュータイプを唱えたジオン・ズム・ダイクンの息子として、ザビ家と戦ったニュータイプとして、またパイロットという枠を越えて、シャアの存在は長らく語り継がれることとなった。



MSN-02 ZEONG

サイコミュシステムを搭載した初のMS。未完成の実験機ではあったが十分な戦果を発揮した。



▲ララァ亡き後の闇に　どんな絆があったかは定かではないが彼女の死がのちの彼の人生を大きく変えてしまった

黒い三連星

「機動戦士ガンダム」

「連邦のモビルスーツ 敵ほどではないわ」

担当：大前

モビルスーツの運用を確立した功労者

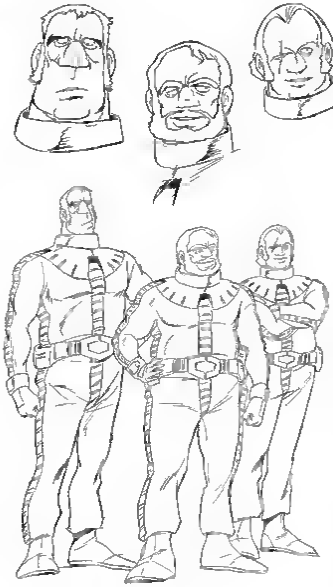
一年戦争では数多くのエースが生まれた。だが、その中でもチームとして名前が知られているのは隊長のガイア以下、オルテガ、そしてマッシュの3名からなる「黒い三連星」ぐらいのものであろう。

そんな彼らの名前をつとに高くしたのが一年戦争開戦からわずか2週間ほどして行われたルウム戦役であった。旧来の宇宙戦艦を主体とする連邦軍宇宙艦隊に対し、MSを主体とする機動部隊で戦いを挑んだジオン軍が勝利を収めたことで知られるこの戦いだが、その中でも特に知られているのがこの黒い三連星の働きであった。というのも、彼らはその巧みなチームプレイで宇宙艦隊の司令官であったレビル将軍を捕虜にすることに成功したからだ。

この戦功もあって、以後彼らは突撃機動軍の司令を務めるキシリア・ザビの直属となり、遊兵としてさまざまな局面での活躍をみせた。

だが、それだけの戦歴にあって、彼らに対する評価は必ずしも芳しいものとは言い難い。

当時は単機での戦闘が一般的であり、特に大戦末期には連邦軍の白いMS、ガンダムの活躍もあり単機でいかに高い戦



ORTIGA, GAIA, MUSH

3機の連携攻撃で多大な戦果を発揮した黒い三連星



▲地球重力下において　初めてジェットストリームアタックをかける黒い三連星

果を上げるかが問題にされていた時代である。そんな中で、彼らは三機一体となっての戦法に固執した。それは当時のパイロットたちから、あるいは当時のパイロットたちから絶対視する者たちから卑怯者のそしりを受ける行為であったのだ。

だが、それは間違った評価であり、むしろ、彼らは時代に先行しすぎた用兵家であったといえるであろう。

一年戦争で、あるいはそれ以降の戦いで、戦いの決着をつけたものはいったい何であったろうか？

一騎討ちで敵の隊長機のMSを撃破したからなのか？　あるいは、ただ一機で敵の心胆を寒からしめたカスタマイズMSの活躍であったのか？

答えは否である。

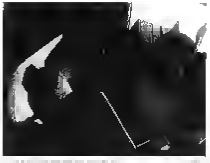
もちろん、最終局面においてそのような戦いが行われたのは事実である。しかし、その戦いにいたるまでの戦局の推移に注目していればそれが誤りであることは明白だ。確かに、たった一機で信じられない戦果を上げるエースが存在するのも事実である。だが、MSであれ、MAであれ、そのような兵器によって戦局が左右されたということはない。

多くの戦いにおいて、その勝敗を決定づけたのは純粋な戦力差であり、戦略の優劣であり、兵站の充実であった。つまり、名もなき無数の兵士たちを必要な時に必要な戦線に投入できるだけの下準備であり、そのとき必要にして十分な最低限度の能力を発揮できるように行われた訓練や、整備された機体、十分に与えられた補給などであったのだ。

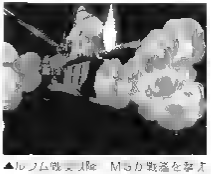
少し話がそれたが、その点において黒い三連星は画期的だったのだ。

彼らが現れるまで、MSの戦いでは単機が闇雲に攻撃を加えるか、あるいは単に歩兵教練の延長程度の協調しかしてこなかった。そしてそれ以上のことができるとは誰も考えていなかったのだ。だがそんな中で、黒い三連星の隼頭、ガイアはMSならではの機動力をいかした連携という誰もが考えつかなかった戦術を生み出したのだ。

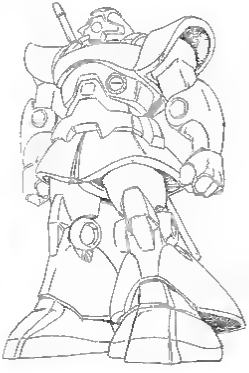
もちろん彼が生み出したのは戦術体系ではない。彼は、単に



▲[illegible]して　3機編成で攻撃を開始する黒い三連星



▲ルナム戦での隊　MSが戦場を駆ける光景が目撃されるようになる





MS-09 DOM

ホバリング機能の搭載により地上戦において飛躍的な機動性を獲得したMS

そのきっかけをつくったにすぎない。

だが、それは大きな一歩であった。

かつて、歩兵の支援のために開発された戦車が単体で敵を蹂躙する戦力に進歩したように、ガイアの発想はMSをあらゆる戦域で敵兵力を蹂躙し、拠点を防備する万能兵器へと進歩させる、その突破口となったのである。

ジェットストリームアタック

さて、それではガイアの確立した運用を振り返りつつ、黒い三連星の戦いを見つめていこう。

まず、忘れてはならないのが先に述べたルウム戦役での活躍である。その時、黒い三連星は自分たちの乗り込んだサクを黒く塗装して戦いに挑んだ。サクの基本カラーはオリーブグリーンであり、そこに深い意味はなかった。単に、古くから軍事物資にはその色が採用されてきており、また塗料としての安定性もよく、安価であることなどの理由があったにすぎない。なにせ、この色は当時の連邦宇宙軍の主力艦、サラミス級、マゼラン級にも採用されていた塗装であり、そのせいもあって深く考えるものがいなかったのであろう。

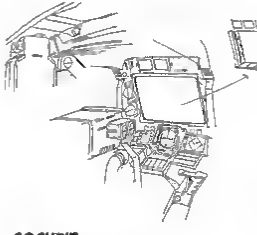
だが、幸いにしてジオン軍は軍装につ

いては比較的自由な風潮が強く、実力さえ伴えば自機を何色に塗り替えようが、多少の改造を施そうが文句を言われることはなかった。そんな中、ガイアは自らの率いる小隊において、宇宙空間における視認性を下げる塗装を指示する。

実際、黒い三連星の機体を見てみるとわかるが、彼らの機体は漆黒ではなく、黒をベースにしながらも濃紫色などを多用し、宇宙空間での視認性を下げるとともに、機体のシルエットの判別が困難なようにされていた。

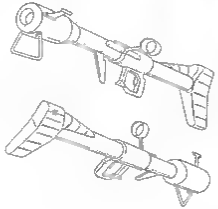
続いて、ガイアが採用したのが3機が一直線に敵に突っ込み、先頭の機体から順次攻撃を仕掛けていくという戦法、すなわちジェットストリームアタックだった。それまで、宇宙艦に対しての攻撃はバラバラに行われており、それがその標的の動きの予測を困難にし、攻撃の成功率を下げていた。また、多方向からの攻撃は、そのまま味方の誤射に巻き込まれる危険を常にはらむものであった。

それに対し、ガイア大尉はこのジェットストリームアタックによって、相手の動きをある程度予測の範囲に止めつつ、さらに一度のアタックで三度に渡る攻撃の機会をもつことに成功したのだ。黒い



COCKPIT

ドムの搭乗方法は「ダイレクトイン」と呼ばれる方式がとられている

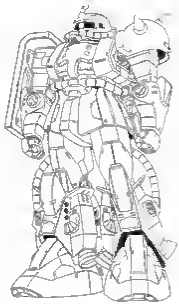


JIANT BAZOOKA

専用のバズーカ砲だが ほかのMSも使用できる



▲ルウム戦役での最大の功績は レビル将軍の拉致であった





MS-06R-1A ZAKU II
外観こそこれまでのザクⅡと大差ないが　内部構造はまったく別のMSである

三連星はこの戦法の採用により大きな戦果を上げ、以後も確実に敵艦を仕留める部隊として重宝されることとなった。

だが、彼らがMSの戦法に新境地を開拓したことが広く知られるようになったのは、MSの性能が飛躍的に向上し、戦闘がよりスピーディーに行われるようになってから。一年戦争が終戦を迎えてからであった。

あっけない最期

地球連邦軍の地球での一大反攻作戦として名高いオデッサの戦い。

この戦闘に、黒い三連星は新鋭の重MS、MS-09ドムを与えられ、ガルマの仇といえるホワイトベースを撃破し、さらにマ・クベ隊の後顧の憂いをなくすために派遣された。しかし、これが黒い三連星にとっての最後の戦いとなった。

この時、ガイア大尉は、対艦戦闘で培ったノエノトストリームアタックを対MS戦闘にも使えるようアレンジした戦法に絶対の自信をもって挑んだという。だが、結果は惨敗といえた。ガンダムに次々と攻撃をかわされ、部下を一人、また一人と失い、最後には自身もまたガンダムの前に敗れ去ることとなったのだ。

相手が一年戦争を通しての対MS戦闘のエースであったからといって、彼らにはなんの救いにもならなかっただろう。

そして、これは彼らの生み出した戦法があまりにシステマティックであり過ぎたという欠点を露呈するものであった。

だが、その一点のみでMSならではの機動性を活かした連携という新境地を切り開いた彼らの功績までもが失われることはないだろう。

事実、彼らの生み出した戦法はその後の戦いでも形を変え、さまざまな部隊によって用いられることとなったのだ。



▲MS-09ドムの正式カラーリングは　黒い三連星のものがそのまま採用されている

ララァ・スン

『機動戦士ガンダム』

「大佐といてください。邪魔です！」

階級：少尉



LALAH SUNE

彼女は人買い同様にフラナガン機関に引き取られ、実験に参加することになった

一夜にして生まれたエース

エルメスのパイロットとして知られるララァ・スン少尉は、エースパイロットとしてはかなり特異な存在であるといえる。いや、より正確にいうならばそれまでのエースパイロットという概念から見れば異質な存在、となるだろう。なぜならば彼女の登場後、エースパイロットとしてニュータイプというものが前面に押し出されるようになったからである。彼女同様ニュータイプとして高い能力を誇るパイロットたちは、訓練はほとんど受けていない、あるいは素養すら感じられないという印象を与えた。

ララァ・スンは戦災孤児としてジオン軍のニュータイプ研究機関であるフラナガン機関に預けられ、その過程で高いニュータイプ能力を発揮していたという。そして、ちょうどそのころジオン軍ではその能力を戦闘に利用するための装備、すなわちサイコミュが実用段階に達していた。それは、ミノフスキー粒子散布下でも遠隔操作が可能となるもので、その子機を連係させつつ目標の四方八方から同時に襲いかからせることが可能というものであった。その戦闘力はエース級のMS一個小隊に匹敵するとも言われた。実際ララァ少尉は訓練さえろくに受けていなかったにも拘わらず、初出撃でサラ



▲ニュータイプ専用MA　エルメス。サイコ[illegible]のみで　本体及びヒットのフルコントロールが可能である

こス級巡洋艦を多数撃破。その戦いぶりを見たベテランのパイロットは、護衛という任務を放棄して、ララァ少尉の操るエルメスの後方に下がってしまったほどである。

彼らの言葉を借りるならば、訓練さえ受けていない年端もいかぬ一人の少女の戦いぶりに、「バカらしく」なってしまったのだ。

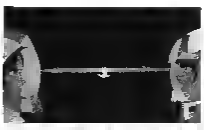
だが、その戦果は大戦末期に登場し、ニュータイプと噂されたエースパイロットたちの例にもれず、必ずしも大きなものではなかった。そしてまた、その最期は悲惨なものであった。

ニュータイプとしての悲劇

ララァ・スン少尉を語るとき、忘れてはならないのが彼女の後見人であり、恩人であり、恋人でもあったといわれる赤い彗星シャアの存在であろう。孤児であった彼女は、偶然、彼女のニュータイプ能力を見出したシャアによって悲惨な境遇から救われたとされている。まだニュータイプ研究の黎明期にあって、フラナガン機関に預けられた彼女の生活も後の強化人間とは比較にならないほど豊かで、伸び伸びしたものであった。そのためもあって、彼女はシャアに強い恩義と愛情を感じ、またシャアも彼女の中に垣間見た母性に強く引かれたといわれている。だが、そこにニュータイプとしての資質でシャアを上回る存在が現れたことから話が複雑になる。それこそ、連邦軍のトップエースであり、ガンダムのパイロットであるアムロ・レイ曹長である。

直接言葉を交わしたこともほとんどなかった彼と戦場で激しく共感したことが彼女にとって、いやそこに居合わせた3人のニュータイプにとって大いなる悲劇であった。

連邦軍のア・バオア・クー攻略に合せて最後の出撃をしたララァ・スン少尉は、初の本格的な作戦行動にも拘わらず、絶対の自信をもって挑んだといわれる。しかし、彼女がその戦いでは戦果らしい戦果をあげることはなかった。連邦のエース、ガンダムとの戦いで、オールレンジ攻撃を可能ならしめるサイコミュ兵器、ビットをことごとく撃破されたためである。さらに、その戦いの中でニュータイプとしての共感能力の拡大が裏目に出たのである。ララァ少尉はガンダムのパイロット、アムロ曹長と共感、まるでテレパシーで話し合うように互いのことを理解したという。だが、互いの心を理解したからといって、いま現在の状況が改変されるわけではない。結果として、混乱の中でアムロ曹長はララァ少尉をエルメスごと撃破。ララァ少尉は戦死することとなったのである。

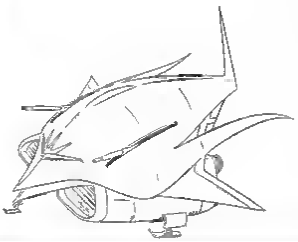


▲アムロとララァが出会ってしまった



MAN-08 ELMETH

連邦軍のホワイトベース クルーからは「とんがり帽子」と呼ばれていた



ランバ・ラル

『機動戦士ガンダム』

「たとえ素手でも任務はやり遂げてみせる」

階級：大尉





特殊部隊隊長の数奇な運命

ランバ・ラル大尉はパイロットとして
より、特殊部隊の指揮官として名を知ら
れた存在である。彼が指揮する通称ラン
バ・ラル隊は、一年戦争以前から数々の
ゲリラ戦を繰り広げており、その対象も
地球連邦軍にとどまらず、宇宙コロニー
内部で敵対する勢力、あるいはテロリス
トにまで及んでいる。

もちろん、これらの一年戦争以前での
戦闘ではMSを使用することはなく、あ
くまで歩兵特殊部隊としての活躍を見せ
ている。

一方、一年戦争の勃発以降、ランバ・
ラル隊は特殊部隊としてさまざまな活躍
を見せることとなるのだが、正規軍を相
手にしての戦闘が増えるに従い、MSを
その戦力の中核に据えるようになる。

ただ、そのいずれもが部隊単独で行わ
れた危険な任務ばかりであった。

彼はなぜ、そのような危険な任務ばか
りを遂行し続けていたのであろうか？

それは彼の父、ジンバ・ラルがザビ家
と敵対していたジオン派の重要人物であ
ったことに由来する。父の立場から、ラ
ンバ・ラル自身もまたジオン派と見なさ
れ、ジオン公国内では危険人物視されて
いたのだ。

事実、彼はザビ家がジオン・ズム・ダ

RMBA RAL

ジオンの側近であったジンバの
息子。ジオン ズム ダイクン
の忘れ形見 キャスバルとアル
テイシアとも親交があった



▲特殊部隊を率いるランバ ラルが ガルマの仇討ちとしてホワイトベース討伐を命じられた

イクンの唱えた理想を歪め、独裁に走っていると考えており、サビ家を処断することこそが自分の取るべき道だと考えていた。

だが、こう考えつつも地下に潜むしかできなかった多くの人々と異なり、ラルはもっとも手早く、確実と思われる方法を取った。

すなわち、自分を慕う者たちと共々、ザビ家への恭順を示したのだ。もちろん、昨日まで敵対していた相手の言葉が一朝一夕に認められるわけもなく、彼らは自らの行動でそれを証明する必要に迫られた。それこそが、ラルが特殊部隊という危険な任務を選んだ理由であった。

これは、設立間もないジオン公国軍の人材の不足という問題も関係していた。ジオン軍の捕虜から奇跡の生還を遂げた連邦軍将軍レビルは「ジオンに兵なし」と語ったが、事実ジオン軍には絶対的な人口も、優秀な人材も不足していた。そんな中にあって、単なる軍人という枠を越え、生粋の戦争屋でもあったラルの能力はジオン軍にとっては喉から手が出るほど欲しいものであったのだ。

また、ラルがこの取引の相手に選んだのは宇宙攻撃軍の司令であったドズル・ザビであった。彼は政治的な駆け引きを抜きに物事を考える猛将タイプの軍人として、単純に戦功を上げた相手には信用を置いた。そのため、ラルにとっても他のザビ家の人間と比べて取り入りやすかったという側面もあるだろう。

こうして、ドズルの腹心として数々の戦果を上げたラルは新鋭のMS、MS-07グフを与えられるまでの信用を獲得した。だが、その直後に与えられた任務が彼に災いした。ガルマの仇討ちのため、初めて地上に降りての戦闘が命ぜられたのだ。これは連邦軍の反攻作戦が近いことが予測されていたため、ホワイトベースを相手に戦力を抽出することができなかったための苦肉の策であったが、ラル隊の降下にあたっては最新鋭の機動巡洋艦ザンジバルを与えるなど万全の態勢で挑まれていた。

だが、本来宇宙を勢力範囲とするドズル配下の部隊が、キンリアの支配下にある地上で戦闘を行うという不自然な状況から地上では満足な補給も行われず、戦力をいたずらに消耗する結果となった。最後にはホワイトベースに白兵戦を試みるまでに追い詰められ、ランバ・ラルは戦死。ラル隊も事実上崩壊してしまった。

だが、単に上官としてではなく、同志として尊敬を集めていたラルの死に、部下たちは自らの死命を賭して自滅的ともいえる特攻をホワイトベースにしかけた。その攻撃も空しくラル隊は絶滅。結局初期の目的を達することはなかった。



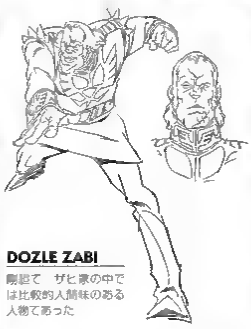
MS-07 GOUF

MS 06ザクよりも 重装甲 高性能のグフ。たか 固定 脚部に問題があった

ドズル・ザビ

『機動戦士ガンダム』

「私は軍人だ…ザビ家の伝統を作る軍人だ…」

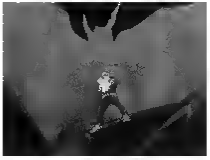


DOZLE ZABI

劇中でのザビ家の中では比較的人間味のある人物であった



▲量MAビグザムは、ドズルとともにノロモン海に消えていった



▲ニュータイプ能力に目覚めたドズルの背後に不気味な影を見る

無骨なる宇宙攻撃軍司令官

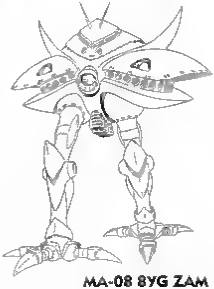
ザビ家の三男であるドズル・ザビは、ジオン公国宇宙攻撃軍司令として、一年戦争を通じてジオン軍の攻撃部隊を統括していた。だが、その任にありながらも、一年戦争の初期においては自らザクに乗り込んで、パイロットとしても活躍を見せた。

ドズルのパイロットとしての技量は決して低くなく、猪突猛進に過ぎるところをのぞけばエース級であったと言われる。ただし、司令官を守って共に突撃をせねばならない側近にすれば頭痛の種であり、彼らに諫められ、一年戦争後半には後方から指揮を取ることの方が多くなっている。

それでもなお、ジオン軍内部においてはドズルを慕う者は増えこそすれ、減ることはなかった。それは、政治家肌の人間が多いザビ家にあって、ドズルは骨の髄まで軍人であったからであろう。

彼は政治的な駆け引きを嫌い、常に正面から堂々と敵を撃破する戦法を好んだ。これはパイロットとしても、司令官としても変わることはなかった。また、現場の兵士の苦労をよく理解しており、彼らと苦楽を共にすることを厭わなかった。そして、何より重要なのが多くの場合、部下の勲功を正当に評価した点である。数少ない例外は、弟を守りきれなかったとしてシャアを軍より放逐したことだけであろう。だが、これはある意味正当な懲罰と受け取られ、兵士の士気を下げることにはならなかった。

そんなドズルであったが、その愚直な性格が災いしてか、身内からもソロモン攻略戦における捨て石とされ、その戦いの最終局面で試作段階のMA、ビグザムに乗り込んで出撃。大戦果を上げるものの、結局は撃破され戦死した。



MA-08 8YG ZAM

量産化の計画もあったMA。中央の主砲の威力が凄ましい

シャリア・ブル

『機動戦士ガンダム』

「ニュータイプ主義のために生まれるのです」





CHALLIA BULL

パイロットスーツは精神波を感知するニュータイプ専用のもの

不器用なニュータイプ

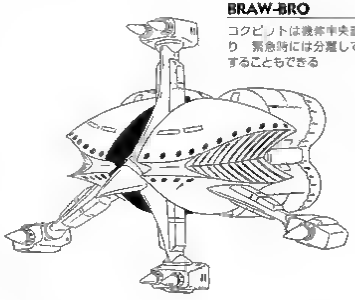
シャリア・ブル大尉は木星船団に団長として参加したことから、「木星帰りの男」として知られる。木星船団は、核融合炉に不可欠な重水素の採取を目的に多大な時間をかけて地球―木星間を往復するものである。

その長期の隔離状態のせいか、あるいは深宇宙の片鱗を垣間見たことによるのか、木星帰りの人々におけるニュータイプの発生率は高いと言われている。そして、その第一号が彼、シャリア・ブル大尉であった。ジオン軍のニュータイプ研究機関であるフラナガン機関は、彼を徹底的に調査し『シャリア・ブルに見るニュータイプの発現』というタイトルのレポートを提出しており、そのレポートは今なおニュータイプ研究の基礎資料として広く引用されているほどである。

ただ、木星から帰還し、戦死するまでの短期間の彼の行動を見ていると、ニュータイプであるということが、必ずしもその人間の幸福に寄与し得ないということがわかる。

シャリア・ブル大尉は木星からの帰還後、ギレン・ザビの下からその内情を知るために、キシリア麾下のニュータイプ部隊に派遣され、ニュータイプ用として開発された試作MA、ブラウ・ブロで出撃した。

彼は互いを牽制しあうキシリアとギレンという二人のザビ家の人間の間で利用され、結局どちらにつくこともできないまま戦場に駆り出されたのである。結果、戦死することとなってしまった。



BRAW-BRO

コクピットは機体中央部にあり　緊急時には分離して脱出することもできる

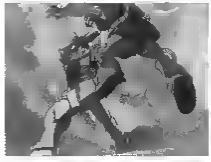
デニム

『機動戦士ガンダム』

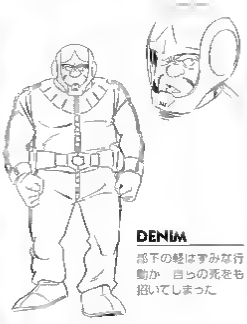
「我々は偵察が任務なんだぞ！」



▲功を焦る部下を抑しきれなかったとか　命を散らす結果になった



▲咳爆発を避けるため、ビームサーベルでコクピットを刺しにされる



DENIM

部下の軽はずみな行動か　自らの死をも招いてしまった

不運の小隊指揮官

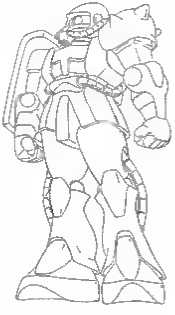
このデニム曹長はたたき上げの下士官パイロットであり、一般レベル以上の腕前をもつパイロットである。だが、残念ながら彼の名が広く知られているのは、その実力によるものではなく不運な巡り合わせによるものである。

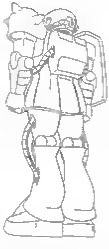
UC0079年9月18日。

連邦の極秘計画、V作戦を察知したシャア少佐は、3名の部下に連邦勢力下にあるサイド7の偵察を命じた。この3名からなる部隊を率いたのがデニム曹長だった。わずか3名とは言え、全員がザクのパイロット。しかも、ろくに防備も整備されていない辺境のコロニーと考えれば、偵察が失敗するとは考えにくい。だれしもがそう思っていた。そして、そこに油断が生まれる余地があったのであろう。功を焦る部下の暴走、それをデニムは抑えきれなかった。結局、偵察は一転して強襲へと変化することになった。そして、それが彼の名を戦史に残す悲劇を生み出すこととなった。

このときの戦闘により、後のエースパイロット、アムロ・レイの手によってガンダムが起動したのである。ザクを上回る能力を誇るガンダムの前に、デニムは部下を失い、さらには自らもコクピットを貫かれて倒されることとなった。

かくして、デニムの名は史上初のMS同士の実戦で死亡したパイロットの一人として、永遠に戦史に残されることとなったのである。





MS-06 ZAKU II

歴史に残る傑作機となったザク。この機体は宇宙用。ほかに数々のバリエーションがある

ジーン

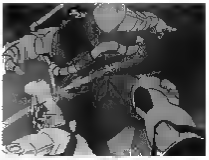
『機動戦士ガンダム』

「怯えていやがるぜ このモビルスーツはよ！」

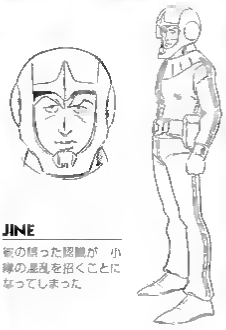
搭乗：量産



▲彼の焦りがアムロ　レイ軍長を戦場へ導いてしまった



▲MS同士の戦闘での　初の犠牲者になってしまった



JINE

彼の持った認識が　小隊の悲劇を招くことになってしまった

もっとも不幸な一番乗り

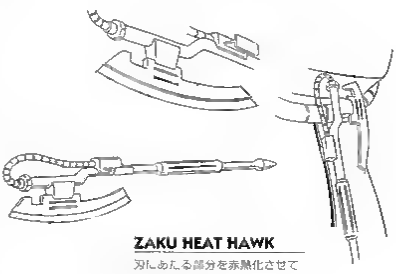
先に挙げたデニム軍長の部下としてサイド7の偵察に赴き、戦功を焦って独断専行したのがこのジーン軍曹である。

ジーン軍曹は任官浅いパイロットとはいえ、一年戦争末期の促成パイロットとは異なり、十分な訓練期間をもって養成されたパイロットであった。そのため、エリート意識こそ高かったものの、一年戦争初期の大きな戦いでキラ星のごとく戦功を上げた先輩たちの中において焦りを感じていたのだろう。なにせ、彼が所属していたのは名だたる赤い彗星のシャアの部隊であり、そこに配属されたということだけでエリートであることが保証されたようなものであったからだ。

そんな中にあって、まだ経験の浅い一兵士が戦功のないことを恥じていたとしても、それはいたしかたないことなのかもしれない。

そして、それは一年戦争の初期に連戦連勝を重ねたジオン軍に蔓延しつつあった油断を象徴するものであったと言えるかもしれない。

そして、彼はその油断の代償を自らの命で払うことになる。彼は、まだほとんど素人同然であったアムロ・レイの操るガンダムの攻撃によって撃破されることとなったのである。これは、MS同士の実戦で初めて撃墜されたザクであり、戦死したパイロットということであった。この事実がなければ、あるいは彼は一年戦争末期までは生き延びることができたのかもしれない。



ZAKU HEAT HAWK

刃にあたる部分を赤熱化させて装甲を焼き斬る

スレンダー

『機動戦士ガンダム』

「あの武装は自分は見ていません！」

搭載：重傷



SLENDER

任務に忠実なパイロット。ガンダム発見の報を知らせた



▲連邦軍モビルスーツ恐ろしさを　命がけで知るこんしょ……でしまった



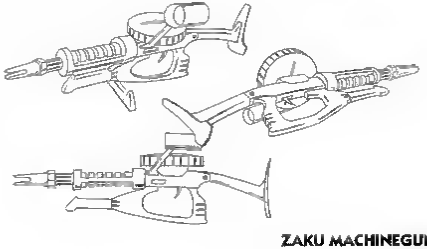
▲ガンダムのビームライフルカコクピットを直撃している

アンラッキー・ストライク

デニム、ジーンとともに、スレンダー軍曹もまた不幸なパイロットであった。赤い彗星のシャア少佐の部下として配属されていたのだから、その能力は平均点以上のものであったと考えられる。だがその不幸な最期からか、必ずしも高いとは言い難い戦功について触れられることが、ほとんどなかったからである。

そう、スレンダー軍曹について語られる評価は、多少の冗談を含んだ次のようなものになってしまうのだ。「不幸な最初の一発を喰らった奴」すなわち「アンラッキー・ストライク」と。

彼はシャア少佐がV作戦の偵察を試みたとき、最初に派遣された3人の内の一人であり、同時にそのとき生還した唯一の人物であった。それは、単に彼が後方から動かなかったからなのだが。しかし、そのラッキーは二度は続かなかった。サイド7周辺宙域で、スレンダー軍曹が再びガンダムとの戦闘に挑んだとき、彼のザクはガンダムの放ったビームライフルを受けて爆散してしまったのだ。それもたった一発のビームライフルによって。これはガンダムが戦艦の主砲並みのビーム兵器を装備したMSであることを示しており、その事実を身をもって証明したことによって、スレンダー軍曹の名は知られることとなった。だが、それは間違いなくスレンダー軍曹にとって幸せではなかったであろう。



ZAKU MACHINEGUN

ザクの標準装備。ビームライフルの登場で旧式然となってしまっている

ガデム

『機動戦士ガンダム』

「ミノフスキー粒子で濁れそうだ、早くしてくれ」



GADEM

カ[illegible]先して行動するタイプで　愛国心[illegible]る軍人だった



▲現役を退し[illegible]ス　MS操縦技術は衰えていなか[illegible]



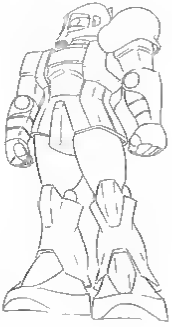
▲乱暴[illegible]い旧ザクでは[illegible]体当[illegible]最の山であった

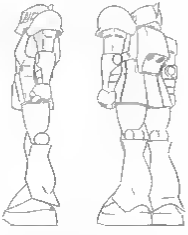
補給部隊の老兵

ガデムの名前は、あまり多くの人には知られていないかもしれない。というのも、彼は一年戦争の勃発のころにはすでにザクのパイロットとしては第一線を離れていたからである。それでは、そんな彼がなぜここで語られているのか？　それは、彼がジオン軍輸送部隊の一員として、旧式輸送艦ムブアの艦長を務めていたことに由来する。輸送を円滑に行うため、ガデム艦長はムブアに自身の愛機であったMS－05ザクを常備していた。一般にザクといえばMS－06シリーズを指すが、これは厳密にはザクIIと呼ばれる機体であり、ザクとは本来その原形となった初の実用MS、すなわちこのMS－05ザクを指すのである。ただし、便宜上このザクを旧ザクと呼ぶのが現在の慣例となっている。

ガデム艦長はパイロットとしての現役時代、この旧ザクのパイロットとして知られた存在であった。が、寄る年波には勝てず補給部隊に転属、余生を送ることとなっていた。

だが、ここで運命のいたずらが起きる。彼がシャア艦長のムサイ艦に補給中、連邦軍の新型MSガンダムが攻撃を仕掛けてきたのである。これに対し、ガデム艦長は旧ザクでMS同士の白兵戦を挑んだのだ。だが、ガンダムの性能を知る我々ならば容易に想像できることであるが、ガデム艦長は善戦むなしく敢退。ほとんど無駄死にともいえる戦死をすることとなったのである。





MS-05 ZAKU

初めて実践投入されたMS。MS06の登場で旧式化の印象は否めない

アコース

『機動戦士ガンダム』

「はい、大尉！」

階級：少尉



ACOUS

宇宙育ちのアコースにとって　砂漠での戦闘は不利だったにちがいない



▲強行ゼロというリクツなんか彼の運命を決めてしまった



▲カンキョノンの一斉射を正面から浴びてしまった

実直なランバ・ラルの腹心

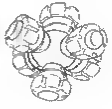
アコースは、ランバ・ラル隊所属のMSパイロットであり、またラル大尉の腹心として知られる。ただし、パイロットとしての腕は並程度であり、際立って優秀なパイロットというわけではなかった。

そんな彼がラルの下で幾多の戦いをくぐり抜けてこられたのは、ラルの命令を確実に実行し、決して余計なことをしない忠実な兵士であったからであろう。これは、彼自身がラルと志を同じくするジオン派の人間であったから、と考えれば兵士としてよくいえば実直、悪くいえば愚直な人物であったのもうなずけるのだが。

こういうとあまり高い評価を受けていないようにも思われるかもしれないが、少数精鋭で任務を遂行しなければならない組織の隊長として、一癖も二癖もある連中を統率していかなければならないランバ・ラルにとり、自分の命令に忠実なアコースの存在は、MS戦のパートナーとして貴重なものであったのであろう。

しかし、そんな彼はランバ・ラル隊VSホワイトベースの戦闘における もっとも初期の戦死者となる。それも、戦闘に夢中になって残弾の確認を怠るという致命的なミスを犯して。

実直な兵士として、ラルの指示通りに動いている限りは優秀な兵士であっただけに、この最期は「魔が差した」としか言いようがないものであったといえる。



CRACKER

前方上空に投げると　四方に分離して　さらに爆発する手榴弾

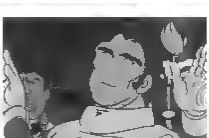


HOOK

ザンジバルに装備されたMS収納用のフック。2～3機をもち上げられる。

コズン・グラハム

機動戦士ガンダム
「ムスタング・ツー こちらコズン」
階級：少尉



▲彼にしてみれば、敵が子供ばかりというのは驚きだったに違いない



▲脱出の準備、ハズーカを肩中から[illegible]て確認。遺体は発見されなかった。





COZUN GRAHAM

歴戦の特務部隊兵士だったカ[illegible]一瞬の油断が命運を分けてしまった

ホワイトベースWBを初めて覗いたジオン兵

コズン・グラハム少尉は、アコースとならんでランハ・ラル隊の二員としてラル大尉の支援を担当する優秀なMSパイロットであった。また、彼はあくまでラルに忠実なアコースとは違い、時には独断専行をも辞さない兵士であった。ラル大尉としては、忠実一辺倒のアコースと彼のような異なった個性に支援を任せることによって戦術の幅を広く取ろうと考えていたのかもしれない。

逆をいえば彼の判断はそれだけラル大尉に信頼されていたのであろう。事実、彼は仮に判断ミスから窮地に陥ってもその危機を好機に変えることのできるタフな兵士でもあったのだ。

特に、ホワイトベース追撃戦において、無力化されたザクごと捕虜となりながらも、ホワイトベースのクルーが素人の寄せ集めと看破するや、直ちに脱出を決行。逆にホワイトベースの情報を本隊に伝えるという見事な働きを見せている。しかし、さすがの彼も、相手が素人ゆえの油断さまでは予測がつかなかったらしい。

情報の伝達を終え、ノエットパックで脱出を試みた彼は、扉ごとロケットランチャーで吹き飛ばされてしまった。通常、艦内でそのような武器を使用することは考えられず、さすがのコズンも意表をつかれたことであろう。そして彼は、MSパイロットとしてではなく、スパイ行為を行った捕虜という、この上なく不名誉な立場で死を迎えることとなったのである。



MISSILE POD

MS脚部に装備できるミサイルランチャー。脱着も可能である

ククルス・ドアン

「機動戦士ガンダム」

「MSの操縦技というのを見せてやる」

声優：脱走兵



▲失ってしまった人間性を取り戻したトアンは　子供たちを引き取る



▲MSの格闘しかけではエキスパートにてあるトアン



CUCURUZ DOAN

孤児たちを引き取ってからは軍仕事に従事し　人目を忍んで暮らしていた

戦いに倦んだジオン脱走兵

ククルス・ドアンは一年戦争初期から実戦に参加していたパイロットであり、ザクのパイロットとしても、軍人としても優秀であったと言われている。特に、MSを使った重力下での白兵戦術を得意とし、彼にかなうものはジオン軍の中でもごく一部しかいなかったらしい。

しかし、彼はジオン軍の地球侵攻部隊の一員として東アジア地区に出撃したとき、そのまま現地で原隊からの脱走をはかった脱走兵である。この行為は、彼が地球侵攻作戦において攻略した村で、自分が幼い子供たちの両親を殺してしまったことに対する罪滅ぼしであった。そのため、ジオン公国の敗北と相俟って、戦後、その責任は事実上不問に処されている。むしろ、一年戦争の最中に戦災孤児たちを守ろうと、孤島で一種の共同生活を営んでいたことから、彼のことを反戦平和のシンボルとして尊敬するものも数多く存在する。

一年戦争中の一時期　孤島での生活を脅かすものが来るのを恐れるあまり、島に近付く両軍の兵士を武装解除させ、その武器でいつか自分を探しに来るであろうジオン軍を撃退しようと考えていたが、後にその行為が両軍の警戒心を煽っていることに気付き、自身が搭乗していたザクを沈めて武装解除をした。その際にはホワイトベースとガンダムの働きがあったとする説もあるが、当時の正式な資料の中にはその事について触れているものは存在しない。



CHILDREN

ククルス　トアンが引き取っていた戦災孤児。みなトアンを慕っていた

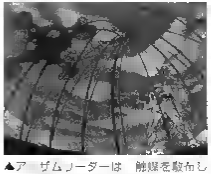
マ・クベ

「機動戦士ガンダム」「これは売り引きなのだよ」

執筆：大佐



▲MAの実験で元気がいっぱいだよ



▲アッザムリーダーは　触媒を散布して　高機動で敵機を高熱化させる



M' QUVE

多趣味で　ガラス工芸品の収集家としても有名であった



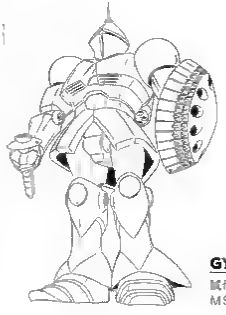
マキャベリズムに酔う指揮官

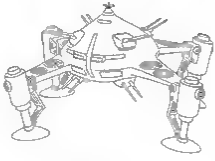
マ・クベ大佐は、突撃機動軍に所属するキシリアの右腕であった。彼は、地球の鉱山地帯での資源の採掘とジオン本国への輸送、そしてMAの開発などキシリアの戦略の根幹ともいえる部分を支えてきたのである。ただ、彼は自身のことを多分に偽悪的な謀略家として捕らえていた節がある。しかし、実際は優れた計画策定能力といったデスクワークにおいてもっとも能力を発揮する、軍人らしからぬ軍人であったといえる。あるいは、文官として政府の中枢にあったほうが彼のためにはより幸福であったかもしれない。だが、ジオンという国家の若さがそれをゆるさず、そして一年戦争という状況が彼のその偽悪趣味に悪しき助長を加えた。

ドズル・ザビがガルマの敵討ちに派遣したランバ・ラル隊に対し、キシリア配下の鉱山の内情が知られるのを恐れるあまり補給らしい補給を行わず、さらにはラル隊向けに送られてきた物資をオデノサ方面の防衛に流用したのはその典型だろう。

オデノサの戦いでの大敗後、マ・クベ大佐は宇宙に戻ることとなったが、すでにそこには長期の展望に基づいた計画を策定するほどの余裕はなく、彼の能力に相応しい舞台は失われていた。

なお、陥落にあたってソロモンを脱出したドズル　ザビ中将の忘れ形見、ミネバ・ザビを救出したのが彼であったともいわれているが、これには異説もある。





ADZAM

実験機だったが　初めて実戦投入されたMAでもある

GYAN

試作機をマ　クベが自分専用のMSにしていた

フラナガン・ブーン

『機動戦士ガンダム』

「うかつに水中に入ったのがお前のミスだよ」

声優：不明



▲囮り工作員としてヤウンベースへ侵入したこともある



FLANGAN BOON

MSパイロットあがりの艦長。部下思いの上司だったようだ

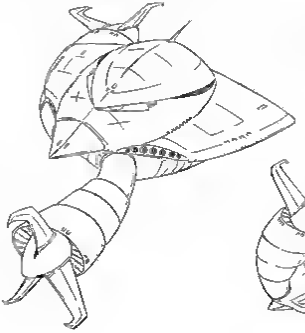


部下思いの海の勇者

彼は、キシリアの配下としてマ ノドアングラー隊に赴任してきたシャア・アズナブル大佐の部下として、シャアを支え、また自ら戦いの先頭に立って働いた。

中でも、注目すべきことは彼が情報収集のためにホワイトベースに乗り込み、そして無事帰還を果たした初めてのジオン兵だという点であろう。これは、先だってホワイトベースに侵入させていたスパイ107号との連絡のため、地元のベルテ諸島の漁業組合の一員を装って潜入したものである。

なお、艦長自らこのような危険な任務についたのは、彼の部下がいずれも生粋のジオン兵ばかりであり、彼のみがジオンなまりを隠すことができたからだといわれる。また、彼は自ら水中用MAグラブロに乗り込み、ホワイトベースの攻撃にも参加している。これは、それまでの戦いで4名もの部下をホワイトベースとガンダムとの戦いで失っており、その仇討ちのために出撃したのだという。この攻撃で、水中用の武装を装備していなかったガンダムは、おおいに苦戦したことが知られている。が、結局はブーンは撃墜され、この戦いで戦死。部下の無念を晴らすことはできなかったのである。



GRUBLO

水中用MA。水中を高速で移動できる。接近専用のクローを装備している

アカハナ

「機動戦士ガンダム」

「大佐ー　イワノフの
アッガイがやられました」

階級：不明



▲特殊工作員としては超一流の技術をもつ兵士だった



AKAHANA

名前はおそらくコードネームと思われる。本名は不明

特殊工作員の最期

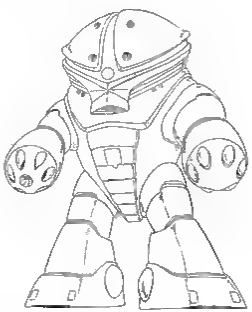
シャア大佐の指揮する、マゾドアングラー部隊の一員として活躍した水陸両用MSアッガイのパイロット。彼は、シャア大佐とともに、連邦軍の本拠地、ジャブローへの潜入を行った兵士の一人でもあった。

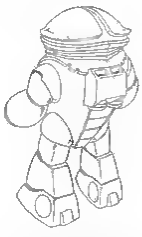
そのことからもわかるように彼は、MSのパイロットでありながら、潜入や工作といった隠密作戦も遂行できる能力を有していた。ただし、これは彼に限った話ではなく、元々ジオン潜水艦部隊自体が、情報収集や敵地への潜入、工作を前提に組織されていた部隊である。つまり彼に限らず、マゾドアングラー隊の兵士たちは、そういった訓練を受けた上で配属されていたのである。

彼の搭乗した、水陸両用MSアッガイは、潜入工作用に特化したMSとして、高いステルス性をもち、多数の工作員を乗せたまま水中を移動、潜入することができるように開発された機体である。その反面、戦闘力はかなり犠牲にされていた。そして、アカハナにとってはそれこそが悲劇だったといえよう。

作戦の失敗から、潜入部隊はジャブロー

からの脱出を図るが、その追撃に当たったのがガンダムだったのである。結果、そのとき脱出を試みた4機のアッガイはことごとく撃破され、アカハナは戦死することとなる。ちなみにこの戦闘では、唯一ズゴックに乗っていたシャア大佐のみがかろうじて脱出に成功している。





MSM-04 AGGUY

特殊なMSであり　隠密作戦や索敵などに使用された、そのため　多機能性を誇る

トクワン

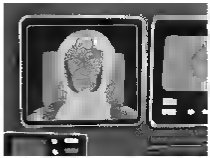
『機動戦士ガンダム』

「このビグロのスピードを避けられるか？」

階級：少尉

TOKWAN

もともとはテストパイロットのひとり



実戦慣れしていてアムロ・レイ当初の前に現れることとなった





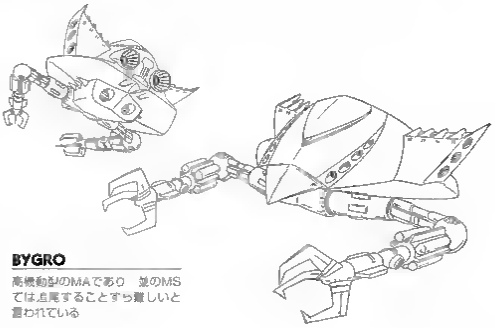


テストパイロットの悲劇

トクワン少尉は、キシリア配下の優秀なテストパイロットである。その能力は、宇宙用MAビグロのテストパイロットを任されていたことからも推察できるだろう。ただ、戦術には聡く、また技量も並以上でありながら、階級の割りに戦略に疎い面があった。それは、テストパイロノトという彼の任務上いたしかたないことかもしれないが。

当時、キンリアは、マ・クベを通して地球上でMAの開発を続けさせていた。それもあって、トクワン少尉も長らく地上でMAの開発に携わっていたと思われるが、オデッサ作戦によりジオン軍が撤退。さらに、ビグロの試験が本格化したこともあいまって、再び宇宙へと帰還を果たすことになったのだ。しかし、この帰還に利用された機動巡洋艦サンジバルが、シャア大佐の指揮下に入っていたことが不幸を招いた。当時、大佐は、再び宇宙へと上がったホワイトベースの追撃を行っていたのである。

トクワン少尉は、自身がテストパイロットを務めていたビグロの性能に自信をもっており、自らビグロに乗って出撃。ホワイトベースから出撃してきたガンダムと戦いを繰り広げることとなった。が、久々の実戦で勘が鈍っていたためか、その戦いでビグロを撃破され、戦死してしまう。



BYGRO

高機動型のMAであり、並のMSでは追尾することすら難しいと言われている

デミトリー

機動戦士ガンダム

「こんなモビルアーマーのでき損ないなんぞ」

戦場：宙域



DEMITRY

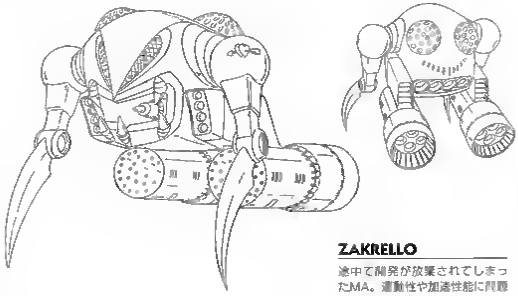
命令違反を犯してもガンダムに戦いを挑もうとするが失敗

仁義に応えた仇討ち

デミトリー書長はキシリア麾下でMAの開発、テストを担当していたトクワン少尉の部隊の一員として知られている。危険な実験部隊の指揮官として、トクワン少尉は部下に慕われており、その中でも特に彼を慕っていた部下がデミトリー書長であった。

デミトリーは、自らがテストを担当したMAザクレロが実用試験から外されたにも拘わらず、トクワンが彼のためにザクレロの廃棄を控えてくれたこと、つまりは、デミトリーの功績を高く評価してくれたことに対して、深く感謝していたのであろう。ただし、デミトリーのMSパイロノトとしての腕は必ずしも良いとは言い難く、彼の取り柄はひとつのことを決して諦めず、粘り強くやり続ける性格にあった。トクワン少尉も、そんな彼の性格がテストパイロットに向いていると考えていたらしい。

トクワン少尉の戦死後、彼はトクワン少尉の仇を討とうと、ザンジバルを指揮していたシャア大佐の命令を無視して、実用試験前に開発が破棄されたMAザクレロに乗り込み単身出撃を計った。だが、その相手ガンダムは、デミトリー程度の腕のパイロノトが敵う相手ではなかった。この無意味な戦いでデミトリーは戦死。唯一の救いは、命令無視の事実が報告されず、公式に戦死とされたことであった。



ZAKRELLO

途中で開発が放棄されてしまったMA。運動性や加速性能に問題があった

クラウン

『機動戦士ガンダム』
「少佐！　シャア少佐！　撤退できません」
搭乗機：不明



CROWN
決死の作戦に参加するがあえなく失敗。摩擦熱で燃え尽きてしまう





▲決死の作戦であったため彼の魂は重力下へ消えていった



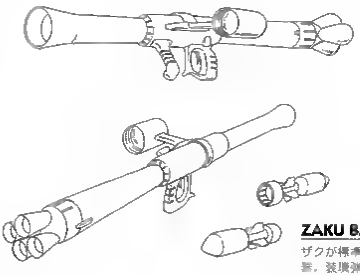
▲通常のMSの作戦であれば、大気圏突入用装備など必要なかったが

燃えつきたパイロット

シャアのホワイトベース追撃戦の中でもひときわ有名な戦い。こういってまず思い出されるのは、大気圏突入寸前に仕掛けたあの作戦のことであろう。この戦いで、ホワイトベースは大きな被害を受けることはなかったが、古今例を見ないタイミングの戦闘であり、またシャア少佐（当時）は、戦術的には負けといってもよい戦いにありながら、ホワイトベースの大気圏への突入角度を変えさせることに成功。戦略的な勝利を収めた戦いであった。

そして、この戦いが有名であることが、そのまま当時としては平均的なザクのパイロットでしかなかったクラウンの名を有名なものにしてしまった。

クラウンは、シャア少佐が率いるムサイ艦のザクのパイロットの一人であり、この大気圏突入時の戦いでシャアとともに出撃した3機のザクの内の1機に乗り込んでいた。この戦いの最後で、クラウンは突出したガンダムと一対一の戦いを繰り広げ、ガンダムを引き付ける形で大気圏に突入してしまう。もちろん彼の本意ではなかったが。その後、大気圏内でクラウン機は熱により自壊。しかしガンダムは、大気圏を無事に突破してしまい、クラウンの死は無駄となってしまう。かくして、彼は不幸なパイロットとして永遠に記憶されることとなった。



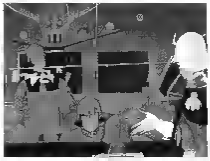
ZAKU BAZOOKA
ザクが標準で装備できる大型兵器。装填弾数はそれほど多くはないようだ

ドレン

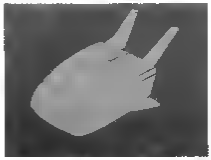
「機動戦士ガンダム」

「そんなはずはない……ガンダムはいるはずだ……」

登場話：少佐～大佐



▲シャア大佐の下で　指揮官としての才能も開花させていたようだ



▲コムサイの操縦桿など　個人戦闘にも長けていた



DREN

少佐時代のシャアの有能な部下。コムサイの操縦も受けもった

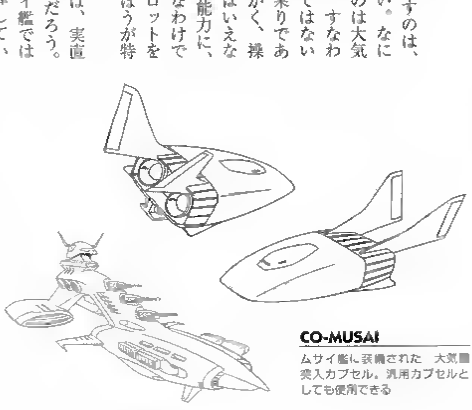


赤い彗星の懐刀

トレンをパイロットとして記すのは、いささか無理があるかもしれない。なにせ、彼が操縦したことがあるものは大気圏突入カプセルであるコムサイ。すなわち、MSや戦闘機といったものではないのだから。彼は典型的な宇宙艦乗りであり、MSの運用についてはともかく、操縦については必ずしも明るいとはいえない。しかし、艦隊士官としての能力に、必ずしもMSの操縦能力が必須なわけではない。むしろ艦長がMSパイロットを兼ねるシャアなど一部の士官のほうが特別なのだともいえるだろう。

ドレンを一言で表現するならば、実直で有能な実務肌の指揮官となるだろう。事実、シャアの部下としてムサイ艦では有能な副官ぶりを発揮していた。そして、シャアの左遷後も順調に出世。キャメルパトロール艦隊の司令官にまで上り詰めている。華々しさには欠けるものの、地道に動め上げることが要求されるパトロール艦隊の仕事は、まさに彼にうってつけの任務であったといえる。

それから間もなく、シャアとの再会が彼には不幸に作用した。再び宇宙に上がったシャアの要請で、ホワイトベースの進路を遮るかたちで展開した彼の艦隊は全滅。彼自身も、自身が乗り込むムサイ艦の艦橋がガンダムのビームサーベルで切り裂かれたことにより、生身で宇宙に放り出され戦死した。



CO-MUSAI

ムサイ艦に装備された　大気圏突入カプセル。汎用カプセルとしても便利できる

ガルマ・ザビ

『機動戦士ガンダム』

「ジオン公国に栄光あれ！」

声優：大塚

GARMA ZABI

作戦家としての才能は未開花だったためか少々作戦に甘さが出た







▲親友であるシャア大佐が裏切るとは思ってもみなかったようである



▲若さゆえの行動か、自ら最前線へ赴くときもある

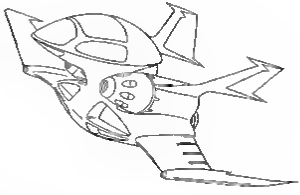
ジオン公国のプリンス

キンリアが司令を務める突撃機動軍に属するジオン軍地球方面軍の司令官であり、またザビ家の末弟として知られる。その甘いマスクと相俟って、ジオン公国国民の人気は高く、若きプリンスとしてジオン公国を象徴する存在であった。そういった経歴から、彼の出世も、あるいは与えられた役職も、特権的なものと思われがちである。だが、それは事実を一面的にしか見ない結果である。ガルマ・ザビはその若さと、経験の少なさにもかかわらず優秀な司令官であり、またザビ家の一員として政治的な手腕にも侮れないものを見せていた。事実、彼は占領地で自らの保身と権益の獲得に言い寄ってくる海千山千の財界人たちを見事にあしらって、ジオンの占領政策をスムーズに進めた張本人でもある。また、軍人としても兄ドズルに「あやつこそ、オレさえも使いこなしてくれる将軍にもなろうと」と言わしめるほどの非凡なものを見せていたのである。

だが、彼は若すぎた。

若さゆえの焦りから、周りに自身が地位にふさわしい実力をもつことを示そうと、自らドップを駆ることもあった。そして、ジャブローに向けて航行中のホワイトベースへガウ攻撃空母で攻撃を仕掛けるも、戦略的な甘さが災いし失敗。戦場という過酷な現実は、彼のそんな甘さに死をもって応えたのである。なお当時、前線に同行しながらみすみす彼を死なせてしまったシャア少佐に対し、ドズルは左遷を命じている。

彼の死はジオン公国国民に多大な哀しみをもたらし、その国葬には多くの国民が自らの意志で、参列したという。



DOP

航空機としては異様な形状をしている。そのため安定性に問題がある

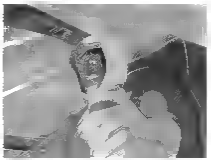
バムロ

『機動戦士ガンダム』
「ここがセントアンジェのあった場所です」
階級：不明

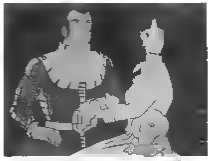




BAMLO
軍人の前に一人の人間として　良識ある大人だった



▲地上に降りたホワイトベースの避難民に　救援キットを与えた



▲ガンダムに撃墜されたバムロは、避難民の親子に手当を受けた

軍人より人として知られる男

ガルマ・ザビ隷下の偵察機部隊に所属するベテランパイロットとして、ホワイトベースの戦いに詳しいものならばその名を聞いたことがあるかもしれない。とは言っても、彼がホワイトベースを苦しめたというわけではない。むしろ、その人道的な行為に対して、後々戦史秘話的に語り継がれたものである。

バムロは偵察機ルッグンの機長として一年戦争で活躍、地味ながらも危険な任務を黙々とこなしていた。そういった任務が性に合っていたのも、本来苦労人であったからかもしれない。そんな彼の名を歴史にとどめたのは、ホワイトベースとガルマ軍との短期的な停戦において、重要な役割を果たしたからである。

その時、ホワイトベースは地球への降下を希望する民間人の避難民を降ろすために、ガルマ軍は十分な兵力を展開するために各々時間を欲していた。そして、その双方の思惑が一致することで休戦が成立した。この時ホワイトベースは避難民の輸送に搭載の輸送機、ガンペリーを使い、その中にガンダムを隠して予備兵力として配置するという作戦に出た。

その輸送機を監視する任務に就いていたのが、バムロ機長のもとコードネーム「ビッグ・ジョン」を与えられていたルッグンであった。そして、それに気づいたバムロ機は撃墜されるが、彼は九死に一生を得ることとなった。

また彼に関して、「ホワイトベースから出てきた避難民の親子に、食料や救難キットを提供した」という美談が残っている。



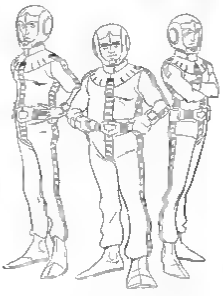
RUGGON
レトロームを2基装置したパトロール機。4人まで搭乗が可能である

ギャル

【機動戦士ガンダム】

「でっかい図体をしてやがるな」

登場：第3話



GIYAL

左端がギャル



▲装備が行き届かないザクでカーテムをおびき出す役をやるハメになる



▲辺境の部隊では十分な装備もままならなかったようだ

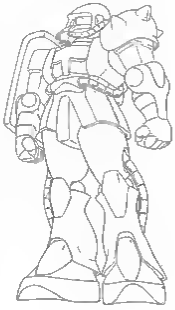
戦果なき地方の勇者

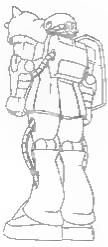
ジオンの一地方小基地に唯一配備されていたザクのパイロット。ジオン軍というと、ザビ家への忠誠を誓ったエリートばかりからなる精鋭の組織というイメージが強い。それに対する反論としても、精々がシャアのようにザビ家打倒を志しながらも、ジオン軍に身をおく存在がいたことがひろく知られている程度で、そのストイックなイメージと大きくかけ離れるものではない。だが、実際にはそこまでストイックな兵たちはごく一部であり、末端には愚連隊的な組織が散見されていたようである。

現実には、連邦軍もジオン軍もその末端は大同小異であったのだ。

ただ、ジオン軍の場合、地上におかれたこういった部隊のほとんどがとばされてきた、ということが連邦とは異なっていたろう。空論の効いたコロニーこそが快適な我が家であり、地上の自然は彼らにとって不快要因でしかなかったのだ。

そんな部隊に派遣されているのだから、ギャルもまた優秀なパイロットとは言い難い存在であった。事実、彼は一年戦争において戦果らしい戦果を上げていない。しかし、基地の有志が行ったガンダムに対する肉弾攻撃において、ガンダムを誘い出す囮を務めるなど意外と神経の太いところを見せている。この手の愚連隊的組織にありがちなことだが、ここ一番での強さを見せる面子が揃っていたのであろう。そして、ギャルもまたそんなしたたかな兵士の一人であった。





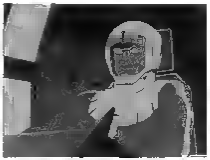
MS-06 ZAKU II

タチ

機動戦士ガンダム

「絶好だ……木馬め！」

機体：中破



▲残された1機のザクを駆り　忠誠のために戦う



▲マゼラトップの主砲でホワイトベースを狙う



TACHI

無謀とも言えるラルの弔い合戦に参加し　戦死する

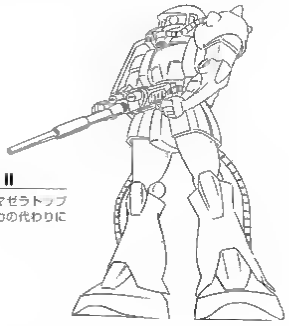
ラル隊、最後のパイロット

タチ中尉は、ランバ・ラル隊の一員として一年戦争に参加していた古参のパイロットである。ただ、そのためか地上に降りてからはもっぱら後方支援に専念しており、ラルの存命中はサクに乗り込むことはなかったといわれる。そんな彼が再び、そして最後のパイロットを務めたのは、ラルの仕掛けた特攻が失敗、手持ちの戦力も乏しくなった中であった。その中で、ハモンが指揮することとなったラル隊の残存兵力の一員として参加したのである。そして、そこでラル隊に唯一残されたザクのパイロットを務めることとなった。

このことからわかるように、タチ中尉はランバ・ラルの信頼の厚いパイロットであったという。もし、一年戦争当時に高齢に達していなければ、あるいはさらなる活躍を示したかもしれない。

そんなタチ中尉の最後は、悲惨なものであった。それというのも、もっとも信頼する味方の砲火によってとどめを刺される結果となったからである。

その戦いの最中、タチ中尉のザクはガンダムの動きを止めることに成功した。そして、その隙を突いてガンダムにゼロ距離射撃を試みたハモンのマゼラトップであったが、それに対してガンダムはザクを弾避けとして使用した。結果、タチ中尉のザクは一撃で粉砕されることになったのである。その時の彼の心境がいかなものであったか、それを知る術はない。



MS-06F ZAKU II

装備か底をつき　マゼラトップの主砲を　バズーカの代わりにしていた

クラウレ・ハモン

「機動戦士ガンダム」

「好きだったよ……坊や」

搭乗機：不明





▲自らもマゼラトップに乗り込み ラルの仇討ちに出る



▲破壊寸前までガンダムを追いつめた 作戦は見事だった

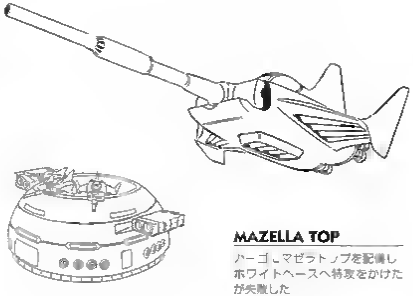
CRAWLE HAMON

女性にしておくには惜しいほどの才覚のもち主だった

ランバ・ラルの愛人参謀

ランバ・ラル隊の参謀格、というよりはその隊長であるランバ・ラルの愛人として有名な彼女は厳密にはパイロットではない。さらに、彼女は正式なジオン軍軍人ですらないのだ。そんな彼女が、ランバ・ラル隊に所属することができたのは、ジオン公国という組織がまだ設立間もなく、そのためによくいえば柔軟に、悪くいえばいいかげんにできていたためであろう。とはいえ、ハモンはラルを支える参謀として有能さを示し、ラルの部下たちからも彼に次ぐ信頼を勝ち得ていたのも事実である。このことは、ラルが自らMSを駆って前線に赴くとき、常にその後方部隊の指揮を執っていたのがハモンであることからもよくわかるであろう。そしてその時、ハモンは的確な部隊運用を見せていたし、また同時に作戦で所期の目的を達成したラルを確実に回収していた。これは互いに息の合った、そして優れた指揮能力を持った者同士であったからこそできた芸当であろう。

そんな彼女であったが、ラル隊自体がガルマの仇討ちとして攻撃を加えたホワイトベースとの戦いの過程でほぼ全滅。ラルの死をもって、残された16名を率いて捨て身の強襲を仕掛けた。この時、ハモンはギャロップカーゴに砲台替わりに装備させたマゼラトップのパイロットとして前線で指揮を執る。そして、ガンダムを撃破する寸前まで追い詰めるものの、リュウ・オセイの仕掛けた特攻により撃墜され戦死する。



MAZELLA TOP

ハーゴ、マゼラトップを配備しホワイトベースへ特攻をかけたが失敗した

ヘイブ

『機動戦士ガンダム』

「よおし、捕まえたぜ」

機体：不明



HABE

新型のグフを与えられたが、ガンダムを相手に敗退する



▲グフ、量産化され、一般パイロットにも配与されるようになった



▲カンダムのトンキングを、5連装マシンガンで阻止するグフ

優秀なグフパイロット

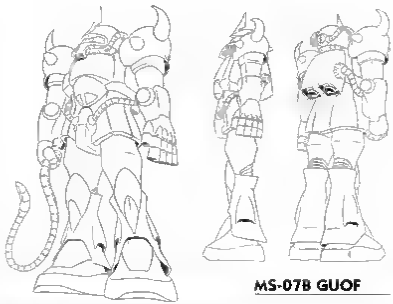
機動突撃軍所属で、アジア地区の占領を担当していたマ・クベ大佐の直属として働いたMSのパイロット。

パイロットとして以外は、むしろ愚鈍ともいえる能力のもち主であったが、その分パイロットとしては優秀であった。しかし、それは単体で戦うならばという限定条件付きであり、仲間と連携しつつの攻撃では凡百のパイロットとしてしか印象の残らない存在でもあった。

彼の単体での戦闘力には目を見張るものがあり、機を見るに敏という言い方がしっくりとくる臨機応変の活躍を見せるパイロットであった。

そんな彼の活躍でも特筆されるべきは、新鋭のMSグフを与えられて間もなく、ホワイトベースへの輸送を行っていたミディア部隊の攻撃を命令されたときであった。この戦いで、彼はミディアの援護をしようと空中換装を試みていたコア・ファイターを発見するや、攻撃を開始。その妨害に失敗すると、今度はガンダムに接近戦を試みて、ヒートロッドを駆使した戦いでガンダムを追い詰めたといわれる。しかし、この戦いでグフを撃破されて、結局はパイロットであるヘイブも戦死することとなった。

なお、この時マ・クベの部隊が使用したグフは、本来はランバ・ラル隊への補給物資として送られてきていたものを、自身の防備増強のためにマ・クベが隠匿していたものだともいわれている。



MS-07B GUOF

コーカ・ラサ

機動戦士ガンダム

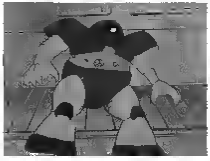
「さすがゴッグだ、なんともないぜ」

階級：曹長



LASA

水陸両用MSゴッグの性能をいかんなく発揮させていた



▲水陸両用MSの存在が初めて公式に確認された



▲ラサも標準レベル以上のパイロットだったため　ガンダムに敗れる

初のゴッグパイロット

ラサ曹長は、MSパイロットとして次の2点のことで広く知られている。ひとつは、連邦軍の軍港として知られるベルファストを初めてMSで強襲したパイロットのひとりであること。そして、もうひとつはその際に乗り込んでいたMSが水陸両用MS、ゴッグだったということである。そう、この戦いは、ジオン軍の水陸両用MSが、初めてその姿を連邦軍の前に曝した戦いであった。

ただし、連邦軍はそれ以前のオデッサの戦いでジオン軍のMS開発計画をある程度正確につかんでおり、その時点で配備の進んでいたゴッグについては、その名前と共に存在程度は察知していた。

とはいえ、十分な性能までは把握していなかったようで、港湾内の防衛設備はいずれもゴッグには効果がなく、必然的にホワイトベースのMS部隊がその迎撃に向かうこととなったのである。この戦いにおいてラサ曹長は、RX-78ガンダムを水中戦に引きずり込むことによって有利な戦いを試みたといわれるが、それにもかかわらず敗北。水中戦に敗れた初の水陸両用MSパイロットというありがたくない記録を残すこととなる。これに関しては、ゴッグ自体がまだ実戦に投入されて日が浅く、その能力が十分に把握されていなかったためともいわれている。

なお、ラサ曹長の所属は、レヤア大佐麾下のマッドアングラー隊であり、直属の上司はユーコン級潜水艦の艦長でもあるフラナガン・ブーンであった。





MSM-03 GOGG

対潜兵器を無力化するフリーノーヤートも装備する。ほかにメガ粒子砲ももつ

カラハ

『機動戦士ガンダム』

「オレにはこっちの方が性にあっている、楽しだな」

搭乗機：不明



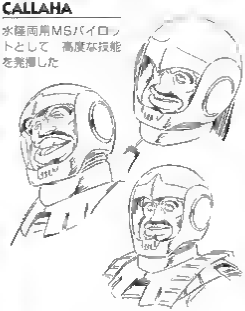
▲MSの性能、パイロットの技量ともに申し分なかった



▲独自で敵艦をホワイトベースのMS部隊を撃沈した

CALLAHA

水陸両用MSパイロットとして　高度な技能を発揮した



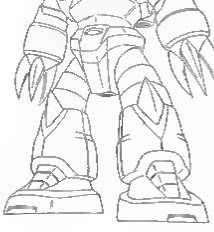
水中戦と射撃の名手

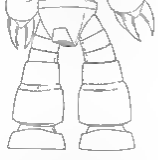
カラハは、シャア大佐麾下のマ・クベ、レグラー隊、フラナガン・ブーン艦長率いる潜水艦ユーコン級の2番艦に所属する水陸両用MSのパイロットとして知られている。

特に、そのMSを使っての射撃戦には定評があり、激しく動き回りながら行う正確無比な射撃は他者の追随を許さないものであったという。その点を見込まれ、ユーコン艦隊において、ただ1機配備されていた水陸両用重MS、ズゴックのパイロットを任されていた。ズゴックは、それ以前に開発されていたゴッグと比べて、装備において火力が充実しているのが特徴であった。そのため、カラハがズゴックのパイロットになって以来、その火力を活かして水際から地上の標的を狙い撃つ戦法を編み出すことに励んでいたともいわれている。

ただ、この戦法は高度な射撃の技量を要求されるわりに、使用できる局面が限定されていた。そのため、ほかのパイロットがその戦法を積極的に採用することはなく、現在では一種の名人芸として語り継がれるのみである。

また、カラハは、初めて連邦軍の前に身を曝したズゴックのパイロットとしても知られる。結果として、この戦いでカラハは戦死してしまうのだが、これは彼自身の技量のせい、というよりも作戦自体に欠陥があったのではないかといわれている。





MSM-07 Z'GOK

水陸両用MSとして最高クラスの性能を誇る。隊長クラスに配備された

ボラスキニフ

『機動戦士ガンダム』

「見つけたぞ ジャブローの入り口だ」

階級：曹長



BORASKYNIV

特殊なMSであるゾック乗りに選ばれこなしていた



▲ゾックを実戦に投入するのは、多少無理があったかもしれない



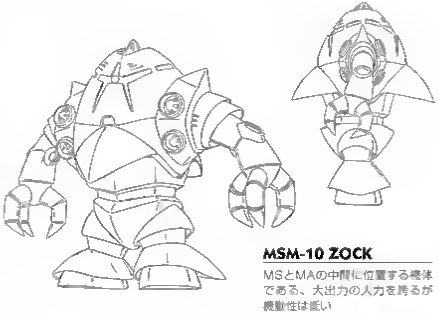
▲攻撃力は申し分なかったのだが、リガンダムの機動性の前に敗北する

ジャブロー侵入第一陣

ボラスキニフ曹長の名を知る者はほとんどいないだろうが、ゾックという試作の水陸両用MSについて知っている者は多いだろう。そう、このボラスキニフ曹長こそが、このゾックのパイロットであった。ボラスキニフ曹長はシャア大佐麾下のマ・クベアングラー隊でMSパイロットを務めていたが、度重なる消耗戦でも、予備パイロット的な立場に置かれるようになっていた。ところが、ジャブロー基地襲撃に際してキャリフォルニアベースから数機のMSが補給され、そのうちの1機であるゾックのパイロットを務めることとなったのである。彼がゾックのパイロットを任されたのは、彼が偵察要員としても優れた資質を備えていたことが大きく左右しているのだろう。

これは連邦軍のジャブロー基地入り口が高度にカモフラージュされており、これを発見するにはゾックに搭載されている金属センサーが有効であると考えられたからである。そして、ボラスキニフはこの期待に応え、見事にその入り口を発見したのである。

しかし、彼が乗り込んでいたゾックは火力こそ高いものの、機動力は極めて低いMSとMAの中間のような機体であった。そのため、ボラスキニフ曹長はジャブローからの脱出時にガンダムのビームライフルの直撃を受けてしまう。当然ながらゾックは破壊され、曹長も戦死している。これは多分に、ゾックの機体性能によるものであろう。



MSM-10 ZOCK

MSとMAの中間に位置する機体である、大出力の火力を誇るが機動性は低い

シムス

『機動戦士ガンダム』

「敵をキャッチしました　戦闘はお任せします」

戦歴：中尉



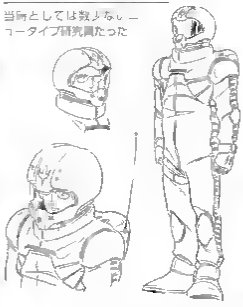
▲女ニュータイプ　戦闘まで赴いて実験を行う気概はすばらしい



▲ブラウ　プロは機体を分離させることもできるMA

SIMUS AL BAKHAROV

当時としては数少ない一
ニュータイプ研究員だった



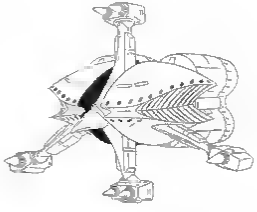
ニュータイプ用MAに命をかけた技術士官

シムス中尉は、キシリア・ザビ麾下の機動突撃軍に設立されていたニュータイプ用兵器開発部隊に所属していた技術士官として知られる。このニュータイプ用兵器として、キシリアは以前から開発を進めさせていたMAをベースに、サイコミュと呼ばれる脳波コントロールシステムを組み合わせた兵器体系をつくり上げようとしていた。その、ハードウェア面の開発を現場で担当していたのがこのシムス中尉だったのである。

シムス中尉がこの開発に懸ける執念は凄まじく、自らが開発に携わっていたMAブラウ・ブロの実戦テストにテストパイロットとして参加をしたほどである。

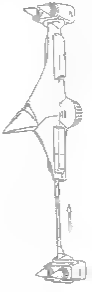
そして、それがシムス中尉の不幸でもあった。ニュータイプと考えられるシャリア・ブル大尉をガンナーに迎え、初めて行われたブラウ・ブロの実戦テスト。しかし、その戦場でブラウ・ブロは連邦軍のニュータイプパイロットとして名高いアムロ・レイの操るガンダムと激戦を繰り広げることとなったのである。この戦いで、ブラウ・ブロは撃破され、シムス中尉やシャリア・ブル大尉を始めとする3名の搭乗員は脱出のいとまもなく戦死することとなった。

もし、彼女が生き残っていたなら、ニュータイプ用兵器としてのMAの開発は、現在とは違ったものになっていたかもしれない。



MAN-03 BRAW-BLLO

初のサイコミュ搭載型MA。各ブロックは分離可能で　被弾による誘爆を防ぐことができる



マチュウ



「機動戦士ガンダム」

「少佐、行きますか？」

搭乗：不明

歴史に残ることの意味

サクのパイロットとして、シャア少佐の率いるムサイ艦に所属していたマチュウは、もっとも初期にホワイトベース隊と接触した兵士の一人である。

しかし、それは同時にもっとも初期にガンダムに撃破されたパイロットの一人であることを示してもいた。能力的にはけっして高いパイロットとはいえなかった彼であるが、彼の名はガンダムに敗れたパイロットの一人としてしか歴史に残されていない。たしかに、そうでもなければ歴史の彼方に消えてゆく運命であったであろうが、それが彼にとって果たして幸せなのか？　そのことについて、誰も答えることはできまい。本大戦中に限らず、戦争ではこのような兵士が数多くいたことだろう。もちろんそれは、敵味方の区別はないが……。

フィックス



「機動戦士ガンダム」

「フィックス、一気に木馬を戦艦とMSを叩くぞ」

搭乗：不明

たちまちの敗北

このフィックスもまた、先のマチュウと同様にシャア少佐率いるムサイ艦でザクのパイロットを務めていた兵士である。

その戦果には華々しいものはなかったが、堅実なパイロットであり、ホワイトベースとの関わりがなかったならば一年戦争末まで生き延びるだけの実力を秘めていたと思えるパイロットだ。しかし、シャア少佐の部隊に配属されたのが彼の不運であったのだろう。彼はシャア少佐とともに初めてホワイトベースとの戦いに参加し、そこで敗北を喫することとなった。

あるいは、彼にとってシャアの部下となったことは、最大の幸福と不幸を同時に体験する事件であったのかもしれない。しかし、あくまでこれは推測であり、彼の記録はここまでである。

ジェイスキュー



「機動戦士ガンダム」

「よーんなところにバルカン砲がー」

搭乗：不明

バルカンに敗れたザク

シャア少佐のホワイトベース追撃戦でも、ひときわ有名な大気圏突入寸前の襲撃。この戦闘に参加した4機のザクのI機に乗り込んでいたのが、このジェスキューである。彼は引力の強い戦場では、実体弾を使った銃器では弾道をねじ曲げられ、命中率が下がると判断してガンダムに接近戦を挑んだ。これは、彼自身が、それまでの宇宙艦相手のMS戦で、接近戦をたびたび挑んでいたことから自然にとった行動であったといわれる。

しかし、その結果ガンダムの頭部に装備された、バルカン砲を近距離で受け、「バルカンで撃破されたザクのパイロット」、という不名誉な称号を与えられることとなった。当然ながら遺体も収容できず、遺族には彼の遺留品のみが手元に送られることになった。

コム



「ビートホークは左手で使います」

機動戦士ガンダム

搭乗：不明

ハンマーの犠牲者

シャア少佐率いるムサイ艦のザク部隊ハイロットとして、大気圏突入寸前のホワイトベースを襲ったザクのパイロットの1人として記憶されるのがこのコムである。

彼もまた、開戦に間に合わなかった新人パイロットの常として、大きな戦果がないことであせっていた。しかし、ザクのパイロットとしては凡庸ながら、確実な腕前を誇るパイロットであり、もし仮に彼がシャア少佐のもとで、一年戦争末期まで生き延びていたならば、大規模な作戦にも当然参加して、そこそこの戦果を上げていたことであろう。しかしながら、現実の世界での彼の記録については、「ガンダムハンマーで倒された数少ないザクパイロットの一人」と残されているのみである。

コム



「戦争、子供が手を握っていますよ」

機動戦士ガンダム

搭乗：不明

ビッグジョンの副操縦士

地球攻撃軍司令、ガルマ・ザビ指揮下の部隊に所属する偵察機ルッグン、コードネーム「ビッグジョン」の副操縦士。

彼は、「ガルマ軍とホワイトベースのあいだで成立した休戦の間に、ホワイトベースが民間人を地上に降ろす作業を監視する任務に就いていた」ことで記録に名をとどめている。

当時はまだ若いパイロットであり、機長であるバムロの部下として鍛錬中の身の上であった。しかし、その後の記録には登場せず、一説では一年戦争末期の戦いで戦死したともいわれる。ただし、当時の記録は連邦、ジオン共にほとんど残されておらず、また多くの研究者の興味を引く話題でもないためか謎のままにされている。本書もこれ以上の調査は困難と見なし、彼への言及はこれまでとする。

ハンブル



「この木馬野郎！」

機動戦士ガンダム

搭乗：不明

戦闘機、ドップの勇者

地球方面軍司令、ガルマ・ザビの率いるガウ空爆戦隊に属する戦闘機ドップ部隊の戦闘隊長の一人である。MSの登場以前は航空兵器こそが地上の覇者であった。しかし、MSだけでは行い得ない戦略の幅広さをカバーするために、MSの出現からしばらくの間は、ドップを代表とする航空兵器が、現役で活躍していた。

また彼が所属していたのが、地球方面軍司令ガルマの直属部隊のひとつであることを考えても、ハンブルは高い技量をもち、信頼を置かれていたことがわかる。

事実、彼はドップパイロットとして、地上に降下して間もないホワイトベースを大いに苦しめたともいわれている。だが、彼のような生粋の戦闘機パイロットは役目を終え、MSパイロットたちにその座を譲ることになる。



ゲビル

機動戦士ガンダム

「なんという破壊力だ！」

搭乗機：不明

優秀なドップ・パイロット

彼もまた、地球方面軍司令、ガルマ・ザビ直属のドップ戦隊の隊長の一人である。彼の戦隊は、地上攻撃には定評があり、ガルマに付き従って出撃した対ホワイトベース戦では、ジオン軍の主力戦車マゼラトップとの見事な連携で、ホワイトベースとそのMS部隊を苦しめた。

このドップは、サイド3のコロニー内で在来機のデータをもとにして、コンピュータシミュレーションで開発されている。いわば、きわめて特殊な航空兵器である。航空機というよりは、大推力で無理矢理機体を飛行させるという、乱暴な設計の機体であるため、バランスが悪いにもかかわらず、地上に投入されてすぐに活躍を見せた。それは、このゲビルのような優れたパイロットが揃っていたためだろう。



カンプ

機動戦士ガンダム

「こちらパトロール、ホットドッグ」

搭乗機：不明

ルッグン3の機長

ジオン軍、地上部隊の一地方基地の偵察部隊に所属していたパイロットである。

彼が乗り込むルッグンは、パトロール任務を主体とする機体であるが、戦闘攻撃機的な性格の強いドップと異なり、純粋な格闘戦機としての側面をもつ。そのためか、カンプが機長を務めていたルッグン3はホワイトベースのコア・ファイターと戦闘を繰り広げ、最終的には撃墜されたものの、コア・ファイターを小破させたという記録が残っている。

長らく、この戦闘に関わったジオン側のパイロットの名前は不明であったが、近年の研究でこのカンプ機がそのルッグンであったとほぼ確定されている。なお、カンプ機はこの戦いで自軍基地への帰投を試み、その寸前で墜落、カンプは戦死している。



ケージ

機動戦士ガンダム

「こちらルッグン3。304地区異常なし」

搭乗機：不明

偵察ミスで死んだ男？

先に紹介したカンプが機長を務めていた偵察機ルッグン、そのコードネーム「ルッグン3」と呼ばれた機体に搭乗していた副操縦士兼偵察員がこのケージである。地方基地のパイロットである彼の不運は、その支配地域をホワイトベースが通過し、その時にたまたま彼がパトロール任務に就いていたことであろう。この任務、彼自身はホワイトベースを見逃していたのだが、ホワイトベースの方が彼を見逃さず、リュウ・ホセイの搭乗するコア・ファイターを出撃させて撃墜しようとした。いくら空戦性能が優れているとは言え、純粋な戦闘機と偵察機では勝負になるわけもなく、この戦いでルッグンは撃破され、基地への帰投を試みるも途中で墜落することとなった。そして、ケージもそこで戦死したのである。

ガバラ



機動戦士ガンダム
「黒のMSのビームライフルだ」
搭乗機：不明

連係攻撃を得意とする

地球方面軍司令、ガルマ・サビ直属のザク部隊の隊長として知られる。ガルマの麾下には、彼を守るという意味も含めて優秀な人材が集められていたようである。つまり、ガルマ直属部隊で指揮を執っていたということが、そのまま彼の有能さを示すものである。

MS単体での戦闘や、MS同士での連携か精一杯であった当時にあって、彼はトップ戦闘機部隊やマゼラトップ戦車部隊との連携を成功させるという、先見の明を見せている。しかし、これは彼自身の功績というよりは、三次元的な部隊運用を得意とするガルマという上司の下にあって、必然的に身についた戦い方であると考えられる。ガルマも決して凡の七光だけで、大佐の地位にいるわけではないのである。

ビービ



機動戦士ガンダム
「うわあっ、MSが飛んだ！」
搭乗機：不明

ガルマに随伴するトップ隊隊長

ガルマが率いるトップ部隊で、小隊長を務めたパイロット。ガルマの護衛も任務とされており、能力的には並以上のパイロットであったが、傑出した存在とまではいかなかったようである。

とはいえ、命令にしたがっての地上攻撃、ガルマの護衛および随伴、さらには小隊を率いての行動など、一通りの任務をそつなくこなすことができる技量の持ち主であるビービは、副官に必要な能力を持つパイロットであったといえるであろう。

最後の戦いでは、ガルマに従って対ホワイトヘース戦に参加、その命令にしたがって臨機応変の攻撃を見せた。しかし、ノャンプ力を活かしたガンダムの空中戦で撃破されることとなった。

ギーン

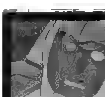


機動戦士ガンダム
「ギャロップはギーンのザクと共に墜ちた」
搭乗機：不明

弱きパイロット

ランハ・ラル隊の一員として、戦死したアコース、コズンの二人のパイロットに代わってザクのパイロットを務めたことで知られるのが、このギーンである。ギーンは、猛者ぞろいと言われたランバ・ラル隊の中にあっても高い能力の持ち主であった。もっとも彼はゲリラ戦を得意とする歩兵であり、パイロットとしては必ずしも高い適性を持つ兵士ではなかったが。しかし、ゲリラ戦を得意とするラル隊にあって、先任のMSパイロットであった二人を失ったため、やむをえず次点ともいえるギーンがその任についたのであろう。そのため出撃回数はラルの命令のもと、記として出撃した二度しか記録されておらず、二度目の出撃で撃破されている。

ステッチ



「機動戦士ガンダム」

「戦果挙げましたタンクをやりましたよ」

階級：不明

噴射炮に消えたザク

ステノチは、ランバ・ラル隊の一員として、戦死したアコース、コズンの二人に代わってザクのパイロットを務めた兵士として記録されている男である。

パイロットとしての腕は、必ずしもよいとは言い難く、また目先の攻撃目標にとらわれ、作戦目的を見失うなど、兵士としてのレベルも決して高くはなかった。そんな彼がなぜパイロットに選ばれたか？　それは、ラルがMSパイロットという兵種には、若手の兵士の方が向いていると考えていたからであろう。

対ホワイトベース戦でラルと共に、二度ザクに乗り込んで出撃しているとの記録が残っているが、その二度目の出撃で、ホワイトベースの後方から攻撃を仕掛けようとし、逆にホワイトベースの全力噴射を受けて戦死している。

クリンク



「機動戦士ガンダム」

写真入手不可能

「ヘイブ、ミディアの攻撃は中止だ。中利れを追う」

階級：中尉

ドダイYSの前線指揮官

クリンク中尉は、マ・クベ麾下のMS小隊で、MSの飛行補助システムの機能を備えたドダイYSのパイロットを務めていた兵士である。その機上に乗せたグフと共に行動し、指揮下にあるグフ以外にも、各部隊に命令を出したり、自らも戦闘に参加するなど現場指揮官的な役割を果たしていた。刻一刻と状況が変わる戦場において、臨機応変に対応を図る指揮官としてマ・クベの信頼も厚かった。

彼がホワイトベースへの補給物資を運ぶミディア隊を攻撃中、ガンダムの出現を察知し、自ら攻撃に赴いたのはその典型といえるだろう。しかし、この戦いにおいて、ガンキャノンの対空砲火で乗機ごと撃破され、戦死している。ドダイついては、パイロットを搭乗させるべきか否か、検討する必要があるだろう。

マーチ



「機動戦士ガンダム」

「パワーは落ちてんだ。即撃墜としてやる」

階級：不明

初めてGメカにやられた男

マ・クベ麾下のMS部隊で新鋭MS、グフを任されていた優秀なパイロットとして知られる。彼は、ホワイトベースへ補給物資の輸送を試みる、ミディア部隊に攻撃を加えるため出撃している。しかし、このとき出撃した3機のグフはホワイトベースMS部隊により全滅している。記録によると、彼は最後までガンダムを相手に奮戦していた一人であったが、そのために不名誉な記録も残ることとなってしまった。

それは、彼らが撃墜しようとしていたミディア輸送機によって運ばれてきたガンダムのパワーアップメカ、MS支援用多目的重戦闘機Gアーマーを利用した戦法で敗れた、初めての人物となったからである。以後、Gアーマーはめざましい戦果を挙げることになる。

ゴダール



海中から空を撃つ

ゴダールは、水陸両用MSを利用してのヒット&アウェイ戦法を得意としたパイロットとして知られる。

ミノフスキー粒子の散布によりレーダーが無力化されてからも、潜水艦をはじめとする水中兵器にとって航空機は天敵と思われていた。それは、有効な反撃の手段がないからだけではなく、水中兵器は比較的脆いものであるという考えがあったからである。しかしゴダールは、水陸両用MSという強固な水中兵器の特性を活かし、水中から飛びだし攻撃を加えるという戦法を確立した。彼はこれによって、対潜哨戒機に十分対抗できることを証明してみせた。だが、そんな彼がズゴックでホワイトベースを攻撃中、ホワイトベースの艦載機の攻撃で戦死したのは皮肉なことである。

リー・ホワン



立てなかったエース

リー・ホワンは、シャア大佐が指揮するマゾドアングラー隊に属するMSズゴックのパイロットとして知られるエースである。

水陸両用MSを駆り、優れた戦功を上げ続けた彼は、連邦軍からも恐れられていたという。そして、それを証明するように、ジャブローへの降下作戦においては、ズゴックのパイロットとしてシャアに随伴している。

この時、彼はキャリフォルニアベースから派遣されてきたガウ攻撃空母から降下した。だが、その降下中に対空砲火を浴びて撃破され、結局彼がジャブローに降り立つことはなかった。これに対してシャア大佐も、「リー・ホワンがやられたか、さすがにジャブローだ」と感歎の言葉を吐いたと言われている。

ジッタル



降り立ったパイロット

先のリー・ホワンとともに、シャア大佐のジャブロー降下作戦に参加したズゴックのMSパイロットとして知られる。

マゾドアングラー隊に属するパイロットの一人であり、リー・ホワンとともに連邦軍に恐れられた存在であった。

彼もまた、連邦軍ジャブロー基地への初めての攻撃に参加。キャリフォルニアベースから派遣されてきたガウ攻撃空母から降下した。水陸両用MSの特性を活かして水面に降下したのだが、そこで連邦軍の魚雷攻撃を受け爆散、戦死することとなった。結局、シャア大佐とともに降下したMSはいずれも撃破されることとなったが、これは彼らの能力というよりジャブローの防衛の厚さを物語るエピソードであろう。



クラフト

搭乗機：ガンダム

ジムを壊し損ねた男

シャア大佐麾下の特務部隊として、連邦軍のジャブローに対する潜入工作を行ったパイロットの一人として知られる。元々、ジオンにおいては兵科の住み分けが明確でなく、MS部隊が特務部隊めいた作戦に従事することも少なくなかった。そのため、潜入工作向けのMSとして開発されたアッガイを主力装備とした部隊が編制される例も少なくなかった。クラフトが所属していたのもそのような部隊のひとつであり、正規の戦闘よりこのような戦いを得意とする者が集められていた。

そのため、MS戦闘力は必ずしも高くなく、ジャブローの脱出時にガンダムの追撃にあってアッガイごと撃破され、戦死することとなった。



イワノフ

搭乗機：ガンダム

撃ち抜かれた工作員

ジャブローに潜入したアッガイ部隊の一員として知られるパイロット。クラフトと同様に、ジャブロー潜入作戦のためにシャア大佐の指揮下に編入された兵士であり、MSパイロットとしてより、潜入工作員として優秀な存在であった。とはいえ、MSのパイロットとしては並以上の腕のもち主であったようだが。

彼もジャブロー潜入工作に失敗後、アッガイに乗り込んで脱出を図ったが、ガンダムのビームライフルに撃ち抜かれて撃破されてしまった。なお、余談であるがこのアッガイ部隊で最初に犠牲になったのが彼のアッガイであったという。ちなみに彼らが潜入時に着用していたスーツは、MS用のものよりもさらに耐弾性、耐熱性に優れ、セーピング機能も充実していた。



ラムジ

搭乗機：ガンダム

最後に倒れた男

ジャブローに潜入したアッガイ部隊の一員として知られる。

潜入工作を行った際には、クラフトと共に、ジムの工場に爆弾を仕掛けていたという。ただし、この破壊工作がホワイトベースに乗り込んでいた年端もゆかぬ子供たちによって阻止されたのは有名、かつ皮肉な物語である。

作戦の失敗から、ほかの隊員とともにアッガイでの脱出を図ったが、逃走中に背後からガンダムにビームサーベルで斬りつけられ撃破された。

この戦いでは潜入したアッガイ、4機すべてが撃破され、シャア大佐のズゴックのみが生還をはたした。だが、その4機中、最後まで生き残っていたことからも彼の腕の確かさがうかがえる。

カワハヤ

機動戦士ガンダム

写真入手不可能

機種：不明

歴史の生き証人

彼の名が広く知られているのは、その戦果ではなく、ある戦いののろしを上げた存在として語られるからである。

その戦いとは、サイド6の宙域外でコンスコン率いるリノクドム16機を、僅かな手勢で撃破したホワイトベース部隊のあの戦闘のことである。

この戦いで、コンスコン隊の一員として、リノクドムを駆り作戦に参加した若きカワハヤは、周辺に漂う隕石に潜み、ホワイトベースの動きを監視していた。そして、ホワイトベースが浮きドックで修理を行おうと、サイド6の宙域から出たところを本隊に信号弾で知らせたのである。カヤハヤ自身は戦闘には参加しなかったが、彼は一発の信号弾で歴史に名をとどめたのである。

バタシャム



機動戦士ガンダム

「妻子は無事らしくなったのであります」

機種：不明

オールドタイプの代表

ノャア大佐率いる機動巡洋艦サンジバル所属のリノクドムのパイロットであるハタシャム。彼は、ララァ・スン少尉の護衛を務めた2機のリノクドムのパイロットの一人として知られる。そこそこの腕を持つベテランパイロットであったバタシャムは、実戦経験もろくにないララァ少尉のエルメスが、超エース級の働きをするのを見て、自らを危険にさらしてまで護衛しなければならないこの任務に、疑問を抱いたという。

これは、ニュータイプパイロット、あるいはサイコミュシステムの尋常ならざる性能を語る上で、度々触れられる有名なエピソードであり、その一方の主役として名前を残したことは、バタシャム曹長にとっては、誠に不本意なことであっただろう。

マイヤー



機動戦士ガンダム

「ビグザムの目標は？」

機種：少尉

ソロモンの生き証人

宇宙攻撃軍司令・トズル・ザビの側近として、ドズル出撃の際には必ず付き従っていたMSパイロット。その一人がこのマイヤーである。ただし、ドズルが自ら出撃することがなくなってからは、もっぱら側近として、かつ幕僚の一人としての活躍を見せていた。そんな彼が、再びパイロットに返り咲いたのは、宇宙要塞ソロモンが陥落する寸前、ドズル中将が大型MAビグザムで出撃するときに、その副操縦士として付き従ったときであった。

だが、ソロモンの陥落が決定づけられたとき、ドズルは最後まで彼に従おうとしたマイヤーら2名に脱出を指示した。かくして、彼は歴史の生き証人となったのである。

バーナード・ワイズマン

『機動戦士ガンダム0080』

「あいつと……ガンダムと戦ってみたくなったんだ」

階級：伍長





BERNARD WISEMAN

その温厚な性格は軍人としては　不向きだったかもしれない



▲サク手製ガンダム！　キ　ヤすそワイズマン伍長



ガンダムのビームサーベル　ニクートを貫かれる。壮絶な最期

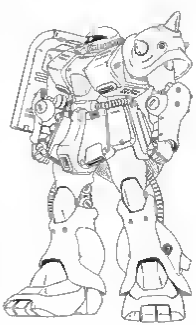
心やさしき伍長

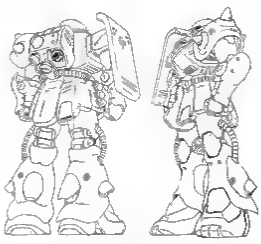
ハイスクール卒業と同時に徴兵され、パイロット短期集中養成コースを経てザクパイロットとなったジオン公国軍新兵。仲間うちではバーニィと呼ばれる。UC0079年12月、サイド6強襲作戦において初陣を果たすが、戦闘開始直後に連邦軍のゾムコマンドに狙撃され、コロニー内の森林公園に墜落。そこでMS好きの少年アルと出会い、新型ガンダムのコンテナを撮影したビデオディスクを譲り受ける。

グラナダに帰還した後、彼はガンダムの情報をもち帰ったことにより特務部隊「サイクロプス隊」に編入され、第二次ガンダム奪取作戦「ルビコン作戦」に参加。同年12月19日の作戦決行日、警備兵に変装してサイド6の連邦軍施設へ潜入するが、検問の際に叩いた軽口からジオン兵であることが露見し作戦は失敗。サイクロプス隊は彼を除き全滅する。

作戦失敗後いったんは脱出を図るが、アル少年に説得されサイド6に残留。12月25日、ザク改を駆って新型ガンダム「アレックス」に一騎討ちを挑む。森林地帯のゲリラ戦にもち込むことで彼はアレックスと互角にわたり合う。その際、ガンダムは大破し、パイロットも重傷を負った。だが、彼もガンダムのビームサーベルにコクピットを貫かれて即死した。

享年19歳であった。





MS-06FZ ZAKU II FZ

一年戦争後期のザク。コクピット周辺が変更され　メンテナンス性が向上した

シュタイナー

『機動戦士ガンダム0080』

「言葉が不明瞭な奴だな。はっきりしない奴は死ぬぞ」

声優：大塚



STEINER

軍人としての悲しい性を背負う人であった



▲なぜかパイロットスーツ着ることはない。エースの意地か？



▲連邦の北極ゲートで部下のアンディを失ってしまう

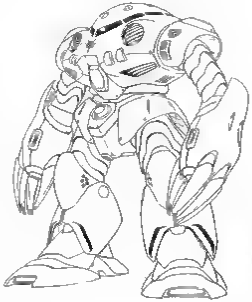
捨て石となった軍人

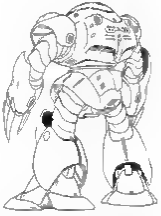
シュタイナーは浅黒い肌とグレーの髪、質実剛健な印象をもったたき上げの職業軍人であり、ジオン軍特務部隊「サイクロプス隊」の隊長として、数々の特殊任務に従事した。

一年戦争も終わりに近いUC0079年12月、彼のサイクロプス隊は特命を受け、ズゴックEを駆って北極の連邦軍研究施設を襲撃。この作戦は、連邦が極秘に開発していたニュータイプ用新型ガンダムを奪取もしくは破壊することが目的だった。だが、研究施設にはジオン軍の襲撃に備えて脱出用シャトルが準備されており、あと一歩のところでガンダムの離脱を許してしまう。

その後、新型ガンダムがサイド6に運び込まれたことが判明、再びガンダム奪取作戦を命じられる。サイド6への潜入を果たしたシュタイナーは、12月19日に作戦を決行。部下とともに警備兵に変装し連邦施設への潜入を果たすが、バーナード・ワイズマン伍長の失策によりジオン兵であることを見破られ、銃撃戦のうえ戦死した。

ルビコン作戦と呼称されるこの作戦は、実はジオン軍上層部にとってはガンダムの所在を確かめるための囮に過ぎず、実際にはサイクロプス隊は捨て駒も同然であった。シュタイナーはこのことを見抜き、生還の可能性がほとんどないことも承知していた。だが、それでも彼は、あくまでもおのれの任務に忠実であろうとしたのだった。





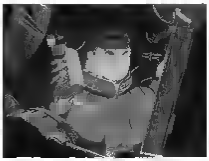
MSM-07 EZ'GOCK EXPERIMENT

前期型のズゴックを大幅に改修した機体。主に隊長クラスに配備された

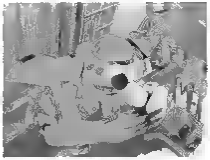
ミハイル・カミンスキー

『機動戦士ガンダムUC0080』

「さあ来い　戦いかたを教えてやる！」



▲トムも持ちあんでいる



▲北極てはハイゴックに搭乗。巧みな操縦で　最新のジムを撃墜していく



MIKHAIL KAMINESKY

温厚であるか　MSの操縦テクニックは一流であった

酒豪の闘士、散る

ミハイル・カミンスキーは、ンュタイナー率いるジオン軍特務部隊「サイクロプス隊」のメンバーで、MSの操縦の腕は部隊ナンバーワンを誇る。巨漢のロア系白人でオレンジ色の髪を持ち、仲間からはミーシャという愛称で呼ばれていた。

UC0079年12月9日、北極における新型ガンダム奪取作戦に参加。ハイゴックを華麗に操り、連邦のジム部隊を相手にめざましい戦果を上げる。

その後　第一次ガンダム奪取作戦「ルビコン作戦」に参加し、サイド6に潜入する。そして作戦決行日の同年12月19日、ジオン軍新型MS－MS－18Eケンプファーで出撃。市街地を縦断し、ジムスナイパーカスタムとガンキャノンで編成された連邦軍MS部隊「スカーレノト隊」をただ一機で全滅に追いやった。しかしその直後、遅れて出撃してきた新型ガンダム「アレノクス」との一騎討ちの末、ガトリング砲にコクピノトを撃ち抜かれて壮絶な戦死を遂げる。

彼はたいへんな酒豪でもあり、出撃の際もスキノトルに詰めたウィスキーをコクピノトに吊り下げることを忘れず、戦闘行動中にも平然とボトルを傾けるという豪傑ぶりであった。そして彼もまた、ンュタイナーと同しく自分が捨て駒に過ぎないことを知っていたが、例えそうであっても、自分のなすべきことをあくまでもやり通すのが彼という男だった。





MS-18E KANPFER

一年戦争末期に開発された強襲用MS。数々の重火器を携帯することができる

ガブリエル・ラミレス・ガルシア



【機動戦士ガンダム 0083】
「前方の氷山方面に異変反応」
声：[illegible]

野卑な戦争屋

ジオン公国特殊部隊　サイクロプスに所属する軍曹である。気性が激しく、言葉遣いも必ずしも模範的とは言い難い。だが、本来はジオン公国軍人の名に恥じない男である。シュタイナー大尉が特殊部隊であるサイクロプスに引き入れただけあって、任務に対する責任感とMS操縦、工作技術には目を見張るものがある。

一年戦争末期、連邦の新型MSであるRX－78 NT－1を巡る作戦に参加する。輸送中のNT－1を破壊するためMSM－03ハイゴッグで連邦軍北極基地を襲撃するも失敗。さらにそれを追い、中立コロニーであるサイド6へ侵入を果たす。この作戦ではMS戦闘は先鋭であるカミンスキー少尉に任せ、シュタイナー大尉とともにNT－1の破壊工作を担当するが失敗、戦死している。

アンディ・ストロース



【機動戦士ガンダム 0083】
「ヤクト参謀みたいになってます 前に出ます、進行します！」
声：[illegible]

洒落た戦争屋

サイクロプス特務部隊隊員。粗暴な隊員が多いサイクロプス隊内では、比較的身だしなみに気をつかう、洒落っけのある人物だったようだ。

連邦軍北極基地襲撃作戦に参加　シュタイナー大尉らとともにMSM－03Cハイゴッグで海面下より進入する。計画段階では、四機のMSで基地水－部を襲撃する予定であった。だが　海中を航行中に氷山方向からの暖流反応を感知。これにより基地へ通じる海底通路を発見するに至る。シュタイナー大尉はアンディとともに通路へ進入し、大きな抵抗もなく基地内潜入に成功する。だが、すでに時遅く新型MSはシャトルに積み込まれ、発射態勢に入っていた。発射を阻止すべく、アンディは単独で攻勢に転じるも、ノズルに囲まれ失敗、自らも帰らぬ人となる。



MSM-03C HY-GOGG

連邦軍北極基地襲撃にて ミーノヤ ガルシア アンディが搭乗した

アナベル・ガトー

『機動戦士ガンダムUC0083』

「星の屑、成就のために…ソロモンよ、私は帰ってきた！」

声優：小佐







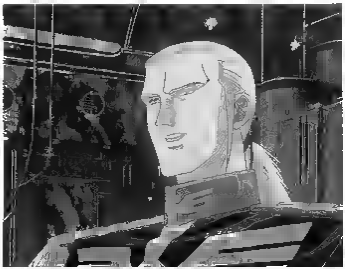
ジオン公国復興のために

一年戦争時にはサビ家の親衛隊も務めたジオン公国軍のエースパイロット。ニュータイプではないが、その戦果は計り知れない。UC0079年12月24日の、名高いソロモンの戦いではドズル・サビ中将率いる宇宙攻撃軍に所属、MS-14Sゲルググを駆り、鬼神のような戦いぶりで敵味方を驚愕せしめる。この戦い以降、彼はジオン兵士からは英雄として崇拝され、連邦軍からは恐怖をこめて「ソロモンの悪夢」の異名で呼ばれるようになる。その活躍は戦史にも残り、連邦軍士官学校の教本にも彼の名は輝いている。同年12月31日のア・バオア・クーの最終決戦においても数多くの連邦MSを撃破するが、母艦ドロワが撃沈され彼自身も未帰還。戦死したものと見られていた。だが実際には彼はジオン軍戦艦グワデンに保護され、艦長エギーユ・デラーズの説得により戦場からの離脱を決意、戦争終結後はジオン残党勢力「デラーズ・フリート」の有力メンバーとして宇宙の辺境で雌伏の時を過ごしていた。

UC0083年に入り、連邦内で極秘

ANAVEL GATO

一年戦争時は「ソロモンの悪夢」として恐れられた。終戦後も彼の戦争は終わっていなかった



▲大義のために、屈辱の敗走を耐えて進んだガトー。そして「星の屑作戦」へ向けて最後の命の炎を燃やした

に「ガンダム開発計画」が進んでいることが判明。その中に、戦術核搭載型ガンダムの計画があることが発覚するや、デラーズ・フリートは「星の屑」作戦を立案。ガトーはその第1、第2段階の作戦実行者に任命される。

同年10月9日、ガトーは地球の大地を踏む。そして10月13日、「星の屑」第1段階として、オーストラリアの連邦軍トリントン基地に潜入、戦術核の搭載を終了したガンダム試作2号機の奪取に成功した。この作戦で彼は、追撃してきた連邦兵士に対して通信回線を開き、自らアナベル・ガトーの名を名乗っている。敵兵士は「ソロモンの悪夢」の名に恐れおののき、そしてこの瞬間、彼は歴史の表舞台に再び返り咲いた

ソロモンの悪夢、再び

11月10日、ガトーはMS隊を率い、現在はコンペイトウと呼ばれている旧ソロモンへ向けてガンダム試作2号機で出撃。この日、ソロモンでは連邦軍艦隊の観艦式が行われており、連邦の宇宙戦力のほとんどが集結していた。彼は敵の迎撃をすべて退けてソロモン港湾内に侵入、蝟集している敵艦隊に天頂方向から核攻撃を敢行、一撃にして連邦の宇宙艦隊の二分の二を壊滅せしめた。これが「星の屑」第2段階であった。この作戦の直後の帰還途中、連邦軍独立部隊アルビオン所属のガンダム試作1号機と遭遇戦になり相打ち。無事生還するも、役目を終えた2号機は大破、破棄された。

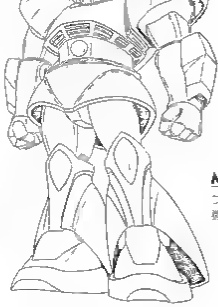
翌日、デラーズ・フリートは「星の屑」作戦最終段階としてコロニー落としを敢行。アクシズの勢力から新型MA、AMA－X2ノイエ・ジールを受領したガトーは11月12日　コロニー落下を阻止せんとする連邦軍艦隊に対して迎撃作戦に出る。彼のこの奮戦によってコロニーは軌道修正限界ラインを突破、地球への落着が確実なものとなったが、同日、部下をアクシズに合流させる突破口となるために連邦軍に突撃、多数の敵将兵を道連れに壮絶な最期を遂げた。彼は、宇宙の戦場に再び悪夢を葬らせたのだった。



▲ジ[illegible]に対して[illegible]イトウに核ミサイルを発射し[illegible]



▲最後にはMAノイエ・ジールを墜として　特攻をかけた



MS-14 GATO'S GELGOOG

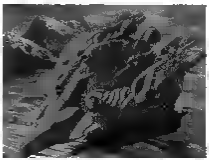
ブルーとグリーンのパーソナルカラー機体。ア　バオア　クー攻防戦に参加

ケリィ・レズナー

『機動戦士ガンダム0083』

「俺は負け犬にはならないぞ　どんなことがあってもな！」

声優：大塚



▲パイロット[illegible]彼をもう一度コクピットへ[illegible]



▲操縦系統を改造して片腕でコントロールを可能にしている



KELLEY LAYZNER

片腕を失うことは　パイロット生命を断たれる[illegible]同然であった



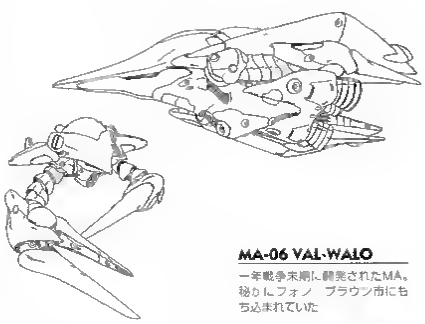
隻腕のMAパイロット

ジオン公国軍ドズル・ザビ中将の指揮する宇宙攻撃軍に所属していたMSパイロット。歴戦の勇士ながら左腕を失ってモビルスーツから下ろされ、そのまま終戦を迎える。「ソロモンの悪夢」アナベル・ガトーとは互いに信頼しあう戦友だった。

終戦後は月面都市フォン・ブラウンの最下層に住み着きジャンク屋を営んでいたが、スペースノイドの独立とパイロットとしての再起を切望し、グラナダにて旧ジオンの試作MA、ヴァル・ヴァロを入手、自力で改修を果たす。

当初は、決起した「デラーズ・フリート」にパイロットとして参加するつもりだったが、デラーズのシーマ中佐がヴァル・ヴァロだけを欲して彼を放り出すつもりであることを知り翻心。UC0083年11月4日、単身フォン・ブラウンから月面に出撃し、アナハイム社で換装を受けていた試作型ガンダムI号機に戦いを挑む。彼は機動性能の高さを生かした高速攻撃で優勢に戦いを進め、ついにハサミ状の格闘用アームでガンダムの捕獲に成功したが、Bパーツを分離してアームを逃れたガンダムにボディを貫かれ戦死を遂げた。

レズナーは出撃に際して、彼に想いを寄せる女性、ラトーラに涙ながらに引き留められた。だが、パイロットとしておのれの戦いを成就するため、敢然と死地に赴いて行った。



MA-06 VAL-WALO

一年戦争末期に開発されたMA。秘匿にフォン・ブラウン市にも持ち込まれていた

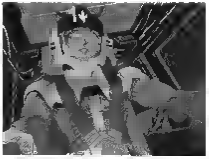
シーマ・ガラハウ

『機動戦士ガンダム0083』
「このシーマの上前を、はねるつもりかい！」

声優：中佐



▲改良の乗るゲルググ。指揮官タイプでビームライフル（を装備して）



▲緑成を指揮しながらも自ら出撃し乗り込む。生粋のパイロットだからか？



CIMA GARAHAU

一年戦争時は、上司の無謀てられ彼を一手に引き受けていた

はかない蜻蛉のように

ンオン公国軍の女性士官。一年戦争時は突撃機動軍所属であった。上司アサクラ大佐の下で、コロニーへの毒ガス注入などの汚れ仕事一切を引き受けていた。ザンジバル級巡洋艦リリー・マルレーンを指揮しており、宇宙戦力の運用においては極めて有能だが、むきだしの野心をもつため味方からも危険な人物だと見なされていた。

彼女は一年戦争終結後もその生存が確認されている。戦争終結後は宇宙の辺境に落ちのびていたが、UC0083年10月25日、エギーユ・デラーズ総帥に艦隊運用の腕を買われて「デラーズ＝フリート」に参画。10月31日、デラーズの宣戦布告演説と同時に連邦軍艦隊に攻撃を開始し、自らもゲルググ・マリーネを駆ってアルビオンのMS部隊と交戦。また「星の屑」作戦最終段階にあたっては移送中のコロニーを奪取する任務を負い、これを見事成功させた。彼女は表向きはデラーズ・フリートのために奮戦していたが、裏ではアナハイム・エレクトロニクス社の重役や連邦軍の高官と密かに内通しており、自らの保身と、地位を得たいがためにデラーズ総帥を売ろうと画策。1月12日、ついに旗艦グワデンのブリッジを占拠するに及ぶが、その際に生かしたまま連邦に引き渡すはずだったデラーズを射殺してしまい計画は頓挫。アナハイムの新型MS・ガーヘラ・テトラでグワデンから脱出したところ、ガンダム試作3号機、デンドロビウムと遭遇戦となり、近接格闘戦の末メガビーム砲の直撃を受けて宇宙の塵となった。



MS-14FS GELGOOG MARINE

彼女用にカスタムアップされている指揮官用ゲルググJ

ノイエン・ビッター

『機動戦士ガンダム0083』

「言ったぞ 星の屑作戦に栄光あれ！」

声優：少将

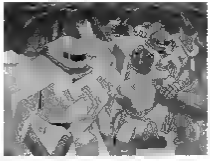


NEUEN BITTER

一年戦争終結後も[illegible]決起の機会をうかがっていた



▲敗残者となっても　大儀は自分にありと　長く優し抵抗していた

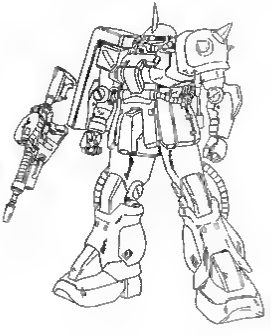


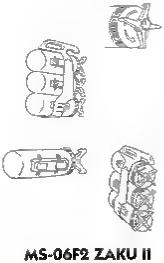
▲捨て石となり　カトーとGP-02Aを宇宙へ送る。そのとき　勝利を確信した

敢えて捨て石を望む

レオン公国軍地上部隊の将軍。終戦協定締結後も連邦軍に降ることなく、廃棄されていた東アフリカのダイヤモンド鉱山キンバライドを地下基地に改造、再起を図るため多くの兵士とともに3年もの間、潜伏していた。その長期にわたる雌伏の苦難を知ったアナベル・ガトーは、彼を評して「武人の鏡」とまで言った。「デラーズ・フリート」の計画に賛同したビノターは、UC0083年10月23日、アナベル・ガトーとガンダム試作2号機を快く迎え入れ、全基地を挙げてガンダムを宇宙へ送り出すことに尽力。ただ1機残っていたHLVをガトーに与え、連邦の追っ手である揚陸艦アルビオンを食い止めるために自らMS隊を指揮して出撃した。機動作戦で敵戦力の分断に成功した彼は、ブースターを装着したカスタム・ザクでアルビオンのブリッジに肉薄するが、ウラキ少尉のガンダム試作1号機による長距離狙撃を受け大破、戦死を遂げた。

ギレン＝ザビの信奉者だったビノターはデラーズ・フリートへの協力をおのれの生涯最後にして最大の任務と定め、命を捨ててガトーを宇宙へ送り出すことに成功した。彼は副官ヴァール大尉に、自分の死後は降伏するよう命じており、キンバライドは間もなく白旗を掲げた。





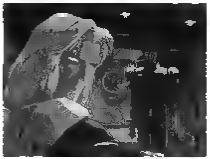
MS-06F2 ZAKU II

背部に追加ロケットを装備しており　一時的にジャンプ力を上げることができる

カリウス

「機動戦士ガンダム0083」

「この海はまだ若いのです。凪が穏やかになるにはまだ」



▲カリウスはガトーに対し、絶対の信頼をもっていた



▲最後は、ガトーニナを比これ生き残ることになってしまう



KARIUS

はからずも「星の屑」作戦の生き証人となってしまった



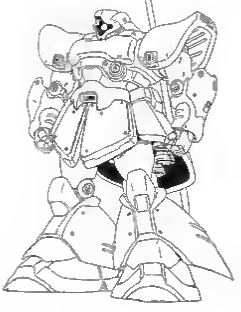
ガトーの忠実なる腹心

浅黒い肌をした精悍な顔立ちのMSパイロット。一年戦争では、「ソロモンの悪夢」アナベル・ガトーの部下として、ノロモンの激戦、ア・バオア・クーの最終決戦を戦い抜いた歴戦の勇士である。

終戦後、ジオン公国の復興のため再起を計っているエギーユ・デラーズの勢力に参加。第302哨戒中隊隊員として、以後アナベル・ガトーの直属部隊に転属し、再びその指揮のもとで戦場を駆けることになる。

UC0083年11月10日、「星の屑」作戦第2段階である、ノロモン海宙域における地球連邦軍観艦式襲撃作戦に参加。MSをリックドムIIに乗り換え、ガトーの護衛として勇戦、ただ一機にして連邦軍の一個小隊を壊滅せしめるという活躍を見せる。続く11月12日の、「星の屑」最終段階であるコロニー落としにおいても参戦、落下を阻止せんとする連邦軍艦隊を相手に奮闘する。

カリウスは、アナベル・ガトーが心を許して話すただ一人の部下であり、公私ともにもっとも信頼されていた。彼はガトーから元恋人ニナ・パープルトンを託され、アクシズ先遣艦隊に合流、ここで紛争終結を迎えた。彼にとっては死ぬことよりも辛い命令だったと思われる。以後の彼の消息は不明とされている。





MS-09R II RICK DOM Zwei

少数生産されたリックドムの改良機

アダムスキー



「ドライセが最後に来ます。時間がありません！」

声優：小杉

決起したドムパイロット

ジオン公国軍に所属し、一年戦争を戦って生き延びたMSパイロット。終戦後も連邦に降伏することを潔しとせず、再起の時を待っていた。UC0083年10月13日、「星の屑」作戦の発動に伴い、アナベル・ガトーに付き従ってその第一段階に参加、同僚であるボブ、ゲイリーらとともに地球連邦軍トリントン基地のあるオーストラリア大陸に渡る。翌14日早朝、ユーコン潜水艦801号の潜む海岸にほど近い岩場にて伏兵として待機、ガンダム試作2号機を奪取したガトーの脱出を援護する任務を負った。立ちこめる濃霧を利用し、機動性に優れたドム・トローペンを操り連邦軍ハニング小隊に奇襲攻撃を敢行、その足止めには成功するものの、チャノク・キース少尉操るザクのヒートホークに愛機を直撃され戦死を遂げる。

ゲイリー



「ザクⅠ連邦に下ったのか。その名は汚すなよ・・・」

声優：小杉

墨ることのない愛国心

ジオン公国軍兵士として一年戦争を戦い抜いたMSパイロット。戦争中は地上部隊に所属、終戦後も降伏せず潜伏していた。やがてジオンの理想を完遂するためエギーユ・デラーズの独立反乱軍力デラーズ・フリートの作戦に参加してゆく。「星の屑」作戦のために密かに地球に降下してきたアナベル・ガトーに協力し、ボブ、アダムスキーとともにオーストラリア大陸に上陸。作戦の第一段階であるガンダム試作2号機強奪計画の援護部隊となり、UC0083年10月13日、ホハーノフェノトを装備したドム・トローペンを駆ってトリントン基地を強襲、連邦軍ハニング小隊のザクを居合い抜きで両断する手錬を見せた。愛国者の彼は、ジオン公国軍の象徴ともいうべき名機ザクが敵である連邦に使われている事実をこのとき知って心を痛めていた。

ボブ



「ここは我が支えます。行って下さい！」

声優：小杉

たぐいまれな射撃術

一年戦争時のジオン公国軍兵士の生き残り。キンバライト鉱山基地に潜伏し、決起の機会をうかがっていた。「星の屑」作戦第一段階を遂行するため、アナベル・ガトーに率いられてオーストラリア大陸へ上陸。地上戦用重MS・ザメルに搭乗し、連邦軍のトリントン基地に68cmカノン砲による遠距離砲撃を加える。その一撃は本部施設に見事命中、トリントン基地の部隊指揮能力を完全に喪失せしめた。

翌日早朝、奪取したガンダム試作2号機とガトーをユーコン潜水艦で脱出させるため単身地上に残り、連邦軍のハニング小隊による追撃を阻止。そして命がけの死闘の末、ハニング大尉に重傷を負わせるが、刺し違いにビームサーベルで腹部を串刺しにされ戦死する。

デトローフ・コッセル



【機動戦士ガンダム0080/0083】

「シーマさま、囲まれています。敵の増援を呼ばれます」

声優：大川

宇宙を荒らす無法者

シーマ・ガラハウの副官。長年シーマの補佐役を務めた腹心の部下であり、彼女がモビルスーツで出撃するときには艦隊と旗艦リリーマルレーンを預かる。

がっしりした体格の大男で顔つきも凶悪で強面。シーマ艦隊は一年戦争の終結後、宇宙の辺境で無法者として鳴らしてきたため、シーマとコッセルの関係は上官と部下というより女海賊とその一の手下といった趣である。シーマの留守を預かる間の艦隊運用は的確であり、軍艦乗りとしてはきわめて有能である。

デラーズを裏切って連邦に売ろうと計るシーマを手伝い、UC0083年11月12日、旗艦グワデンの艦橋の占拠に成功するが、逆上したガトーの一撃がグワデンの艦橋を粉砕したため宇宙空間に吸い出され、無惨な死を遂げる。

ウォルフガング・ヴァール



【機動戦士ガンダム0080/0083】

「閣下、我々は、まだ戦えます！」

声優：大川

誇り高き白旗

旧ジオン公国軍の士官で、地上部隊の将軍ノイエン・ビッターの副官。終戦協定締結の後も連邦軍に屈せず、キンハライト、ダイヤモント鉱山を改造して基地とし、MSをはじめとする地上戦力を温存して再起の時をうかがっていた。

UC0083年、デラーズ・フリートからの協力要請に応じてアナベル・ガトーの秘密作戦を支援、ガトーとガンダム試作2号機を迎え入れる。同年10月23日、ガトーを追跡する連邦艦アルビオンの迎撃戦が始まる。このとき彼は、出撃前のビッターから、ガトーを乗せたHLVを射出した後は降伏するよう命じられる。ヴァールはガトーを宇宙に帰すことにみごと成功し、ビッター戦死を確認した後、3年間の潜伏活動で疲れきった兵たちを連れて、アルビオンに白旗を掲げた。

クルト



【機動戦士ガンダム0083】

「ザクⅠ機で、MAを止めようというのか！」

声優：中村

自ら招いた失態

シーマの部下で、MSパイロノト。色黒の肌に鋭い目付きをした小男である。

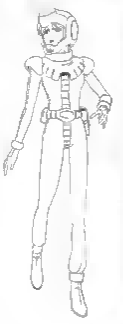
UC0083年11月3日、シーマに付き従ってフォン・ブラウンに潜入。MAヴァル・ヴァロを隠し持ち、パイロノットとしての再起を願っている片腕のジオン軍元大尉ケリィ・レズナーと接触する。

クルトは、シーマがヴァル・ヴァロのみを欲しており、レズナーは放り出すつもりであるとつい口を滑らせて教えてしまう。このことでレズナーは単身、ガンダム試作1号機と決闘することを決意し出撃。この結果、クルトはシーマの不興を買い、落とし前としてザクⅠ機でヴァル・ヴァロの足止めをさせられることになる。すさまじいスピードで迫りくるヴァル・ヴァロに、すれ違いざまにまっぷたつに切り裂かれて死亡した。

アイナ・サハリン

機動戦士ガンダム第08MS小隊

「ジオンと連邦が助け合える、あなたといると不思議です」



AINA SAHALIM

テストパイロットとして兄を助ける。部下からも信望がある





▲シローとアイナ　し後かれる有向士が　戦場で再会する



▲シローとの出会いによって兄との関係も変化し始める

敵と味方の狭間で揺れ動く心

ジオン公国の名門、サハリン家の娘。病身の実兄ギニアス少将の右腕として、ミノフスキークラフトを実装した飛行型重MAアプサラスのテストパイロットを務める。

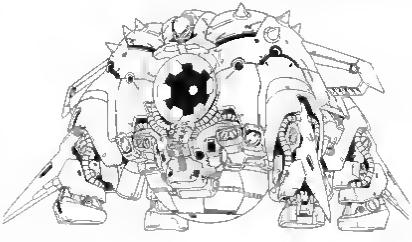
UC0079年10月6日、アプサラスのデータ収集のため試験型ザクで宇宙に出撃、偶然遭遇した連邦のジム部隊を壊滅させるが、ボールによる奇襲攻撃を受けて撃墜された。漂流中の強襲艦に避難した彼女はボールに搭乗していた連邦士官シロー・アマダと出会い、彼と協力して味方の救助を呼ぶことに成功する。

地球に帰還後、ジオン軍射爆場でのアプサラスのテスト飛行中、連邦の第08MS小隊の奇襲を受ける。陸戦用ガンダム1機に組み付かれたままアプサラスは高速離脱、このとき接触通信によって、ガンダムのパイロットがシロー・アマダであることを知る。雪山に墜落し、遭難した彼女とシローは、つかのま心を通わせあう。

11月9日、オデッサ陥落。ジオンは地球での拠点を失い、アイナもアプサラスの完成を待たずに宇宙への離脱を決意する。しかし、脱出ルートを確保するために出撃したノリス大佐が、壮絶な戦死を遂げ、親代わりである彼を失ったアイナは逆上。弔い合戦を挑むためにアプサラスで出撃、連邦のMS部隊をなぎ払い、敵に多大な被害を与えたのだった。

APSARAS

重点強襲を目的とした重MA。中央の巨大な口は　大口径メガ粒子砲である



ノリス・パッカード

『機動戦士ガンダム第08MS小隊』

「アイナさま、自分は、死に場所を見つけました」

構成：大佐



▲シロー　アマダ少尉とは2度　MSでの戦闘でまみえている



▲グフカスタムに乗り　まさに鬼神のごとき戦いを繰り広げる



NORRIS PACKARD

アイナへ対する忠誠しか眼中にない彼女を戦場に導いてしまった

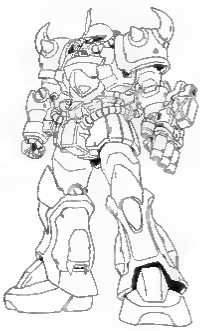
死に場所を求めて

ジオン公国の名門サハリン家に近侍として仕える壮年の士官で、いかなるときにも厳めしい顔つきを崩さない生粋の職業軍人。戦闘機とMSの腕はエース級を誇る。

特に親代わりとして育てたサハリン家の娘アイナに対する忠誠心はなみなみならぬものがあり、アイナが試作重MAアプサラスのテスト飛行を行う際には必ず戦闘機ドップで随伴し、露払いを務める忠臣ぶりである。

オデッサ陥落後、アイナの乗る戦艦ケルゲレンの脱出ルートを確保するために、ノリスは生きて還れないと知りながらも、たった一人でグフにて出撃。ワイヤーを駆使した三次元の攻撃で第08小隊の猛者たちを手玉にとり、シオン軍基地攻略のために、連邦が配置したガンタンク部隊を全滅に追いやる。そして最後の一機となったガンタンクをしとめると同時にシロー・アマダ少尉にコクピットを貫かれ、名誉ある戦死を遂げた。

ノリスは封建的な気質のジオン公国軍のなかにあってもとりわけ古風な忠誠心を持ち、戦士としての高潔な誇りを抱き、任務にあたっては厳格にして公正。その容貌や性格は決して親しみやすくなかったが、部下からは畏怖と尊敬を受け、アイナにもよく慕われていた。彼の死は、アイナを連邦への復讐に駆り立てることになる。





MS-07B3 GOUF CUSTOM

主にマニピュレーター　装備の面で改良が加えられたグフのカスタム機

トップ



「機動戦士ガンダム第08MS小隊」

「追われる身でね。気が抜けないのさ」

階級：不明

悲劇の女性MSパイロット

ジオン軍ザク小隊の女隊長。作戦行動中、補給が断たれたまま本隊からはぐれてしまい、食料を調達するためにレジスタンスの村に侵入した。が、新兵アスがいたずらに村人を刺激する行動をとり、村人は激昂。交戦状態に突入してしまう。トップは女性ながら歴戦の熟練兵で、性格は苛烈ではあるが本来無用な殺戮やトラブルを好まない分別のある人物である。だがシロー・アマダの攻撃によって愛機を転倒させられ、怒りに我を忘れてしまう。殺到するゲリラたちを前に死の恐怖に駆られた彼女は婦人兵器を使用、十数人を一撃で殺害してしまった。これ以上村人に被害が出ることを恐れたノロは対戦車砲を使用、砲弾はザクのコクピットに命中し、彼女は死亡した。

デル



「機動戦士ガンダム第08MS小隊」

「何もしゃしない、言い掛りをまわってもらった気だ」

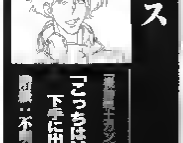
階級：不明

高くついた食事の代償

トノフ率いるジオン公国軍サク小隊のパイロット。トノフらと共に、レジスタンスの村とは知らずに侵入し、思わぬ抵抗に遭う。はからずもレジスタンスのリーダーであるキキの父親をバーニアの噴射に巻き込んで死亡させてしまい、これが村人をさらに復讐に駆り立てることになる。サンダースによるビームライフルの長距離射撃を受けて彼のザクは戦闘力を喪失し、村人の手にかかって死亡した。

デルは体格もよく、こわもての外見をしているが、見かけによらず子ども好きである。彼の愛機のコクピットには常に息子の写真が飾られており、また食事を運んで来てくれた村の子どもにも、料理の礼だといってジオンの菓実をプレゼントしたりしていた。

アス



「機動戦士ガンダム第08MS小隊」

「こっちはMS。下手に出るこたねえんだ」

階級：不明

慢心が引き起こした悲劇

ジオン公国軍サク小隊所属のサクパイロット。経験の少ない新兵であるにもかかわらず、トノフやデルに対しても横柄な態度を取り続ける素行不良兵である。

MSという巨大な力を操っていることで彼は慢心しており、食料を分けてもらうために立ち寄った村でもむやみに威圧的にふるまっていた。また、レジスタンスの少女キキに目をつけ、ザクのマニピュレーターで無理矢理さらおうとするが、これが村人の怒りを決定的に激発させることになる。ゲリラとしての本性を現わした村人は武器を取り、怒りにまかせてアスのザクに攻撃を開始。このとき彼はコクピットハッチを開放していたため、そこからロケット砲弾を撃ち込まれ、生身の体に直撃を受けて爆死した。

ボーン・アブスト

写真入手不可能

「機動戦士ガンダム第08MS小隊」

【戦うジオン！連邦に情けをかけられる謂れはない！】

階級：軍曹

気高きジオン士官

ユーリ少将配下のジオン軍士官。オデッサ陥落後、ガウ攻撃空母で部下とともにアプサラス開発基地へ敗走する途中、連邦第08MS小隊との遭遇戦に突入。窮地に立たされるが、隊長であるシローはなぜかガウを見逃してしまう。

ユーリとの合流を果たした彼はマゼラ・アタックによる第08MS小隊への雪辱戦を挑む。アプストは、シロー・アマダの心の弱さを見抜いて心理戦を仕掛け、一矢報いて離脱、マゼラ・アタック1機とひきかえに連邦軍追撃部隊の足止めに成功する。無事にアプサラス開発基地へ帰還したアプストであったが、ユーリの存在が邪魔になったギニアス・サハリンの計略に巻き込まれ、ユーリもろとも爆死した。

ルネン

写真入手不可能

「機動戦士ガンダム第08MS小隊」

【あぁ、これで俺たち、宇宙に還れるんですね～】

階級：不明

故郷への帰還を夢見た男

もとオデッサで任務についていたジオン兵。アプサラス開発基地へ敗走してきた。別行動を取っていたアプストがマゼラ・アタックによる連邦軍足止め作戦を提案すると、ルネンは補給も援護もないこの危険な作戦に自ら志願。連邦軍第08MS小隊と対決する。アプストの指揮のもと、待ち伏せ戦法でシロー・アマダのガンダムを相手に善戦した。

色白で小太りの体格と童顔のため、とぼけた雰囲気を持つが、同胞のためには命をかけることも辞さない勇敢さも持ち合わせている。重力に魂を縛られていない生粋のスペースノイドで、地球を離れて宇宙に還れることを非常に喜んでいたが、ギニアス・サハリンの計略によってユーリもろとも爆死した。

バリー



「機動戦士ガンダム第08MS小隊」

【おうよ！逃げるのなら任せておけ！】

階級：不明

実切りに散る

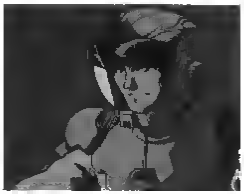
ユーリ少将の下、オデッサに駐留していたジオン公国軍兵士。すでに壮年で、浅黒い肌に濃い髭を生やしたいかつい外見の熟練兵である。オデッサ作戦によって依るべき拠点を失い、ユーリに率いられて敗走。ギニアス・サハリン少将の秘密基地へ落ちのびて宇宙へ離脱しようとするが、途中連邦軍の追撃を受け続ける。やがて、兵とユーリを逃がすためにアプストのマゼラ・アタック隊に自ら志願。ルネンとともに左右両翼に陣取り、第08MS小隊を相手に善戦し、連邦軍追撃部隊の足止め役を見事果たして帰還する。

だが、帰還した直後、アプサラスの完成にこだわるあまりユーリが邪魔になったギニアスによって、ユーリともども爆殺されてしまった。

ジョニー・ライデン

『機動戦士ガンダム　MSV』

担当：少佐



JHONNY RIDDEN

彼のMS-06R-2ザクIIは少佐のMS-06Fとともに「もうひとつのガンダムMSV」として有名だ！



▲エース部隊に所属しYMS-14に搭乗しアバオアクー攻防戦に参戦



▲ライデン少佐のユニコーンを象ったパーソナルマーク。MS肩部にマーキングされた

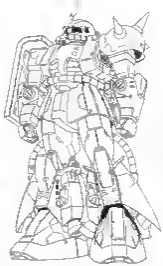
真紅の稲妻

ジオン軍エースパイロットの中でもっともジオン国民に人気があったパイロットの一人が彼、ジョニー・ライデン少佐である。彼が人気を呼んだ理由は、その実力もさることながら、彼が駆った愛機にもある。その中でも有名なものがMS-06R-2高機動型ザクIIであろう。その機体は漆黒のアクセントで塗装され、派手なパーソナルカラーが目を引いた。そこから、「真紅の稲妻」というニックネームをつけられた。

ライデン少佐はサイド3の第一次移民の三世として生まれる。彼の家系はジオンとしては珍しい旧オーストラリア出身のアメリカ系の血を引いている。彼の生来の陽気な性格はどうやらここからきているようである。

22歳でジオン国防軍を志願し、兵学校を経て突撃機動軍へMSパイロットとして配属される。彼のMS操縦に対する類い希な才能はすでにこの時点で開花していたようだ。ルウム戦役ではMS-06Cザクを駆り、戦艦3隻を撃沈するという成績を残す。この功績により大尉に昇進、乗機もMS-06Fに代わっている。ボディもこのときに初めてパーソナルカラーにしたようだ。その後、少佐に昇進し、ここでMS-06R-2を受け取っている。

UC0079年12月、本国の要請によりエース部隊に配属、MS-14Bを乗機とするようになる。コレヒドール暗礁空域での完熟訓練ののち、エース部隊の第一中隊長に任命される。最終決戦のア・バオア・クー攻防戦に参戦、以降の行方は不明となっている。UC0080年一月二十五日、戦闘中の行方不明者として終身中佐へ昇進。軍籍からはずされた。





MS-06R-2 ZAKU II

MS-06Fの後継機選定でMS-R09リックドムと争った機体。結果的に選定にもれ4機が生産されたのみであった

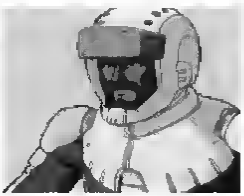
シン・マツナガ

『機動戦士ガンダム MSV』

階級：大尉



▲ルウム会戦ではMS-06Sに乗り指揮をするがすでにパーソナルマークに変更されている



SHIN MATSUNAGA

名家の出身にも関わらずその気性は豪放にして自由。部下からも人望を集めていた



▲マツナガ大尉のパーソナルマーク。この白い狼はMSの右肩部に描かれていた

ソロモンの白狼

「白狼」の名で知られるマツナガ大尉は、そのパーソナルマークと白いMS-06R-1、高機動型ザクIIで有名なパイロットである。彼は、連邦のヤシマ家に並ぶ名家、マツナガ家の嫡男であり、名が示すとおり東洋系の血を引いている。

一年戦争開戦直前に軍に志願、ルウム戦役での功績によりパーソナルマーク付きの白いMS-06Fに乗り継ぐことになる。そのルウム戦役では、直属の上官の戦死により戦場任官されているが、一年戦争開戦からの戦果が戦艦一隻、巡洋艦五隻という華々しいものであったために、二階級特進で中尉に昇進することになる。

戦場任官で中尉に昇進したマツナガは、規定に従い士官学校へ入学するため本国に帰国。卒業後は形式的に出撃しただけで、すぐに大尉に昇進している。このときに白いMS-06R-1を受領している。また、彼を語る上で必ず話題にされるのがドズル中将とのエピソードである。中将は自らカスタムタイプのMS-06Fに搭乗し、戦場視察を行う場合、必ず護衛機にはマツナガ大尉の白いMS-06R-1の姿があった。これは戦場レポートでも度々登場しているので、目にした人も多いことだろう。これは彼のパイロットとしての才覚が、実力主義をよしとする中将の目にとまったためである。

しかし、ソロモン海戦時、重MAビグザムで出撃するドズル中将の傍らに白いMS-06R-1の機影はなかった。マツナガ大尉は本国サイド3へ召喚されていたのである。大尉は戦死を免れ、以後は本国で終戦を迎えることとなった。





MS-06R-1 ZAKU II

Rタイプは主力機であったFタイプの性能向上を目的として開発された。さらに改良が加えられたのがR-1タイプであった

ニムバス・シュターゼン

『機動戦士ガンダム外伝』



▲エース部隊に所属しYMS-14に搭乗しアプサラクー攻防戦に参戦



NIMBUS SCHTERZEN

自身の信念のために命令に従うことができないパイロットである

初めてガンダムに乗ったジオン兵

ニムバス・シュターゼンは、将来を嘱望されていたエースパイロットの一人である。

MS操縦テクニックは超一流であり、イフリート改は彼でなければ使いこなせなかったほどである。そのためか極端な自信家で、自身の失敗をけっして認めないところがあった。その彼の性格が災いし、撤退命令を出した上官を射殺してしまうという事件が起きてしまった。ニムバスは左遷され、エリートコースから外れてしまうことになる。その左遷先がクルスト博士の下であった。そこで彼は、EXAMシステムを搭載したイフリート改のテストパイロットを務め、実験に多大な貢献を果たした。

だが突然、クルスト博士が研究資料のすべてを持ち出して連邦へ亡命したことにより、実験は中止。ニムバスも任務からはずされるはずであった。しかし、軍が彼に下した命令は、亡命したクルスト博士の保護及びEXAMの消去であった。

作戦は速やかに行われた。まずはイフリート改で、連邦のEXAM搭載MSを破壊する作戦に出る。激戦の末、EXAMが搭載されているMS頭部の破壊に成功。が、それと引き替えにイフリート改も大破することになる。次にニムバスは地球にある連邦のEXAM研究施設へ潜入しクルスト博士を殺害、同時にEXAMシステムを搭載したRX-79BD-2を強奪に成功する。ニムバスにはこのまま自軍へRX-79BD-2をもち帰る指令が出ていたはずであるが、彼はそれを無視し、追撃に出たRX-79BD-3と戦闘状態に入る。この戦闘でニムバスは帰らぬ人となる。また、彼はジオン軍パイロットとして初めてガンダムタイプのMSに搭乗した人物として記録に残ることとなった。



RX-79 BD-2

連邦でつくられたEXAMシステム搭載MS2号機。宇宙戦用に換装されている

マリオン・ウェルチ

「機動戦士ガンダム外伝」

所属：不明



MARION WHELCH

生前は青い髪　赤い目の少女だったという



CHLUST MORSES

EXAMを開発した科学者。マリオンを実の娘として愛していた

EXAMに棲む少女

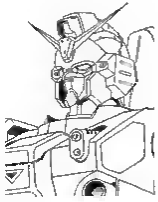
なぜか彼女、マリオン・ウェルチに関する情報は公式記録にいっさい残されていない。フラナガン機関で引き取られた宇宙移民の子供という情報から、彼女もやはりニュータイプだったことが推測される。

彼女は、当時からEXAMの開発を行っていたクルスト博士の下で研究に協力していたと思われる。EXAMとは、「飛躍的に向上するニュータイプのMSパイロット特性」を機械的に再現することができるシステムである。このシステムはいわば対ニュータイプ戦用に開発されたものである。だが、この開発はフラナガン機関からは異端視されている。

EXAMの開発は当初から、困難を極めた。シミュレーションにおいて、予定の機能を発揮することはなかった。しかし被験者であるマリオンが、実験中の事故により意識不明に陥ってしまった直後、EXAMは突然機能するようになったという。関係者からのコメントでは、マリオンの精神がEXAMに取り込まれてしまったという仮説もある。EXAMはイフリート改、ブルーディスティニー1～3号機の計4機の頭部に搭載された。結末的には、4機とも破壊されており、詳しいデータも消失している。







EXAM SYSTEM

EXAMは各MSの頭部に搭載されていた。イフリートのみ初期型で冷却系に問題があった

その他の戦死者たち

地球連邦軍

機動戦士ガンダム

ミデアのパイロット
階級：不明
人物紹介：マチルダ隊ミデア1番機のパイロット。マチルダとともにドムにやられる。

機動戦士ガンダム0083

ラインバック隊隊長
階級：少尉
ストロヘリー9の捜索にきたジム小隊の隊長。リリー・マルレーンの主砲で撃破された。

ジオン公国軍

機動戦士ガンダム

イリューシン
階級：不明
ハモンと共にホワイトベースに特攻をかけた16人の一人。

ゴロ
階級：不明
コムサイのパイロットを務め、ノヤアを地球へ運んだ。

ソル
階級：軍曹
クワランと同じパトロール部隊の通信兵。ガンダムに関する情報を入手し、クワラン達の作戦に参加する。

ミサキ
階級：不明
ハモンと共にホワイトベースに特攻をかけた16人の一人。

コワル
階級：少尉
レムスの助手でブラウ・ブロのテストパイロット。

マーチ
階級：不明
クリンク達とミデア隊を襲ったグフのパイロット。Gファイターに載ったガンダムと空中戦を繰り広げるが、最後は、トダイを吸収されて地上に落ちたところをコクピットにビームサーベルを突きたてられ、戦死。

ラング
階級：不明
バイスと同じ特殊工作隊のメンバー。緊張のあまり、ヘルメットのバイザー越しに汗を拭おうとした。

機動戦士ガンダム0083

コムサイのパイロット
階級　曹長
GP02A回収のために降下してきたコムサイDC14のパイロット。バニング隊の攻撃の最中に脱出を強行するが、コウのGP01にブリッジを撃ち抜かれて爆死した。

バークマン
階級　不明
喪失したニーベルングの残骸にとどまるバニングを攻撃に向かうノーマがGP01－Fbの相手を任せた兵士。

ガトーの直衛
階級　軍曹
カリウスとともにガトーのGP02Aの護衛についていたが、S－0空域の自動砲台に撃墜される。

ゲルググMのパイロットA
階級　不明
無理矢理に宇宙戦用のプログラムを組み込んで出撃したコウのGP01が闇雲に放ったビームライフルにあたって撃破された。

ゲルググMのパイロットB
階級　不明
戦艦の残骸に隠れたバニングのノムカスタムに不意打ちを受ける。

ザクのパイロット
階級　中尉
陽動のため、ラモス哨戒区の警備衛星を襲う。

デラーズ兵捕虜
階級　不明
モンシアが捕虜にした兵士。「鉛筆折り」の拷問を受けても屈づく、強い信念の持ち主。

ドラッツェのパイロット
階級　伍長
GP01－Fbに切りかかるがビームライフルの「フュッテ」にはばまれ、逆にビームサーベルに両断された。



一年戦争を戦い抜いた歴戦のパイロットたち

機動戦士Zガンダム

アポリー
階級　中尉
クワトロの部下でリック・ディアスのパイロット。シャトルのパイロットをした経験がある。仲間の死に涙を流す一面がある。数々の戦いを生き延びてきたが、ファをジェリドの攻撃よりかばって戦死してしまう。

ロベルト
階級　中尉
シャアの部下でリック・ディアスのパイロット。アポリーと共にシャアと編隊を組むことが多い。地球に降下したエゥーゴ兵をケネディ宇宙港より打ち上げる際に、ブラン隊の迎撃に出るが、ブランのアンノーンに撃破された。

キグナン
階級　不明
クワトロを「シャア」と呼ぶ男。シャアのために情報収集をしており、アクシズとグリプスの動向を報告した。

機動戦士ガンダムZZ

カラハン
階級　不明
ロンメルの忠実な部下。ティザート・ザクに乗り出撃。戦闘中に死亡したと思われる。

サトウ
階級　不明
サイト3、ジオン公国軍残党でシュルム・ティアス隊の隊長。サイト3を守るためにマレュマーのエンドラIIに合流。ネェル・アーガマのブリッジを照準に捉えるがネオ・ジオンに協力的でなかったためにイリアのリゲルグに狙撃されてしまう。

ニキ
階級　少尉
ロンメルの部下。戦後の潜伏期間中に地元女性と結婚し子を得る。ディザート・ザクでガンダムチームの偵察に出たが、囮に使われ、味方に撃たれて死亡した。

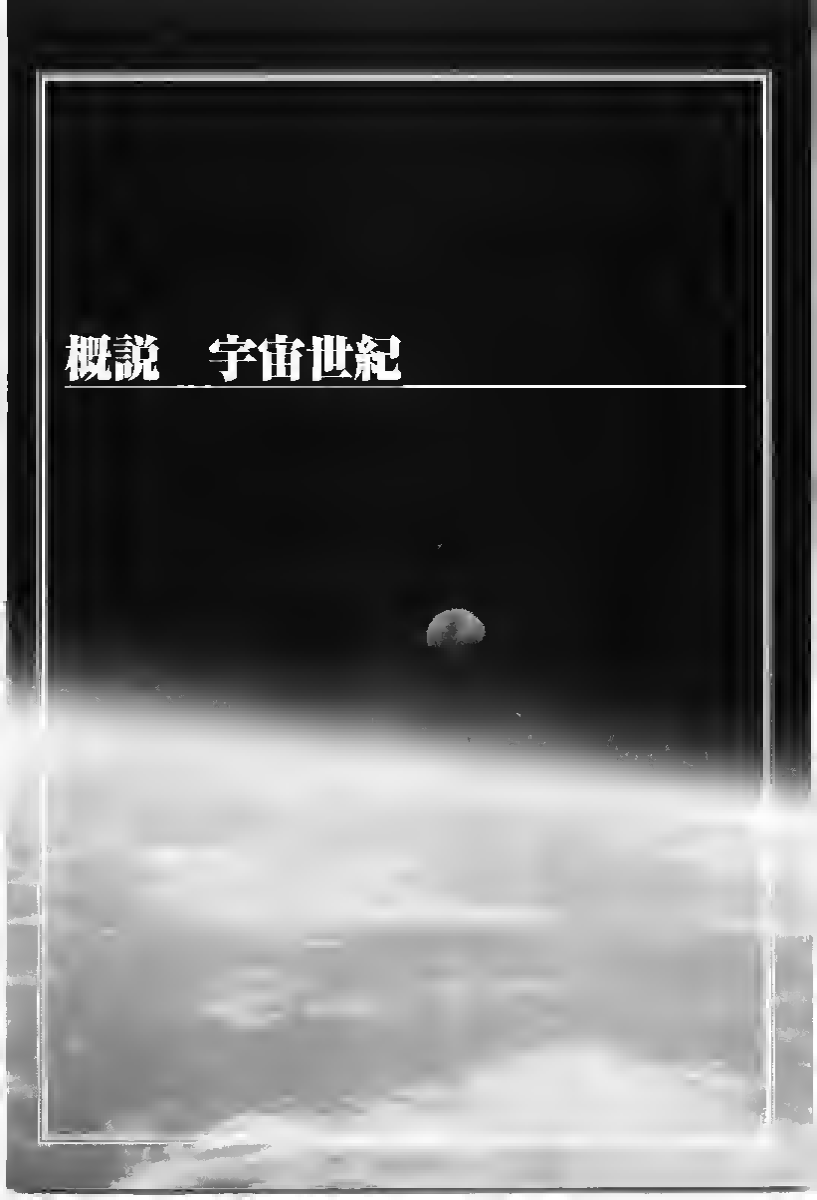
ロンメル
階級　中佐
「砂漠のロンメル」と呼ばれた一年戦争のアフリカ戦線の勇士。戦争後、砂漠の街に潜み時を待っていたが、ネオ・ジオンの降下に呼応して、ガンダムを倒すべく兵をあげる。ドワッジの改造型に乗り自ら強行偵察に出るが、子供であるシュドーに敗れたことに衝撃を受け、ゼータに特攻して果てる。

ロンメル隊の兵士
階級　不明
ティザート・ザクに乗る、ヒゲの兵士。ガンダムチームの出現を伝えた。

ロンメル隊の兵士B
階級　不明
ヒーチャ達の急な攻撃に悲鳴をあげる。

ラカン・ダカラン
階級　不明
ヒゲの武人。宇宙でも決してノーマルスーツを着ようとしない。ドライセン、ザクIII、ドーヘン・ウルフに搭乗。

概説　宇宙世紀



宇宙世紀
UNIVERSAL CENTURY
基礎用語辞典
〈一年戦争編〉

宇宙世紀の世界観を構築するために欠かせない用語・基礎知識を
ここに紹介。これを読めば、よりガンダムワールドが楽しめる！

【AMBACシステム】
MSが開発される以前は宇宙を航行する場合、姿勢制御の方法としてバーニアを作動させ推進材を消費していた。しかし、戦闘中にこの方法で方向転換や回避運動を行うには、膨大な推進材が必要となる。そこで、MSの開発を担当したZEONIC社では「AMBACシステム」という能動的質量移動による自然姿勢制御の方法を実用化した。これは機体の一部分がその反作用を受けて逆に移動する性質を利用して姿勢を制御しようというものである。宇宙空間では無駄になると思われていた腕と脚は、デッドウェイトどころか推進材の消費なしに姿勢制御を行う有効な手段として働くこととなった。

【Iフィールド】
ミノフスキー粒子に電磁波を流し、結晶格子状態にした力場。核融合炉の炉心を維持するために生まれたが、その応用として地球上で巨大な船を浮上させるミノフスキークラフトも実用化されている。ホワイトベースに初めて搭載され、地球作戦で能力を発揮した。

【RX計画】
ジオン軍によるMS開発を察知していた地球連邦軍の一部によって発動された計画。その開発は極秘裏に進められ、主に民間に発注された。さまざまな諜報活動が行われ、基礎研究が進められた。その後、連邦軍技術部が参画し、生み出されたのが「RXシリーズMS」である。

【V作戦】
地球連邦軍のMSと新造戦艦の開発計画を指す。ガンダムをはじめとするRXシリーズMSとホワイトベースのことである。シャアほかジオン側はこの計画をV作戦と呼んでいた。

【アーマー】
鎧、装甲の意。ガンダム世界では主にMSの装甲を指すことが多い。RX－78では分割式のルナ・チタニウム製三重ハニカム構造で、被弾した部分を手早く交換する。

【赤いモビルスーツ】
シャアが搭乗するMSはすべて赤く塗られていたことからきた言葉。シャアの武勇伝が広まるにつれ、「赤いMS」が1機、戦場で確認されると、連邦軍側には恐怖と緊張がはしったという。

【ア・バオア・クー】
ラクラン・ユ・ポイント2の軌道を回るジオン軍の巨大宇宙要塞。ギレン総統が指揮し月面基地グラナダとともにジオン本国を守る最終防衛ラインであった。その本体は、



宇宙要塞ア バオア クー

アステロイドベルトから運ばれてきた巨大な小惑星である。内部には司令室、対空火器が装備され、一年戦争での最終決戦の場となった。のちに連邦軍が占領し「ゼダンの門」と呼ばれる。

【一週間戦争】

UC0079 1月3日のジオン侵攻開始後、ほぼ一週間にて、サイドⅠ サイド2サイド4すべてのコロニーが破壊された。この激戦を特に一週間戦争と呼ぶ。BC(生物)兵器と核兵器が多用され住民は虐殺された。このときの死者は実に30億を越えたという。サイド2のひとつは プリティノンユ作戦と呼ばれるコロニー落としで地球に落下し、地球環境に大打撃を与えた。

【一年戦争】

ジオン公国が地球連邦政府に対して宣戦した独立戦争を指す。UC0079年の開戦開始から終戦協定が結ばれたUC0080年までの1年間 戦争は展開された。「機動戦士ガンダム」は9月～12月の約3か月の物語である。

【宇宙世紀】

ユニバーサル センチュリー(UC)のこと。番組の冒頭ナレーションに「人類が宇宙に住むようになって半世紀が過ぎた」とあるように、スペースコロニーに人類が移民を開始した年を元年とする。

【エネルギーCAP】

一般的なビーム兵器は、メガ粒子を収束放出させている。そのためビーム兵器は膨大なエネルギーが必要で これまで戦艦クラスにしか搭載できなかった。ところが連邦軍によって、ミノフスキー粒子を縮退寸前の状態で蓄積し、低エネルギーでメガ粒子化をさせる技術「エネルギーCAP」が開発された。

【大型メガ粒子砲】

MA—05ビグロに装備されたビーム兵器。命中率が高く 連射も可能だったようだ。しかし、ビーム粒子の拡散率が高すぎたために有効射程距離が短くなってしまった。そのため2本のマニピュレーターで敵を挟まえてビームを発射する戦法が取られた。

【オールレンジ攻撃】

ニュータイプ用に開発された、サイコ・ユを搭載したMAやMSの攻撃方法。有線ビーム砲、ビットなどで同時に多方向からの攻撃をかけ、単体で相手を包囲攻撃する戦法の総称である。

【オデッサ作戦】

連邦側のヨーロッパ反攻作戦のコードネーム。オデッサ デーとも呼ばれる。レビル将軍指揮下の連邦軍が マークへ少佐の確保する鉱物資源探掘基地に向けて大反攻作戦を行った。ホワイトベース、ガンダムも戦闘に参加している。戦いは連邦軍の勝利に終わり ヨーロッパにおける勢力図はこれにより大きく塗り替えられることになった。さらにこの戦いを境に ジオン側は地球での勢力を失うことになった。

【拡散ビーム】

MS—09ドムの左胸部に装備されたビーム砲。本来は敵のビーム攻撃に干渉して直撃を避ける目的で装備された。が 出力不足のためにせいぜい目くらまし程度にしか効果を期待できない。たが 攻撃を受けた敵はTVカメラが焼き付け現象を起こし、一時的にモニタが使用不能になる。

【カタパルト】
広義では空母で兵行機などを射出する装置を指す。ホワイトベースには ガンダム ガンキャノン用の特殊な射出装置が装備されていた。かなり強力でコア ファイターやガンダムのパーツを遠くまで射出することが可能だった。

【換装】
この場合は、RXシリーズMSの分割された上半身Aパーツ、下半身Bパーツにコアブロックを接続する作業を指す。ホワイトベース内での通常換装は、「コア ファイター着艦」→「コア ブロックに変型」→「クレーンでパーツが固定されたハンガーに移動」→「合体」となる。空中で行う場合は「空中換装」と呼ぶ。

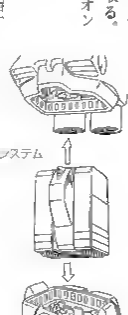
【ガンダリウム合金】
別名「ルナ チタニウム合金」と呼ばれるチタン系超高張力合金。連邦軍が所有する小惑星ルナツーで産出されるルナ チタニウムから精製される。耐熱性、耐蝕性、堪力、硬度に優れ、軽量で放射線絶縁性も高い。RX-78ガンダムの外装に初めて使用された。「ガンダム」という名称はここからとられた。

【強制排除】
コア ブロック脱出機能の一部。手動でMSからコア ファイターを自力発進させるために、上半身または下半身を推進装置で強制的に取り除く。パイロットが機外に出ているときは、MSの外装に隠されたスイッチで操作することも可能である。

【グラナダ】
月面の裏側 ウラン鉱脈の南西に位置するジオン公国 突撃機動軍の最前線基地。ザビ家の長女、キンリアが陣頭指揮を取る。宇宙要塞ア バオア クーとともにレオン本国を守る最終防衛拠点の一つ。

【グレネード】
元来は歩兵が使用する擲弾、手榴弾を指すが MS用兵器におけるグレネードには弾体発射用の炸薬と若干の推進剤が付加されている。ショートレンジミサイルよりは精度は低いが安価であり、誘導装置をもたないので接近戦で用いられる。グレネードランチャーはグレネードの発射筒のこと。

【コア・ブロック・システム】
連邦のV作戦で、MSのコクピット、中央電子機器、動力を含む胴体の中核ブロックを 脱着式で互換性をもたせるように開発したシステム。緊急時にはMS本体より脱出ポッドとして分離し コアファイターと呼ばれる飛行形態に変形することができる。これはRX系MSに搭載された自己浮揚型コンピュータがそれ自体高額であることと、そこに蓄積された戦闘データが今後の連邦のMS開発において貴重なものになり得るという判断からである。



【コロニー落とし】
一週間戦争の際 ジオンが行った作戦のひとつ。正式名は「ブリティッシュ作戦」と呼ばれる。核攻撃にも耐えられるという連邦のジャブロー基地を直撃する計画で、核弾頭の力を利用して、サイド2コロニーの一つを地球に落下させたが、大気圏突入時に分解し オーストラリア大陸に落下した。地球規模の大災害を引き起こした史上最悪の環境汚染作戦である。この作戦後 南極条約によってコロニー落としは禁止された。

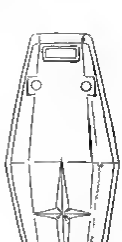
【コンペイトウ】
ジオンの宇宙要塞ソロモンの連邦軍内での呼び名。【ソロモン】参照。

【サイコミュ】
ジオンのフラナガン機関によって開発された脳波伝導システム。パイロットの精神波を受信、機械言語に翻訳する。それをさらに電気的に増幅して、パルス信号化した精神波を再び発信することができる。それを受信したメカニズムは具体的な行動、つまり敵に対して攻撃を行うわけである。電波上渉の激しいミノフスキー粒子下にあっても、その精神波は影響を受けることなく無線誘導を可能にする。サイコミュ自体は単なる機械的操縦装置の増幅された精神波はニュータイプ同士では共振作用を起こすと言われている。それを体験したニュータイプによると複合的な意識の拡大を感じたという。が、ニュータイプ以外の者にとっては「ラ・ラ」という単なる不明瞭な共振しか生み出さない。

【サイド1～7】
ラグランジュポイントに建造されたスペースコロニーの集合体であり、ひとつの行政単位として捉えられている。1基のコロニーを1バンチとし、35～40バンチがひとつのポイントに建設された。通常これらの一群を一サイト」と呼び、建設順にナンバーが打たれた。建造されたサイドには、サイド1（ザーン）、サイド2（ハッチ）、サイト3（ムンゾ）、サイド4（ムーア）、サイド5（ルウム）、サイド6（リア）、サイド7（ノア）と愛称がついている。この内、サイド1、2、4、5は一週間戦争の際にジオン軍の攻撃によって全滅させられている。

【シークレットファイル】
機密文書のこと。RX－シリーズMSの操縦マニュアルも最高機密文書扱いを受けていた。通常ならば民間人がそれを読んだ段階で、スパイ容疑で逮捕、即座に銃殺ということもありえる。

【シールド】
盾。白兵戦がメインであるMSにおいてシールドは実用度が高い装備のひとつ。装甲の弱い部分を保護しつつ、銃弾を防ぐこともできる。


RX-78ガンダム専用シールド

【ジェネレーター】
一般にMS、戦艦などに搭載される熱核反応炉による発電機のこと。ミノフスキー物理学の応用によって小型で安定した、しかも高出力の反応炉を開発することができた。

【ジオニズム】
ジオン公国の創始者ジオン・ズム・ダイクンが提唱した、「これ以上の地球の汚染を防ぐため、人類は宇宙に移り住み、それにより人類は新たなる進化の段階に進む事ができる」。彼によって初めて「ニュータイプ」という存在が示唆された。

【自己学習型コンピュータ】
RX－シリーズMSに搭載されていたRX計画の要とも言えるコンピュータ。MSの動作環境やパイロットによる運用をデータとして蓄積していき、同様の環境や運用に遭遇した場合に、パイロットの負担を軽減させることができる。機体の熟練度が上がっていくことで、ノフトウェア面でのスペックも向上していく。MSの開発においてはジオン側に、大きな遅れをとっていた連邦軍側が短期間の内に量産型MSを開発できたのは、RX－78で収集した戦闘データによるところが大きい。また、量産MSには、制御システムに収集したデータがロールアウトした時点ですでに転用されており、熟練度の低いパイロットをサポートすることができた。

【ジャブロー】
南米アマゾン川上流、地下大鍾乳洞に建設された地球連邦軍本部。強固な岩盤に守られており核攻撃にも耐えられる。

【ジャンク屋】
俗に言うスクラップ鉄屋。戦争によるコロニーの残骸、破壊されたMSや戦艦など。じつは宇宙はさまざまなゴミで溢れている。また、宇宙では鉄は貴重な資源であり、それらを宇宙空間から回収し再利用する方法もとられている。さらに、たまにMSなどでまだ再利用できそうな部品もあり、ジャンク屋にとっては宇宙ゴミは宝の山である。

【自由落下】
物体が重力に任せて重力中心部へ落下すること。一年戦争時は、高度数千メートルからMSが自由落下中に戦闘を行う場面も見られた。一般的なMSでは、地球重力下においては飛行できない。

【重力ブロック】
遠心重力装置により重力を形成した場。主に居住空間に利用された。長期間の無重力空間への滞在は人体に重篤影響を及ぼすことが知られている。1Gを得ることは難しいが多少の重力を形成することは、可能でそれだけでも人体への負担は軽減する。

【シュツルムファウスト】
ジオン軍が開発したMS用の使い捨てロケットランチャー。専用の固定武装が装備されていないMSでも、簡単なアタッチメントを取り付けるだけで携帯が可能で操作もいたってシンプル。ビーム兵器に比べると命中精度も射程も短いが、安価なのが魅力。

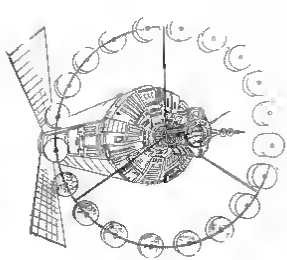
【白いモビルスーツ】
一年戦争時、ジオン軍兵士が戦闘宙域で目撃したRX―78ガンダムを形容したことば。コードネームとしての意味合いも持つ。

【スーパーナパーム】
RX―78ガンダムの携帯武器のひとつで、高性能ナパーム弾。アムロがサイド7で破壊されたRX系MSのパーツを処分するのに使用した。点火にはビームライフルが使用された。欠点があったのか、高性能にもかかわらず以後は使用されなかった。

【スカート】
MSの腰部から尻部を覆うアーマーのこと。一年戦争時に連邦軍がリックドムのそれをこう形容したのが始まり。内部には姿勢制御用ハニアが装備されている。

【スパイクアーマー】
代表的なものが、MS―06サクの左肩に装備されたトゲつきのアーマーシールドなど。接近戦において有効な武器になる。これはRXシリーズMSが確認される以前から装備されており、ジオンのMS開発者が連邦にもMSが出現するのを想定して設計していたことがわかる。

【スペースコロニー】
アメリカのオニールが構想をたてた宇宙に浮かぶ巨大な人工島。「ガンダム」の世界では、全長45km前後、直径6.5km前後のシリンダー形建造物に2500万人が収容できた。密閉型と開放型の2種類がある。コロニーを回転させることによって人工重力を発生させ、地球同様の環境をつくり出すことができる。食料や工業製品などのプラントを持ち、ほぼ自給自足を可能にしているが、


スペースコロニー

いくつかの鉱物資源などは地球に依存しなくてはならない。コロニーの人の多くはなかば強制的に移住させられたようで、定住後も地球に暮らすエリートに反抗意識をもっている。コロニーに住む人々を「スペースノイド」、地球に住む人々を「アースノイト」と呼ぶこともある。

【戦闘配備】

戦闘員に出される配備命令。そのときの戦闘状況により3段階に分けられる。

■第一戦闘配備
もっとも緊急な戦闘状態における命令。出動可能な艦載機（MSも含む）のパイロット及び各砲撃手は所定の位置で待機しなくてはならない

■第二戦闘配備
第一よりはやや緩度てはあるが、非戦闘員も行動が制限される。

■第三戦闘配備
戦闘が起こりうるかもしれない状況での配備。非戦闘員は自由に行動できるが、戦闘時に迅速に対処するため警戒態勢をとらなければならない

【ソーラ・システム】

「ソロモン海戦」において連邦軍が使用した対アステロイド要塞兵器。凹面鏡の原理を利用して太陽光を収束させ、目標物を破壊する。12㎞×8㎞のミラー400万枚をバーニアを使って制御して巨大な凹面鏡を作り出す。太陽光をノロモンの一点に集光させたその焦点温度は、1万度以上になった。このため大気の装甲であった岩盤は溶解蒸発し、破壊されてしまった。

【ソーラ・レイ】

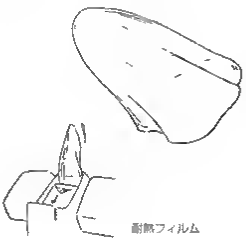
サイド3にある第3号密閉型コロニー1基をまるごと改造した直径6.5kmのレーザー砲。一年戦争末期、ジオン公国が圧倒的に不利になってしまった戦局を打開するために、総力を挙げて開発した。使用されたコロニーに住んでいた住民は強制的に疎開させられた。パワーノースは太陽発電衛星から。ギレン総統により実際に使用され、これにより連邦軍は全体の約3分の1の戦力を失ったという。

【ソロモン】

ジオンのアステロイド型宇宙要塞。かつてサイド1があった宙域に小惑星を運び込み中をくり抜いて要塞とした。この小惑星は貴重な鉱物資源も兼ねていた。ザビ家の次男ドズルが指揮を執っている。連邦軍はこのノロモンを攻略するために、全軍の約3分の1にあたる第2艦隊を導入。5割の艦艇を失いつつもかろうじて勝利を収めた。この戦いはのちに「ノロモン海戦」と呼ばれた。

【耐熱フィルム】

RX－78ガンダムに装備されたMS単独での大気圏突入用のフィルム。材質は特殊な樹脂で表面の気化熱比率が高いので、大気圏突入時の摩擦熱を吸収することができる。機体前面の専用ポケットに収納されている。



【弾幕】

一定の空間に迎撃ミサイルや機銃を発射し続けることで、バリアと同様の効果を得ること。これで侵入してくる敵ミサイルやMSを撃墜する。ミノフスキー粒子影響下ではミサイルの無線誘導ができないため、このような戦法をとるしかないのだ。

【とんがり帽子】
連邦軍が占領したソロモン要塞に現われるエルメスを、ナワイトベースのクルーがこう呼んだ。

【ニュータイプ】
スペースコロニー時代になり、宇宙という環境の中で認識力が拡大、進化された人種。レオン・ズム・ダイクンによれば、人類全体が進化すべき理想の形と言われている。一般にESP能力と誤解されがちであるが、ニュータイプの超感覚的知覚はコミュニケーションの手段に過ぎず、そこから生み出される複合知性がニュータイプの本質である。たが、一年戦争時においては、ニュータイプは戦闘利用の素材でしかなかった。このことがのちに多くの悲劇を生むことになる。

【ノーマルスーツ】
宇宙服の総称。モビルスーツという言葉に対して呼称される。パイロット用、作業用一般用と用途によって仕様が異なる。一般に生命維持装置や通信機などが装備される。パイロット用ノーマルスーツは耐Gスーツも兼ねている。

【バーニア】
MSを含む宇宙航行能力を備えた機体の姿勢を制御するため、メインロケットのほかに機体各所に取り付けられたロケットエンジンのこと。機体の方向を変えたり、回転したりと、細かな機体の移動と制御に用いられる。

【バランサー】
正確にはバランスコントローラーという。MSが直立二足歩行をするために欠かせない装置。

【バルカン砲】
MSが近接戦闘用に、また宇宙戦闘機などが固定武装として装備している機関砲の総称。20世紀後半の航空機銃の傑作であったM61バルカンの名を踏襲しているが、機構自体は別物である。RX-78ガンダムの頭部に装備されたバルカンは、短銃身で接近戦用、薬莢が出ないケースレスタイプだった。

【ヒート剣】
MS-09ドム及びMS-09リックドムの背部に装備された長剣。ザクのヒートホークと同様の原理で稼働する。

【ヒートサーベル】
MS-07Bグフに装備される接近戦用の剣。ザクのヒートホークと同様の原理で稼働する。

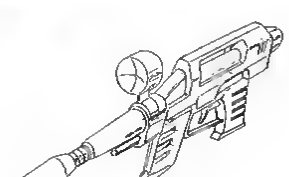
【ヒートホーク】
MS-06ザクに装備された接近戦用の斧。ザク本体から供給される動力で刀身部を赤熱化させ、敵機の装甲を焼き切る。グフのヒートホークとのヒート剣も同様の原理で稼働する。

【ヒートロッド】
MS-07Bグフの右腕部に装備された電気ムチ。最長で175m、摂氏4000度までの放熱が可能である。この攻撃を受けた敵機は、電気系統はもちろんパイロットもダメージを受ける。

【ビームサーベル】
MSに装備される接近戦用のビーム兵器。ビームライフルと同じくエネルギーCAPを応用したものである。MS本体のジェネレーターから動力を供給し、柄にあたる部分から粒子ビームを放出させ、十数メートルのメガ粒子放射束を形成する。30cm厚のチタニウムを1秒弱で切断できるが、エネルギー消費量が多く、長時間は使用できない。RX-78ガンダムで初めて装備された。

【ビームライフル】
RX-78ガンダムで初めて装備された、エネルギーCAPを用いたMS用携帯メガ粒子砲のこと。それまで戦艦クラスにしか装備できなかったメガ粒子砲を、エネルギー

CAPを利用することによって極限にまで小型化し、MS本体から動力接続を行うことによってMSでの携帯が可能になった。20km離れた30cmの鋼板をも貫通する威力を有する。これまでのメガ粒子砲と区別するため、MS携帯用のものはビームライフルと呼ばれている。



ビームライフル

【ビット】

ジオン公国軍のMA、MAN-08エルメス用の無人随伴攻撃機。ミノフスキー粒子の影響下にあっても、サイコミュ攻撃システムを介してパイロットの意のままに戦機を攻撃することができる。ビットの基本構造は、熱核反応炉によるメインスラスターと化学ロケットによるバーニア、光学センサー、メガ粒子砲などである。

【フラナガン機関】

ニュータイプを軍事利用のために研究しかつニュータイプ用兵器の開発を目的としたジオン軍の秘密機関。キシリアの直属として発足した。フラナガン博士が責任者として陣頭指揮を執った。

【ブリティッシュ作戦】

一年戦争開戦当初に、ジオン公国軍が行ったコロニー落としの作戦名である。【コロニー落とし】参照。

【星一号作戦】

連邦軍の、ジオン軍宇宙要塞ア・バオア・クー侵攻作戦の暗号名。作戦開始寸前までどの星（小惑星）が目標なのか知らされていなかったようだ。

【補助カメラ】

MSの全身に配置されている、モニタ用のテレビカメラ。頭部にあるメインカメラが破損した場合、補助的に使用できる。

【マグネットコーティング】

一年戦争後期、RX-78ガンダムのハイパーメガ粒子砲に機体が追いつけなくなったため、電磁光学専門の学者モスク・ハン博士が開発した技術。駆動関節同士の干渉を打ち消すために、可動部分に互いに反発する磁気成分をコーティングした。これにより機体のレスポンスが飛躍的に向上した。

【ミノフスキー粒子】

ジオン公国の物理学者T・Y・ミノフスキーが発見した、無線やレーダーの電波を広範囲な区域で妨害する物質。ミノフスキー粒子とは、静止質量がほとんどゼロで負の電荷をもつ。これらは目に見えないフィールドを形成するが、このフィールド内を伝播しようとする電磁波のうち、マイクロ波から超長波にかけての波長域は減退が著しくなる。その力で、超LSIなどの集積回路に誤作動、機能障害を生じさせる性質がある。よってレーダーによる長距離索敵や精密誘導兵器の使用は事実上、不可能となった。これにより、宇宙世紀における戦争は様相を一変することになる。

【メインカメラ】

MS、MAの目に相当する、主に照準、索敵に使用される。連邦軍MSはツインのメインカメラ、ジオン軍MSはモノアイと呼ばれる単眼のカメラシステムを主に使用した。

【メガ粒子砲】
重金属の粒子を磁気により加速して発射するビーム兵器の一種。荷電粒子砲と呼ばれる。基地砲台、戦艦の副砲として装備される。これをエネルギーCAPを用いて軽量小型化したのがMSが携帯するビームライフルである。

【モノアイ】
MS-06サクをはじめとするジオン製MSのメインカメラに採用されているシステム。有視界戦闘用に開発された。レンズが頭部に配置されたレールを高速で移動して目標を捉える設計である。

【モビルアーマー（MA）】
MSの機動戦力強化を目的に、従来の人型を廃した発展型の機動兵器。用途に応じてさまざまなタイプが開発された。その大半が局地戦用として、戦闘フィールドが極端に限定されるが、MSの数倍の戦闘力を発揮する。

【モビルスーツ（MS）】
ジオン公国がその独立戦争で初めて投入した人型機動兵器。全長は平均の中核となった人型機動兵器。全長は平均20m、重量は60t以上にも及んだ。ミノフスキー粒子の影響により、有視界戦闘及び白兵戦がメインとなった戦場において絶大な威力を発揮した。本来は無駄と思われた腰部と脚部は、無重力空間でのAMBACシステムによる機動力を確保するのに効果を発揮する。さらに地球重力下でもその機動性は損なわれることなく既存の兵器を凌駕するほどであった。そのためMSは、あらゆる戦闘フィールドにおいて戦略の要となっていった。

【ラグランジュポイント】
フランスの数学・物理学者ジョセフ・ルイ・ラグランジュが発見した、月の軌道上にある重力の釣り合った地点、もしくは一定の範囲を指す。地球、月軌道上にはL_1～L_5の5つのポイントが存在する。スペースコロニーは常に集光ミラーを太陽へ向かせる必要がある。そのために少ないエネルギーで定位置を確保することができる安定軌道上にコロニーを建造しなくてはならない。ラグランジュポイントであれば、ほとんど姿勢制御を必要とせず定位置に静止することができるのである。

【ランドセル】
MS背部に配置された姿勢制御用ロケットのこと。ランドセルにその形状が似ていたことからこう呼ばれた。

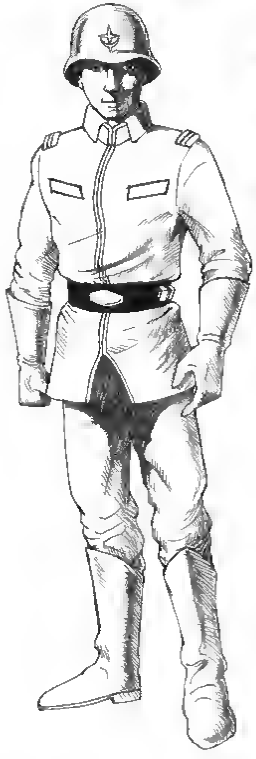
【ルウム戦役】
一週間戦争後のサイド5（ルウム）方面の戦いを特に「ルウム戦役」と呼ぶ。連邦軍とジオン軍で艦隊総力戦が行われ、連邦軍の壊滅的敗北という結果になった。サイド5自体もジオンの無差別攻撃により全滅している。

【ルナ・チタニウム】
小惑星ルナツーより産出される鉱物。このルナチタニウムを合金化すると、いままでの金属よりもはるかに優れたものが開発できた。【ガンダリウム合金】参照。

【ルナツー】
鉱物資源を確保するため、人類がアステロイドベルトより月軌道上まで運んできた小惑星。ちょうど地球を挟んで月と反対側に位置する。ここに地球連邦軍の最前線基地がおかれている。これはジオン公国があるサイド3から、もっとも遠い位置にあるので機密が守られやすいからである。RXノリーズMSの最終調整やノムの量産はここで行われた。

パイロット マニュアル
—地球連邦軍編—

■一般下士官用軍服



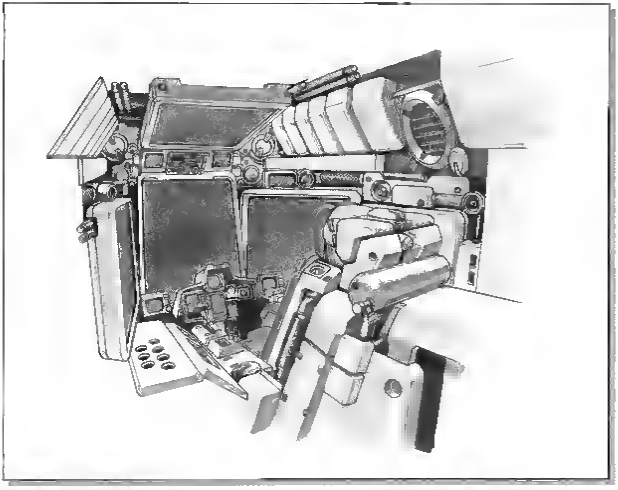
連邦軍内での一般下士官の制服。このデザインはすでに20年前以上のものである。基本的なデザインラインは階級が違ってきても変わることはない。

■パイロット用ノーマルスーツ



パイロット用のノーマルスーツは、一般兵が着用するものよりも運動性が重要視され、なによりライフセーヒング機能か重要視されている。

■RGM―79ジム　コクピット



ジムはさまざまなバリエーションを生み出しているが、コクピットに関してはコストパフォーマンスの点から共通のものを使用している。居住性はまったく考慮されていない。

拳銃はいくつか制式採用のものがある。宇宙空間でも使用可能なものもあり　当然ながら火薬爆発式ではない。制式拳銃のほとんどがオートマチック方式を採用している。



■連邦軍制式拳銃　M-71

パイロット マニュアル
—ジオン公国軍編—

■パイロット用ノーマルスーツ



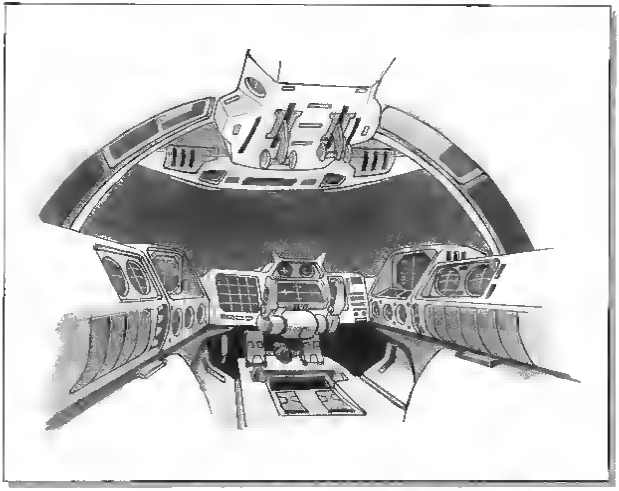
基本装備は連邦軍のスーツをなんら変わることはないが、ジオンでは個人レベルでの装飾が比較的許されている。スーツのカラーやヘルメットの装飾も自由。

■一般下士官用軍服



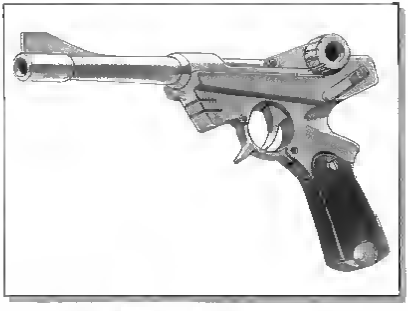
一般下士官用のもので、第3種戦闘軍服にあたる。ほかにも公式用の礼服や野戦コートもあり、着用には記章も含めて細かい規定がある。

■MS—06Fザク コクピット



MS-06シリーズに関しては、生産次期、バリエーションによって形状の変化がみられる。特に地球用のJ型ではF型に装備されているエアロック構造は省略されている。

ジオンの制式拳銃は比較的小型で女性でも扱いやすい。ほかにもライフルやサブマシンガン、ハンドレーザーなど、種類も豊富。ちなみに民間人もライセンスをとれば拳銃を携帯できる。



■ジオン軍制式拳銃 ナンバー61式

※このコーナーのイラストは　本書が独自に書き起こしたものです。

MS&MA PROFILE

ここでは一年戦争で開発された地球連邦軍、ジオン公国軍のMS＆MAを紹介していこう



機体名称　ガンダム(GUNDAM)
型式番号　RX-78
開発基地　地球連邦軍 サイド7
スペック　頭頂高／18.0m　本体重量／43.4t　ジェネレーター出力／1380Kw　スラスター推力／55500Kg　装甲材質／超鋼合金ルナ チタニウム
武　装　固定／頭部バルカン×2　ビームサーベル(ビームジャベリン(TV))×2　耐熱フィールド(旗面)　耐熱フィルム(TV)　携帯／専用ビームライフル　ハイパーバズーカ　ガンダムシールド　ガンダムハンマー　ハイパーハンマー　スーパーナパーム
パイロット　アムロ・レイ　セイラ・マス　リュウ・ホセイ他
機体解説　RX計画の発動により開発されたMS。コアブロックシステム、ビームライフルなど最新技術が導入されている。



機体名称　アレックス(ALEX)
型式番号　RX-78NT1
開発基地　地球連邦軍 北米オーガスタ基地
スペック　頭頂高／18.0m　本体重量／40.0t　ジェネレーター出力／1420Kw　スラスター推力／132000Kg　装甲材質／ルナ・チタニウム
武　装　固定／頭部バルカン×2　ビームサーベル×2　腕部ガトリングガン×2　携帯／専用ビームライフル　ハイパーバズーカ　専用シールド
パイロット　クリスチーナ・マッケンジー
機体解説　初めからニュータイプ用にチューニングされたガンダム。アムロに届けられる前に実戦を迎えた。



機体名称：ブルーディスティニー
型式番号：RX-79 BD 2
開発基地：EXAM研究施設
スペック：頭頂量／18.0m　本体重量／52.8t　装甲材質／超鋼合金ルナ・チタニウム　※頭部にEXAMシステムを搭載
武　装：固定／頭部バルカン×2　胸部ミサイル×2　ビームサーヘル×2　携帯／ビームライフル　シールド
パイロット：ニムバス・シュターゼン
機体解説：宇宙でのデータ収集用に製作されたEXAMシステム搭載型MS第2号機。ユーカジマ大尉の下に届けられる予定であったが　ジオン軍に襲撃され、強奪されている。



機体名称：陸戦用量産先行試作型ガンダム
型式番号：RX-79(G)
開発基地：
スペック：頭頂高／18.0m　本体重量／52.8t　全備重量／73.0t　ジュネレーター出力／1350Kw　スラスター推力／52000Kg　装甲材質／ルナ・チタニウム合金
武　装：固定／胸部バルカン砲×1　胸部マルチランチャー×1　ビームサーヘル×2　携帯／100mmマシンガン　180mmキャノン　ミサイルランチャー　ロケットランチャー　シールド
パイロット：シロー・アマダ　カレン・ジョシュワ　テリー・サンダース　Jr.ほか
機体解説：RX-78ガンダムのパーツを使用して少数製造された先行量産型。12機が地球のコジマ大隊に配属された。



機体名称：ブルーディスティニー
型式番号：RX-79 BD-3
開発基地：EXAM研究施設
スペック：頭頂量／18.0m　本体重量／52.8t　装甲材質／超鋼合金ルナ・チタニウム　※頭部にEXAMシステムを搭載
武　装：固定／頭部バルカン×2　胸部ミサイル×2　ビームサーヘル×2　携帯／ビームライフル　シールド
パイロット：ユウ・カジマ
機体解説：本来ならば先行して製作されたBD-1　BD-2の予備パーツとしてその生産を終わるはずだったMS。だが　BD-2がシオンに奪われたため　急遽　組み上げられた。



機体名称：イージーエイト
型式番号：RX-79(G)EzB
開発基地：
スペック：頭頂量／18.0m　本体重量／51.5t　全備重量／71.7t　ジュネレーター出力／1380Kw　装甲材質／ルナ・チタニウム合金
武　装：固定／35mmバルカン×1　12.7ミリバルカン砲×1　ビームサーベル×2　携帯／ビームライフル　小型マシンガン　180mmキャノン砲ほか
パイロット：シロー・アマダ
機体解説：シロー・アマダ大尉機の陸戦型ガンダムを現地のパーツでカスタマイズしたMS。軽量化と耐弾性の向上が図られた。ガンダムの特徴であるノノ型アンテナが廃止されている。

MS&MA PROFILE



機体名称：ガンタンク(GUNTANK)
型式番号：RX-75
開発基地：地球連邦軍・サイド7
スペック：頭頂部／15.0m　本体重量／56.0t　ジェネレーター出力／878Kw　スラスター推力／88000Kg　装甲材質／超鋼合金ルナ・チタニウム
武　装：固定／頭部120mm キャノン砲×2　腕部ポップミサイル4連装×2　携帯／なし
パイロット：リュウ・ホセイ・ハヤト　コバヤシ他
機体解説：長距離砲撃戦を想定して開発されたMS。RX-78やRX-77と同じくコアブロックシステムを採用しているが　頭部に砲撃手用のコクピットがある。これはのちに　操縦系を頭部に移して　単座に改造された。



機体名称：カンキャノン(GUNCANNON)
型式番号：RX-77
開発基地：地球連邦軍・サイド7
スペック：頭頂部／17.5m　本体重量／51.0t　ジェネレーター出力／1380Kw　スラスター推力／51800Kg　装甲材質／超鋼合金ルナ・チタニウム
武　装：固定／頭部バルカン×2　肩部キャノン砲×2　スプレーミサイルランチャー×2(未装填)　携帯／専用ビームライフル　手榴弾(映画)
パイロット：カイ・シデン、ハヤト・コバヤシほか
機体解説：RX-78ガンダムの後方支援を目的に開発されたMS。試装はガンダムを上回るが　機動性に問題が残っている。



機体名称：量産型ガンタンク
(GUNTANK MASS-PRO TYPE)
型式番号：RX-75
開発基地：開地球連邦軍　サイド7
スペック：頭頂部／15.0m　本体重量／56.0t　ジェネレーター出力／878Kw　スラスター推力／88000Kg　装甲材質／超鋼合金ルナ・チタニウム
武　装：固定／頭部120mm 低反動キャノン砲×2　腕部4連装ガンランチャー×2　携帯／なし
パイロット：連邦軍一般兵士
機体解説：長距離支援のみを目的として　RX-75のコアブロックシステムを廃して量産化されたMS。もはやMSというより　移動砲台といった意味合いが強くなってしまった。



機体名称：ガンキャノン量産型
(GUNCANNON MASS-PRO TYPE)
型式番号：RX-77D
開発基地：ルナツー
スペック：頭頂高／17.5m　本体重量／51.0t　ジェネレーター出力／1410Kw　スラスター推力／93500Kg　装甲材質／チタン・セラミック複合材
武　装：固定／頭部バルカン×2　キャノン砲×2　携帯／ブルパックマシンガン
パイロット：連邦軍一般兵士
機体解説：RX-77ガンキャノンの量産化が進められていたが　RGM-79の生産を優先されたために一時的に生産が見送られていた。大戦末期、改めて量産化が図られたのがこの機体である。



機体名称　機体名称 ジムコマント　宇宙戦仕様
(GM COMMANO SPACE)
型式番号　RGM-79GS
開発基地　ルナツー
スペック　頭頂高／19.0m　本体重量／44.6t　ジェネレーター出力／1390Kw　スラスター推力／74000Kg　装甲材質／チタン セラミック複合材
武　装　固定／頭部バルカン×2　ビームサーベル×2　携帯／ビームガン　シールド
パイロット　連邦軍一般兵士
機体解説　RGM-79ジムの性能向上機。宇宙戦用に改修されている。このMSが開発された時期はジムのバリエーションのノウハウも確立されていたようだ。



機体名称　ジム(GM)
型式番号　RGM-79
開発基地　地球連邦軍 ジャブロー
スペック　頭頂高／18.0m　本体重量／41.2t　ジェネレーター出力／1250Kw　スラスター推力／55500Kg　装甲材質／チタン系合金
武　装　固定／頭部バルカン×2　ビームサーベル　携帯／ヒームスプレーガン　ガンダムシールド　ガンダム用ビームライフル(TV)　ハイパーバズーカ
パイロット　シンほか連邦軍一般兵士
機体解説　RXシリーズのデータを素にガンダムのエコノミー量産型MS。性能的には、MS-06Fザクと同レベルである。



機体名称　ジムコマント　コロニー戦仕様
(GM COMMANO COLONY)
型式番号　RGM-79G
開発基地　ルナツー
スペック　頭頂部／18.0m　本体重量／43.5t　ジェネレーター出力／1390Kw　スラスター推力／67000Kg　装甲材質／チタン セラミック複合材
武　装　固定／頭部バルカン×2　ビームサーベル×2　携帯／プルバックマシンガン　シールド
パイロット　連邦軍一般兵士
機体解説　RGM-79ジムは、シオンのザクと同じく汎用性に優れていたため　最低限の改修で多様な任務に対応できたようだ。



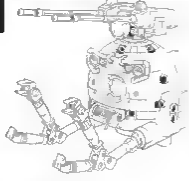
機体名称　ジム寒冷地仕様
(GM COLD-AREA TYPE)
型式番号　RGM-79D
開発基地　ジャブロー
スペック　頭頂高／18.0m　本体重量／44.7t　ジェネレーター出力／1250Kw　スラスター推力／60000Kg　装甲材質／チタン セラミック複合材
武　装　固定／頭部バルカン×2　ビームサーベル　携帯／マシンガン　シールド
パイロット　連邦軍一般兵士
機体解説　さまざまに、派生したジムのバリエーションのひとつ。性能的には通常のジムと大差はなく、寒冷地用にハーフの一部が換装されているのみである。連邦軍北極ポートに配備。



機体名称　ブルーディスティニー
RX-79 BD-1
型式番号　開発途地　EXAM研究施設
開発基地　頭頂高／18.0m　本体重量／52.8t　装
スペック　甲材質／超鋼合金ルナ・チタニウム
※頭部にEXAMシステムを搭載
武　装　固定／頭部バルカン×2　胸部ミサイル×2　ビームサーベル×2　携帯／ビームライフル　シールド
パイロット　ユウ・カジマ
機体解説　連邦で初めて製作されたEXAMシステム搭載MS初号機。機体そのものは試戦型ガンダムであるが　EXAMがジムの頭部に搭載されてしまっている。対ニュータイプ戦用である。



機体名称　ジムスナイパーII
(GM SNiPER II)
型式番号　RGM-79SP
開発基地　ルナツー
スペック　頭頂高／18.0m　本体重量／45.0t　ジェネレーター出力／1390Kw　スラスター推力／102000Kg　装甲材質／チタン・セラミック複合材
武　装　固定／ビームサーベル×2　携帯／ビームライフル　シールド　狙撃用ライフル
パイロット　連邦軍一般兵士
機体解説　ジムコマンドの機体をベースにした総合性能向上タイプ。照準バイザーと大推力バックパックの装着　冷却ユニットの強化　脚部補助スラスターの追加がなされている。



機体名称　ボール(8ALL)
型式番号　RB 79
開発基地　地球連邦軍・ルナツー
スペック　頭頂高／12.8m　本体重量／17.2t　ジェネレーター出力／400Kw　スラスター推力／不明　装甲材質／不明
固定／キャノン砲
武　装　携帯／なし
連邦軍一般兵士
パイロット　GM-79の支援用に開発された戦闘ポッド。軍、民間で使用されていた宇宙作業用ポッドSPW-03に武装を施したもの。このタイプは通常のキャノン砲の代わりにバルカン砲を装備している。大量生産されたか　戦闘能力そのものは低い。



機体名称　陸戦用試験先行試作型GM
型式番号　RGM-79(G)
開発基地
スペック　頭頂高／18.0m　本体重量／53.8t　全備重量／66.0t　ジェネレーター出力／1150Kw　スラスター推力／49000Kg　装甲材質／ルナ・チタニウム合金
武　装　固定／ビームサーベル×2　携帯／100mmマシンガン　ミサイルランチャー　ロケットランチャー　シールド
パイロット　連邦軍一般兵士
機体解説　V作戦の最終目的であるRGM-79ジムの量産化以前に　地上専用機として開発された機体。装甲にルナチタニウムが使用されるなど　ジムよりも性能は高い。



機体名称 ザクⅡ改(ZAKUⅡ FZ)
型式番号 MS-06FZ
開発基地 グラナダ
スペック 頭頂高／17.5m　本体重量／56.2t　ジェネレーター出力／976Kw　スラスター推力／79500Kg　装甲材質／チタン・セラミック複合材
武　装 固定／スパイクアーマー　ザクシールド　携帯／90mmマシンガン　ハント・グレネード×3　ヒートホーク　ジュツルム　ファウスト　ザクシールド　煙幕弾　サンタバルーン
パイロット バーナード・ワイズマンほか
機体解説 MS-06Fの第2期生産型。主な改修点は、コクピット　機体バーニアの大型化である。武装も一新された。



機体名称 旧型ザク(ZAKUⅠ)
型式番号 MS-05
開発基地 ジオン公国軍　ズムシティー
スペック 頭頂高／17.5m　本体重量／65.5t　ジェネレーター出力／899Kw　スラスター推力／40700Kg　装甲材質／鋼鉄スチール合金
武　装 固定／なし　携帯／ザクマシンガン　ザクバズーカ　ヒートホーク
パイロット ガデム
機体解説 ジオン公国軍初の量産型MS。大戦初期のブリティッシュ作戦で多大な戦果を挙げた。のちの傑作機であるMS-06のベースとなった。MS-06の量産化が完了すると、その役目を終え、前線を退いた。



機体名称 量産型ザク
型式番号 MS-06J
開発基地 不明
スペック 頭頂高／17.5m　本体重量／56.2t　全備重量 74.5t　ジェネレーター出力／976Kw　スラスター推力／48500Kg　装甲材質／超高張力鋼
武　装 固定／スパイクアーマー　ザクシールド　携帯／120mmマシンガン　280mmバズーカ　ヒートホーク　クラッカー　そのほか各種地上戦装備
パイロット ジオン軍一般兵士ほか
機体解説 ジオン軍の地上侵攻作戦にあたり　宇宙戦闘用であったMS-06Fを地上戦用に改修したもの。ほとんど別機体である。



機体名称 ザク(ZAKUⅡ)
型式番号 MS-06
開発基地 ジオン公国軍　ズムシティー
スペック 頭頂高／17.5m　本体重量／56.2t　ジェネレーター出力／976Kw　スラスター推力／43300Kg　装甲材質／鋼鉄スチール合金
武　装 固定／スパイクアーマー　ザクシールド　携帯／ザクマシンガン　ザクバズーカ　ヒートホーク　クラッカー　肩部3連装ミサイルポッド×2　マゼラトップ戦車砲
パイロット デニム・ジーンほか
機体解説 一年戦争時に量産されたジオンの傑作MS。汎用性に優れ　宇宙　地球のあらゆるフィールドで使用された。



機体名称　グフ　フライトタイプ
(GOUF FLIGHT TYPE)
型式番号　MS-07H8
開発基地　ジオン公国軍　キャリフォルニアベース
スペック　頭頂高／不明　本体重量／不明　ジェネレーター出力／不明　スラスター推力／不明　装甲／材質不明
武　装　固定／なし　携帯／ガトリングシールド
パイロット　ジオン軍一般兵士
機体解説　MS単体による飛行移動を目的に開発された試作機。83型をベースにしたことにより高出力のジェネレーターを確保することができ、さらに　高出力熱核ジェットエンジンを装備することで　実戦レベルでの飛行能力を獲得した。



機体名称　グフ(GOUF)
型式番号　MS-07
開発基地　ジオン公国軍　キャリフォルニアベース
スペック　頭頂高／18.2m　本体重量／58.5t　ジェネレーター出力／1034Kw　スラスター推力／40700Kg　装甲材質／超硬スチール合金
武　装　固定／ヒートロッド　5連装フィンガーバルカン　スパイクアーマー×2　携帯／専用ンールド　ヒート剣　ザクマシンガン　ヒートホーク　ジャイアントバズーカ
パイロット　ランバ ラル　ヘイブ マーチほか
機体解説　MS-06ザクを陸戦用に再設計したMS。グフはMS同士の白兵戦を意識した機体である。機動性、運動性ともにMS-06を上回る。



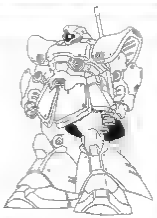
機体名称　ドム(DOM)
型式番号　MS-09
開発基地　ジオン公国軍　キャリフォルニアベース
スペック　頭頂高／18.6m　本体重量／62.6t　ジェネレーター出力／1269Kw　スラスター推力／58200Kg　装甲材質／超硬スチール合金
武　装　固定／ヒートサーベル　拡散ヒーム砲　携帯／ジャイアントバズーカ
パイロット　ガイア、オルテガ　マッシュほか
機体解説　地上での移動能力を向上させるために、ホバー走行を可能にしたMSである。熱核ジェットエンジンと化学ロケットの複合推力により、MS単体での行動半径を飛躍的に向上させることに成功した。



機体名称　グフ　カスタム（GOUF CUSTOM）
型式番号　MS-07 B3
開発基地　ジオン公国軍　キャリフォルニアベース
スペック　頭頂高／18.2m　本体重量／58.5t　全備重量　77.6t　ジェネレーター出力／1034Kw　スラスター推力／40700Kg　装甲材質／ルナ　チタニウム
武　装　固定／ヒートロット　スパイクアーマー×2　携帯／3連装35mmガトリング砲　カトリングシールト　ヒートサーベル
パイロット　ノリス
機体解説　MS-07のテストの際に重量になった重分をさらに改修した。外付け3連装35mmガトリング砲に加え、ヒートロットの強化もなされた。



機体名称　ゲルググJ(GELGOOG JAGER)
型式番号　MS-14JG
開発基地　ジオン公国軍　グラナダ基地
スペック　頭頂高／19.2m　本体重量／40.5t　ジェネレーター出力／1490Kw　スラスター推力／178500Kg　装甲材質／チタン・セラミック複合材
武　装　固定／ビームサーベル　携帯／ビームマシンガン
パイロット　ジオン軍一般兵士
機体解説　ゲルググの最終量産型。JGタイプは「狙撃タイプ」とも呼ばれ　携帯するビームライフルの狙撃精度が極めて高い。バックパックにブロヘラントタンクを装備可能で、戦闘時間の延長が図られている。



機体名称　リック・ドムII(RICK-DOM ZWEI)
型式番号　MS-R09
開発基地　ジオン公国軍　グラナダ基地
スペック　頭頂高／18.6m　本体重量／45.6t　ジェネレーター出力／1219Kw　スラスター推力／110000Kg　装甲材質／チタン・セラミック複合材
武　装　固定／拡散ビーム砲　携帯／ジャイアントバズーカ　ヒートサーベル　シュツルム・ファウスト　120mm マシンガン
パイロット　ジオン軍一般兵士
機体解説　MS-09を宇宙戦用に換装し、大量生産されたリックドムも　数多くのバリエーションを残している。この機体もMS-14ゲルググの技術がフィードバックされている。



機体名称　ギャン(GYAN)
型式番号　MS-15
開発基地　シオン公国軍　グラナダ基地
スペック　頭頂高／19.9m　本体重量／52.7t　ジェネレーター出力／1360Kw　スラスター推力／56200Kg　装甲材質／鋼鉄スチール合金
武　装　固定／なし　携帯／専用ビームサーベル　専用シールド　ニードルミサイル　ハイドホンブ
パイロット　マ・クベ
機体解説　MS-14Aと次期主力MS選定を争った機体。RXシリーズとの格闘戦を考慮して開発され、大出力ビームサーベルやハイドホンブ内装型シールドを装備する。



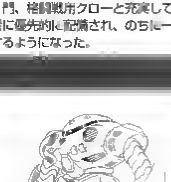
機体名称　ゲルググ(GELGOOG)
型式番号　MS-14
開発基地　ジオン公国軍　グラナダ基地
スペック　頭頂高／19.2m　本体重量／42.1t　ジェネレーター出力／1440Kw　スラスター推力／61500Kg　装甲材質／鋼鉄スチール合金
武　装　固定／ビームナギナタ　携帯／専用ビームライフル　専用シールド
パイロット　パイロット ジオン軍一般兵士
機体解説　一年戦争末期に登場した　汎用MS。ジオン初のビームライフルを標準装備しているMS。連邦のガンダムタイプMSと同等の性能を量得するに至ったが　時すでに遅く　量産が完了する前に終戦を迎えた。



機体名称：ズゴック(Z GOK)
型式番号：MSM-07
開発基地：ジオン公国軍-キャリフォルニアベース
スペック：頭頂高／18.4m　本体重量／85.1t　ジェネレーター出力／2480Kw　スラスター推力／83000Kg　装甲材質／チタン セラミック複合材
武　装：固定／頭部8連装ミサイル砲　腕部メガ粒子砲×2　携帯／なし
パイロット：カラハ ゴダールほか
機体解説：水陸両用型MSとして開発されたが、陸戦能力も高い。メガ粒子砲2門、小型ロケット砲6門、格闘戦用クローと充実している。指揮官に優先的に配備され、のちに一般兵も使用するようになった。



機体名称：ゴッグ(GOGG)
型式番号：MSM-03
開発基地：ジオン公国軍-キャリフォルニアベース
スペック：頭頂高／18.9m　本体重量／82.4t　ジェネレーター出力／1740Kw　スラスター推力／121000Kg　装甲材質／チタン セラミック複合材
武　装：固定／腰部メガ粒子高×2　腰背魚雷発射管×2　フリーシーヤート　携帯／なし
パイロット：マーシー・ラサほか
機体解説：ジオンが 水陸両用MSとして初めて開発した機体。宇宙育ちのジオン開発者が設計したにも関わらず 水中での機動性は予想を上回る性能を見せた。ただし、地上戦闘は行動時間が制限されている。



機体名称：ズゴックE(ZUGOCK-EXPERIMENT)
型式番号：MSM-07E
開発基地：キャリフォルニア ベース
スペック：頭頂高／18.4m　本体重量／69.5t　ジェネレーター出力／2570Kw　スラスター推力／112000Kg　装甲材質／チタン セラミック複合材
武　装：固定／ビームカノン砲×2　魚雷×6　携帯／なし
パイロット：ジュタイナーほか
機体解説：旧型であるMSM-07を全面改修した機体。ズゴックはもともと水中、陸上ともに戦闘能力が高かったために、水陸両用MSとしては最高ランクの性能を獲得するに至った。オプションとして熱核ジェットを装備できる。



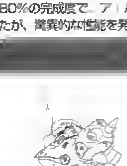
機体名称：ハイゴッグ(HY-GOGG)
型式番号：MSM-03C
開発基地：キャリフォルニア ベース
スペック：頭頂高／15.4m　本体重量／54.5t　ジェネレーター出力／2735Kw　スラスター推力／86000Kg　装甲材質／チタン セラミック複合材
武　装：固定／内蔵式メガ粒子砲　魚雷×4　携帯／ハントミサイルユニット
パイロット：アンディ ストロース ガブリエル ラミラス ガルシアほか
機体解説：MSM-03ゴッグの改修バージョンというよりは 開発コンセプトのみを継承した新開発機。より小型化され、腕部の改良で格闘戦能力が向上している。



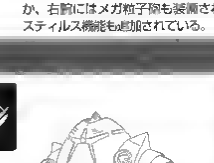
機体名称 シオング(ZEONG)
型式番号 MSN-02
開発基地 ジオン公国軍 ア・バオア・クー
スペック 頭頂高／17.3m　本体重量／151.2t　ジェネレーター出力／9400Kw　スラスター推力／187000Kg　装甲材質／超硬スチール合金
武　装 固定／頭部メガ粒子砲　腕部有線式5連装ビーム砲×2　腰部メガ粒子砲×2　携帯／なし
パイロット シャア・アズナブル
機体解説 ニュータイプ専用MS。初めてMSクラスにサイコミュが搭載され、オールレンジ攻撃が可能。80%の完成度で、ア・バオア・クーに参戦したが、驚異的な性能を発揮した。



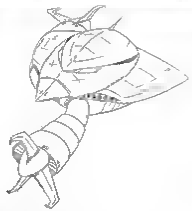
機体名称 アッガイ(AGGUY)
型式番号 MSM-04
開発基地 ジオン公国軍 キャリフォルニアベース
スペック 頭頂高／19.2m　本体重量／91.6t　ジェネレーター出力／1870Kw　スラスター推力／109600Kg　装甲材質／超硬スチール合金
武　装 固定／頭部バルカン×4　腕部6連装ミサイルランチャー(右手のみメガ粒子砲内蔵)×2　携帯／なし
パイロット アカハナ クラフト、マジソン他
機体解説 偵察や特殊任務用に開発されたMS。伸縮自在のフレキノブルアームや格闘用クローのほか、右脚にはメガ粒子砲も装備されていた。スティルス機能も追加されている。



機体名称 ケンプファー(KAMPFER)
型式番号 MS-18E
開発基地 ジオン公国軍 グラナダ基地
スペック 頭頂高／17.7m　本体重量／43.5t　ジェネレーター出力／1550kw　スラスター推力／158000Kg　装甲材質／チタン セラミック複合材
武　装 固定／頭部バルカン×2　ビームサーベル　携帯／専用ショットガン×2　ジャイアントバズーカ×2　シュノルム・ファウスト×2　チェーン マイン(4基)
パイロット ミハイル カミンスキー
機体解説 格闘戦をメインに開発されたワンメイクの強襲用MS。単機性能では、運動性、火力においてRX-78にも劣ることはない。



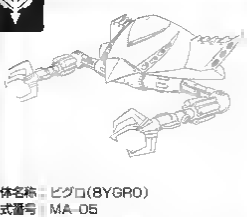
機体名称 ゾック(ZOCK)
型式番号 MSM-10
開発基地 ジオン公国軍 キャリフォルニアベース
スペック 頭頂高／23.9m　本体重量／167.6t　ジェネレーター出力／3849Kw　スラスター推力／253000Kg　装甲材質／チタン セラミック複合材
武　装 固定／頭部メガ粒子砲　腰部メガ粒子砲×8　携帯／なし
パイロット ボラスキニフ
機体解説 前後対称という MSの中でも極めて特異な形状をもつ機体。通常の3倍の出力を持つジェネレーターを装備し 9門のメガ粒子砲を運射できる。その反面 歩行機能を失い 陸上での機動性はゼロに近い。



機体名称：グラブロ(GRUBLO)
型式番号：MAM-07
開発基地：ジオン公国軍 サンディエゴ基地
スペック：頭頂高／40.2m　本体重量／324.1t　ジェネレーター出力／11000Kw　スラスター推力／不明　装甲材質／超高張力鋼
武　装：固定／クロー×2　7連装水中ミサイル×2　対空ミサイル×2　携帯／なし
パイロット：フラナガン・ブーン
機体解説：水陸両用MSと、同時に開発が進められていたのがこの機体である。公式記録では初めて実戦投入されたMAでもある。単純性能で、倍数のMSを上回るMAの登場は、これまでの戦術を一変させることになる。これを機にジオン軍のMA開発は活発になる。



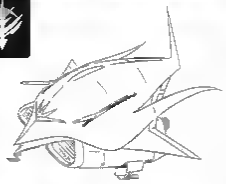
機体名称：イフリート改
型式番号：MS-08TX(EXAM)
開発基地：不明
スペック：頭頂高／17.2m　本体重量／59.4t　ジェネレーター出力／不明　スラスター推力／不明　装甲材質／不明
武　装：固定／誘導グレネードランチャー×2　頭部ミサイルポット×2　ホーミングミサイル　スパイクアーマー×2　携帯／ヒートサーベル×2
パイロット：ニムバス・シュターゼン
機体解説：クルスト博士が、ジオン時代に1機だけ開発したEXAM搭載型MS。グフとドムの中間機であるイフリートをベースにしているために格闘戦で無類の強さを見せる。



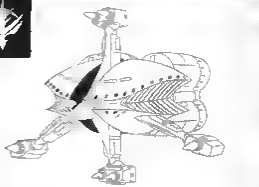
機体名称：ビグロ(BYGRO)
型式番号：MA-05
開発基地：ジオン公国軍 キャリフォルニアベース
スペック：頭頂高／45.5m　本体重量／125.5t　ジェネレーター出力／17800Kw　スラスター推力／138100Kg　装甲材質／超高張力鋼
武　装：固定／大型メガ粒子砲　クロー×2　ミサイル8門　携帯／なし
パイロット：トクワン
機体解説：宇宙戦用に開発された高機動型MA。運動性と加速性はMSの追随を許さないほどである。しかし　この手の大型兵器にはありがちな、死角が多いという欠点もあり、さらなる改良が望まれていた。



機体名称：アッザム(AOZAM)
型式番号：MAX-03
開発基地：ジオン公国軍 グラナダ基地
スペック：頭頂高／24.0m　本体重量／300t　ジェネレーター出力／不明　スラスター推力／不明　装甲材質／超高張力鋼
武　装：固定／2連装メガ粒子砲8基　携帯／なし
パイロット：キシリア　ザビ　マークへ
機体解説：初めて実戦投入された試作型MA。しかし　まだMAという概念が確立されていない時代に開発されたために、MAというよりは　移動砲台という意味合いが強い。ミノフスキークラフトを搭載し、メガ粒子砲8門、特殊兵器アッザムリーダーを装備している。



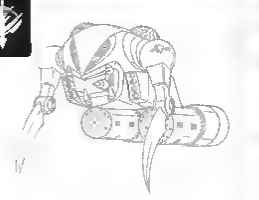
機体名称　エルメス(ELMETH)
型式番号　MAN-08
開発基地　ジオン公国軍・グラナダ基地
スペック　頭頂高／85.4m　本体重量／163.7t　ジェネレーター出力／14200Kw　スラスター推力／645200Kg　装甲材質／超高張力鋼
武　装　固定／メガ粒子砲2門　ビット12基　携帯／なし
パイロット　ララァ・スン
機体解説　ほとんどの操作をサイコミュで行うことができる、本格的なニュータイプ用MA。本体の主武装は、メガ粒子砲であるが、攻撃は無人随伴攻撃機ビットが行う。ビットはサイコミュによる遠隔操作が可能。



機体名称　ブラウ・ブロ(BRAW BRO)
型式番号　MAN-03
開発基地　ジオン公国軍・グラナダ基地
スペック　頭頂高／60.2m　本体重量／1735.3t　ジェネレーター出力／74000Kw　スラスター推力／1760000Kg　装甲材質／超高強力鋼
武　装　固定／有線誘導メガ粒子砲4門　携帯／なし
パイロット　シャリア・ブル　ツムス・アル・バハロフ・コワル
機体解説　初めてサイコミュを搭載した、実験用MA。これ以上サイコミュ装置を小型化できなかったためか、機体は大型の突撃艇なみの大きさである。オールレンジ攻撃が可能。



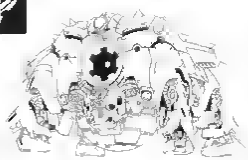
機体名称　ビグ・ザム(BYG ZAM)
型式番号　MA-08
開発基地　レオン公国軍・アバオア・クー
スペック　頭頂高／59.6m　本体重量／1021.2t　ジェネレーター出力／140000Kw　スラスター推力／580000Kg　装甲材質／超高張力鋼
武　装　固定／大型メガ粒子砲1門　メガ粒子砲26門　対空ミサイル6門　対ビーム用電磁波膜(Iフィールドジェネレーター)　携帯／なし
パイロット　トズル・マイヤー
機体解説　機動兵器として初めて、Iフィールド発生装置を装置したMA。これによりビーム兵器がまったく通用しなくなった。



機体名称　ザクレロ(ZAKRELLO)
型式番号　MA-04X
開発基地　ジオン公国軍・キャリフォルニアベース
スペック　頭頂高／不明　本体重量／不明　ジェネレーター出力／不明　スラスター推力／不明　装甲材質／超高強力鋼
武　装　固定／ヒートナタ×2　拡散ビーム砲　ミサイル8門　携帯／なし
パイロット　デミトリー
機体解説　宇宙用試作MAのうちの1機。MAM-07やMA-05以前から開発が進められていたが　運動性や加速性能が予定の測定値を超えなかったために、放棄された。ジェネレーターの出力は十分であり、拡散メガ粒子砲の長期間使用にも対応できていた。



機体名称：ヴァル・ヴァロ（VAL-WALO）
型式番号：MA-06
開発基地：グラナダ
スペック：頭頂高／68.0m　本体重量／254.1t　ジェネレーター出力／26030Kw　スラスター推力／720000Kg　装甲材質／超硬スチール合金
武　装：固定／大型メガ粒子砲　ミサイルポッド×2　対空ビームガン×2　110mm バルカン砲×4　プラズマ　リーダー×3　携帯／なし
パイロット：ケリィ・レズナー
機体解説：ジオン軍が大戦末期に開発した宇宙真用MA。従来のMAで試作された様々な武装を搭載し、長所をうまく採り入れている。



機体名称：アプサラス（APSARAS）
型式番号：不明
開発基地：不明
スペック：頭頂高／不明　本体重量／不明　ジェネレーター出力／不明　スラスター推力／不明　装甲材質／不明
武　装：固定／大型メガ粒子砲　携帯／なし
パイロット：アイナ・サハリン
機体解説：アプサラスは、ギニアス・サハリンが開発した重MAである。地球上でテスト運用され、その折、実戦も経験している。機体から伸びた突起状のものは　推進源となるプラズマ波を制御するためのもの。性能的には申し分なかったが、量産化されることはなかった。



機体名称：アプサラスIII（APSARAS III）
型式番号：不明
開発基地：不明
スペック：頭頂高／不明　本体重量／不明　ジェネレーター出力／不明　スラスター推力／不明　装甲材質／不明
武　装：固定／メガ粒子砲　携帯／なし
パイロット：アイナ　サハリン
機体解説：アプサラスⅠ～Ⅱのデータを元に、アジア・ジオン軍兵器開発基地の総力を挙げて開発された拠点攻略試作MA。同機には1～Ⅱで装備されていたミノフスキークラフトの同タイプ2基が搭載されている。中央に大出力の大型メガ粒子砲を装備し　大気圏外からの侵攻、拠点殲滅が可能である。

サブタイトルリスト ■機動戦士ガンダム

話数	サブタイトル	脚本	演出	絵コンテ	作画監督
第1話	ガンダム大地に立つ!!	星山博之	貞光紳也	斧谷稔	安彦良和
第2話	ガンダム破壊命令	松崎健一	藤原良二	斧谷稔	安彦良和
第3話	敵の補給艦を叩け!	荒木芳久	小鹿英吉	斧谷稔	安彦良和
第4話	ルナツー脱出作戦	山本優	貞光紳也	貞光紳也	富沢和雄
第5話	大気圏突入	星山博之	藤原良二	斧谷稔	青鉢芳信
第6話	ガルマ出撃す	山本優	小鹿英吉	山崎和男	安彦良和
第7話	コアファイター脱出せよ	荒木芳久	藤原良二	藤原良二	安彦良和
第8話	戦場は荒野	松崎健一	貞光紳也	貞光紳也	山崎和男
第9話	翔べ! ガンダム	星山博之	小鹿英吉	斧谷稔	安彦良和
第10話	ガルマ散る	山本優	藤原良二	藤原良二	安彦良和
第11話	イセリナ、恋のあと	荒木芳久	貞光紳也	貞光紳也	大泉学
第12話	ジオンの脅威	松崎健一	横山裕一郎	斧谷稔	中村一夫
第13話	再会、母よ……	星山博之	藤原良二	藤原良二	安彦良和
第14話	時間よ、とまれ	富野喜幸	貞光紳也	斧谷稔	山崎和男
第15話	ククルス・ドアンの島	荒木芳久	斧谷稔	貞光紳也	鈴村一行
第16話	セイラ出撃	山本優	斧谷稔	斧谷稔	青鉢芳信
第17話	アムロ脱走	松崎健一	藤原良二	斧谷稔	安彦良和
第18話	灼熱のアッザム・リーダー	松崎健一	貞光紳也	貞光紳也	中村一夫
第19話	ランバ・ラル特攻!	星山博之	行田進	斧谷稔	安彦良和
第20話	死闘! ホワイト・ベース	山本優	藤原良二	斧谷稔	富沢和雄

第21話	激闘は憎しみ深く	荒木芳久	行田進	斧谷稔	山崎和男
第22話	マ・クベ包囲網を破れ！	松崎健一	貞光紳也	貞光紳也	安彦良和
第23話	マチルダ救出作戦	星山博之	藤原良二	藤原良二	中村一夫
第24話	追撃！トリプル・ドム	山本優	関田修	斧谷稔	安彦良和
第25話	オデッサの激戦	荒木芳久	貞光紳也	貞光紳也	富沢和雄
第26話	復活のシャア	松崎健一	藤原良二	斧谷稔	安彦良和
第27話	女スパイ潜入！	星山博之	久野弘	斧谷稔、久野弘	山崎和男
第28話	大西洋、血に染めて	山本優	関田修	斧谷稔	中村一夫
第29話	ジャブローに散る！	荒木芳久	貞光紳也	斧谷稔	安彦良和
第30話	小さな防衛線	山本優	藤原良二	藤原良二	安彦良和
第31話	ザンジバル、追撃！	星山博之	久野弘	斧谷稔	安彦良和
第32話	強行突破作戦	松崎健一	関田修	斧谷稔	富沢和雄
第33話	コンスコン強襲	山本優	貞光紳也	斧谷稔	中村一夫
第34話	宿命の出会い	星山博之	藤原良二	藤原良二	多賀かずひろ(作画)他
第35話	ソロモン攻略戦	松崎健一	久野弘	久野弘	伊東誠(作画)他
第36話	襲来！機動ビグ・ザム	松崎健一	関田修	斧谷稔	山崎和男(作画)他
第37話	テキサスの攻防	山本優	貞光紳也	斧谷稔	中村一夫
第38話	再会、シャアとセイラ	松崎健一	藤原良二	藤原良二	長崎重信(作画)他
第39話	ニュータイプ、シャリア・ブル	山本優	久野弘	斧谷稔	多賀かずひろ(作画)他
第40話	エルメスのララァ	荒木芳久	関田修	斧谷稔	鈴村一行(作画)他
第41話	光る宇宙	松崎健一	貞光紳也	貞光紳也	青鉢芳信(作画)他
第42話	宇宙要塞ア・バオア・クー	星山博之	藤原良二	斧谷稔	中村一夫
第43話	脱出	星山博之	関田修	斧谷稔	山崎和男

サブタイトルリスト ■機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争

話数	サブタイトル	脚本	演出	絵コンテ	作画監督
第1話	戦場までは何マイル？	山賀博之	高松信司	高山文彦	斎藤格
第2話	茶色の瞳に映るもの	山賀博之	横山広行	甚目喜一	窪岡俊之
第3話	虹の果てには？	山賀博之	高松信司	高松信司 高山文彦	川元利浩 富沢和雄
第4話	河を渡って木立を抜けて	山賀博之	横山広行	高山文彦	窪岡俊之
第5話	嘘たと言ってよ、バーニィ	山賀博之	高松信司	甚目喜一	川元利浩 窪岡俊之 富沢和雄
第6話	ポケットの中の戦争	山賀博之	高山文彦	高山文彦	川元利浩

サブタイトルリスト ■機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー

話数	サブタイトル	脚本	演出	絵コンテ	作画監督
第1話	ガンダム強奪	五武冬史	渡辺信一郎	加瀬充子	川元利浩
第2話	終わりなき追撃	五武冬史	今西隆志	今西隆志	逢坂浩司
第3話	出撃アルビオン	五武冬史	渡辺信一郎	渡辺信一郎	川元利浩
第4話	熱砂の攻防戦	五武冬史	赤根和樹	今西隆志	逢坂浩司
第5話	ガンダム、星の海へ	遠藤明範	加瀬充子	加瀬充子	川元利浩
第6話	フォン・ブラウンの戦士	大能朝秀	渡辺信一郎	渡辺信一郎	逢坂浩司
第7話	蒼く輝く炎で	遠藤明範	赤根和樹	赤根和樹	川元利浩
第8話	策謀の宙域	大能朝秀	渡辺信一郎	加瀬充子	逢坂浩司
第9話	ソロモンの悪夢	高橋良輔	赤根和樹	今西隆志	菅野宏紀

第10話	激突戦域	大熊朝秀	虞辺信一郎	虞辺信一郎　川元利浩
第11話	ラビアンローズ	高橋良輔	赤根和樹	赤根和樹　逢坂浩司
第12話	強襲、阻止限界点	大熊朝秀	虞辺信一郎	今西隆志　菅野宏紀
第13話	駆け抜ける嵐	大熊朝秀	大熊朝秀	今西隆志　川元利浩

サブタイトルリスト ■機動戦士ガンダム 第08MS小隊

話数	サブタイトル	脚本	演出	絵コンテ	作画監督
第1話	一人だけの戦争	桶谷顕	西森章	横山裕一郎	杉浦幸次
第2話	密林のガンダム	桶谷顕	芹沢剛史	芹沢剛史	横山彰利
第3話	信頼への限界時間	桶谷顕	西森章	西森章	吉田徹
第4話	頭上の悪魔	桶谷顕	日高政光	西森章	杉浦幸次
第5話	破られた待機命令	桶谷顕	加瀬充子	横山裕一郎	吉田徹
第6話	熱砂戦線	桶谷顕	飯田馬之介(GONZO)	飯田馬之介(GONZO)	横山彰利
第7話	再会	桶谷顕	加瀬充子	飯田馬之介(GONZO)	杉浦幸次
第8話	軍務と理想	桶谷顕(原案)	森邦宏	飯田馬之介(GONZO)	横山彰利　杉浦幸次
第9話	最前線	桶谷顕(原案)	仕舞屋鉄	飯田馬之介(GONZO)	佐久間信一　高橋晃
第10話	震える山(前編)	北嶋博明	森邦宏	飯田馬之介(GONZO)	杉浦幸次

スタッフリスト ■機動戦士ガンダム

MAIN STAFF

総監督：富野喜幸
演作：矢立肇　富野喜幸
原案：渡辺岳夫，松山祐士
キャラクターデザイン：安彦良和
メカニカルデザイン：大河原邦男
美術監定：中村光毅
アニメーションディレクター：安彦良和
プロデューサー：関岡孝（名古屋テレビ），大熊伸行（創通エージェンシー），虎辺靖夫（日本サンライズ）
制作：名古屋テレビ，創通エージェンシー，日本サンライズ
作画：中村プロ，スタジオ Z，アニメフレンド
仕上：シャフト，ディーン
特殊効果：土井通明
美景：アート テイク・ワン，アップル
動画チェック：兵庫守
撮影：旭プロダクション，斉藤秋男
編賞：鶴渕友彰，小谷地文男
現賞：東京現賞所
音賞監督：松浦典良（オーディオ プランニング ユー）
効果：松田昭彦
録音：日向国雄
録景：整音スタジオ
制作進行：重住政弘，草刈忠良，望月真人，瀬口雅彦，植田益朗，八木岡正美，神田豊，深田節雄
設定制作：円井正
アシスタントプロデューサー：神田景

スタッフリスト ■機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争

MAIN STAFF

監督：高山文彦
プロデューサー：内田健二（サンライズ） 高梨実（バンダイ）
動画チェック：岩長幸一
色指定：高島清子
特殊効果：千場豊
ビジュアル設定協力：近藤和久
撮影：朝稲由紀，松澤浩之，吉本享弘，藪田順二
タイトルアニメーション：森川滋，築地史郎，望岡俊之，池田繁美
エンディング作画：望岡俊之
編集：瀬山武司
効果：横山正和
賞賞：依田孝良
録音：整音スタジオ
現景：景京現像所
タイトル：マキ プロ
アシスタントプロデューサー：杉田敦
制作デスク：高森宏治
設定制作：堀口滋
制作進行：藤本容伯（#1，3），市川幸彦（#2 4 6），中村浩太郎（#5）
賞伝担当：冲賞子
音響制作：千田音子
製作：サンライズ，バンダイ
製作・著作：サンライズ
企画：サンライズ
提作：矢立賞，富野由悠季
構成：結城恭介
賞本：山賞博之
デザインワークス：出渕裕
キャラクターデザイン：美樹本景彦
モビルスーツ原案：大河原邦男
メカニカルデザイン協力：明貴美加，石津景志
美術：池田繁　協威志
景影：奥井敦
音賞：かしぶち哲郎
賞賞：藤野貞義

オープニングテーマ：「いつか空に健いて」
エンディングテーマ：「遠い記憶」
作詞・作曲：椎名恵
編曲：戸塚修
賞：椎名恵
レコード：キングレコード

スタッフリスト ■機動戦士ガンダム0083 スタータストメモリー

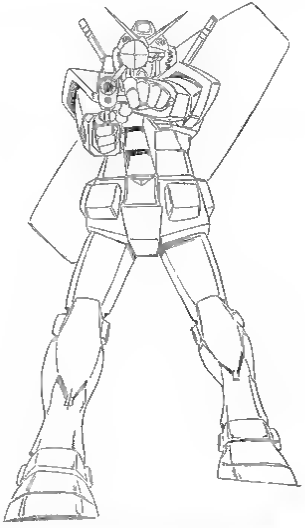
MAIN STAFF

企画：サンライズ
原作：矢立肇　富野由悠季
キャラクターデザイン：川元利浩
総作画監督：川元利浩
総メカニカル作画監督：佐野浩敏
モビルスーツ原案：大河原邦男
メカニカルスタイリング：河森正治
メカニカルデザイン：カトキハジメ、明貴美加（RED）　石津嘉彦
美術監督：東潤一
撮影監督：奥井敦
音響：萩田光男
音響監督：浦上靖夫
レコード：ビクター音楽産業
作画監督：川元利浩　遠坂浩司、菅野宏紀
メカ作画監督：佐野浩敏　吉田徹、杉浦幸次
原画：山下将仁　堀川耕一、仲盛文、工原しげき　阿部邦博、瀬尾康博　伊藤浩二　岡村豊、門上洋子　皆広一美　関野昌弘、弁島雅彦　阿部美紗緒、河野さち子　伊賀邦彦　木村貢宏、村瀬修功　吉田英徳、西村誠芳　高谷均、木口寿恵子　山口晋　榎本勝紀、渡部浩　本田雄　二瓶勇一　山本佐和子　大島康広、からしまひろゆき、田野光男、津野田勝敏、小森高博　秦野好紹、相澤昌弘　福井享子、服部典泰美　佐藤卓哉　菅野宏紀　杉浦幸次、遠坂浩司、吉田徹　佐野浩敏　藤久川聡、川元利浩　カトキハジメ
動画チェック：喜久川徹　岩長幸一
動画：渡辺惠一、近藤梨恵、佐村義一　常木志伸　山口善徳　川田栄三、守屋一朗、吉留伸哉　山元浩　赤坂理恵子　島山慎三、山本みとり　綱野佳子、つる山沙由理　、スタジオたくらんけ、アニメアール、スタジオ　ムー、ウォンバット、トゥエンティファースト、スタジオブーメラン、スタジオZ5、グループどんぐり、マジックバス、アニメ点滴、グループゼン、スタジオエッグ、ＦＡＩインターナショナル
スペースコロニー作画監督：井上直幸
ゲストメカデザイン：湊矢トオル、矢島雄晴
色彩設計：中山しほ子
色指定：中山しほ子、今西清子
仕上：九星［秀幸滅、山田伸、松本昌絵、中野裕子］、スタジオトムキャット［諫岡孝子、浅生裕子、人位万里、佐藤雅弘］、スタジオボギー［江川正雄、阿部千恵子、迫田悦子、勝野寛史、工藤あつ子、金澤圭位子、小山美由紀］ＦＡＩインターナショナル、スズキ動画企画、CAMP ALPHA、黒猫館　スタジオアド
特殊効果　千場智（マリックス）
タイトル　リスワーク　マキ　プロ
背景：スタシオ　イースター［南沢貞子　高橋智子］、スタジオキャッツ［市原洋子　稲谷雅夫］　菱山徹　太田大
撮影：旭プロダクション［長谷川洋一、藤倉修二、市川悟、石井ゆり子、海老島良　大石英善　松島光治、小林慎喜、新矢秀和、土岐浩司、大島正行、三浦隼人、杉沢義雄、大森美奈子］
編集：鶴淵友彰
録音スタジオ：APUスタジオ
音響制作：オーディオ　プランニング　ユー
効果：フィズサウンドクリエイション、松田昭彦
整音：大城久典、内山敬章、宮下義和、野崎博樹
現像：東京現像所
設定協力：カトキハジメ、あさのまさひこ
設定制作：井上幸一　武井良幸
制作助手：服部陽子、外池葉子
宣伝：本貫子（バンダイ）　藤家浩巳（バンダイ）
アシスタントプロデューサー：南雅彦（サンライズ）、寺田将人（バンダイ）
制作進行：松村圭一、森邦宏　近藤康彦、河口佳高　塚田政宏　高原直子、武井良幸
絵コンテ・演出：今西隆志、加瀬充子、渡辺信一郎、赤根和樹　大張朝秀
プロデューサー：福田益朗（サンライズ）　高梨実（バンダイ）
監督：加瀬充子（1～7話）、今西隆志（2～13話）
製作：サンライズ、バンダイ
製作・著作：サンライズ

スタッフリスト ■機動戦士ガンダム 第08MS小隊

MAIN STAFF

監督：神田武幸　飯田馬之介
プロデューサー：望月貴人（サンライズ）、植田益朗（サンライズ）、寺田博人（バンダイビジュアル）、池口和彦（バンダイビジュアル）、湯川淳（バンダイビジュアル）、久保聡（バンダイビジュアル）
企画：サンライズ
原作：矢立肇、富野由悠季
キャラクターデザイン：川元利浩
メカニカルデザイン：大河原邦男、カトキハジメ、山根公利
美術監督：池田繁美
撮影監督：谷口久美子
音楽：田中公平
音響監督：浦上靖夫
オープニングテーマ「嵐の中で輝いて」
作詞：渡辺なつみ
作曲：夢野真奇
編曲：見良津健雄
歌：米倉千尋
レコード：キングレコード
エンディングテーマ：「10　YEARS AFTER」
作詞：朝倉京子
作曲：三浦一年
編曲：見良津健雄
歌：米倉千尋
レコード：キングレコード
製作：サンライズ、バンダイビジュアル



声優リスト ■機動戦士ガンダム

アムロ・レイ：古谷徹
ブライト・ノア：鈴置洋孝
シャア・アズナブル：池田秀一
セイラ・マス　井上瑤
フラウ・ボウ　鵜飼るみ子
ミライ・ヤシマ：白石冬美
カイ・シデン：古川登志夫
ハヤト・コバヤシ：鈴木清信
リュウ・ホセイ：曽塚昭三
カツ・ハウイン：白石冬美
キッカ・キタモト：井上瑤
レツ・コファン：鵜飼るみ子
ハロ：井上瑤
カルマ・ザビ：森功至
キシリア・ザビ：小山まみ
ギレン・ザビ：田中崇
トズル・ザビ：夏木秀夫
デギン・ソト・ザビ：永井一郎
イセリナ・エッシェンバッハ：潘恵子
エッシェンバッハ：飯塚昭三
ランバ・ラル：広瀬正志
クラウレ・ハモン：中谷ゆみ
マ・クベ：塩沢兼人
レビル将軍：池田勝
マチルダ・アジャン：戸田恵子
カマリア・レイ：沢田敏子
テム・レイ：清川元夢
ミハル・ラトキエ　間嶋里美
ウソディ：田中秀幸
スレッガー・ロウ　玄田哲章
カムラン・ブルーム：塩沢兼人
シャリア・ブル：木原正二郎
ララァ・スン：潘恵子
ドレン：永井一郎
デニム　緒方賢一
シーン　曽我部和行
中佐　曽田勝
スレンダー：鈴木誠一
フラウ・ボウの曽　鈴木れい子
パオロ艦長：正宇一成
ガデム：水鳥鉄雄
オペレーターA：竜田直樹
ワッケイン：曽我部和行
副官：広瀬正志
リード　玄田哲章
スミス：滝雅也
ベルシア：角田美佐
将校：戸谷公次
おばさん：片岡富枝
兵士：竜田直樹
クワラン：市東昭秀
ソル：塩沢兼人
ギャル：二又一成
オムル：鵜谷幸男
パイロット：戸谷公次
トアン：徳丸完
ロラン：川島葉子
タチ　松岡洋子
クム　間嶋里美
チヨ：曽木早苗
コズン　戸谷公次
兵士：二又一成
クランプ：塩沢兼人
ウラガン　戸谷公次
ショブ・ション　塩沢兼人
マーカー：古川登志夫
オスカ：鈴木清信
ジュダック：二又一成
ガイア：政宗一成
マリガン：塩沢兼人
マシー　二又一成
ミリー：松岡洋子
コノリ：二又一成
オムル：塩沢兼人
軍曹：二又一成
アントニオ：二又一成
トクワン：政宗一成
ゼナ：角谷美佐
シン：二又一成
バロム：滝雅也
ハワド：檜谷雪
将軍　佐藤正治
シムス：松沢和子
アサクラ：広瀬正志
トワニング　佐藤正治
士官　二又一成
ナレーター　永井一郎

声優リスト ■機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争

アル　涼川大輔
バーニィ　辻谷耕史
クリス：林原めぐみ
テルコット：鈴木健
チェイ：丸尾知子
ドロシー　吉田古奈美
シュタイナー：秋元羊介
ガルシア：島田敏
ミーシャ：島香裕
アンディ：星野充昭
アルの父：笹見純
アルの賊：折笠愛
指令官：古田信幸
オペレーター　中村大樹　平野正人　鈴木宏之
先生　榊原良子
キリング中佐　戸谷公次
兵士　中村大樹　星野充昭
艦官　平野正人
検査官：星野充昭
クリスの父：村松康雄
クリスの母：中村万里
警官　星野充昭　福田信昭
技官　後藤健
チャーリー：稲葉実
ディック：増岡弘
キャスター：曽井佳代子
受付：佐原健恵
兵隊：星野充昭
リーア官司令　大滝進矢
連邦官司令：後藤官
女：榊原良子
警部：藤堂官也
駐車場係官：大滝進矢
校官：村松康雄

声優リスト ■機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー

コウ・ウラキ：堀川亮
ニナ・パープルトン｜佐久間レイ
アナベル・ガトー｜大塚明夫
エイバー・シナプス＝大塚周夫
ション・コーウェン・：屋部猛
グリーン・ワイアット＝田中秀幸
ジーン・コリニー｜岸野一彦
ジャミトフ・ハイマン｜西村知道
バスク・オム＝郷里大輔
ナカッハ・ナカト｜大滝進矢
ステファン・ヘボン　原城裕士
ケリィ・レズナー：玄田哲章
ラトーラ・チャプラ　小林優子
サウス・バニング：菅原正志
チャック・キース｜山田健尉
モーラ・バシット：伊倉一寿
イワン・バサロフ：岸野一彦
アクラム・ハリダ：田原アルノ　巻島直樹（ビデオ）、中村大樹（映画）
ビーター・スコット・：菊池正美
ジャクリーヌ・シモン｜荒木香恵
ウィリアム・モリス・巻島直樹
アルファ・A・ベイト＝戸谷公次
ヘルナルト・モンシア｜李風林
チャップ・アデル　幹本雄之
アロイス・モズリー：松尾銀三
オサリバン常務｜市川治
ボーラ・ギリッシュ　松井菜桜子
クレナ・ハクセル　一条みゆ希
ルセット・オデビー・勝生真沙子
ニナの同僚A＝林玉緒
ニナの同僚B＝横山昌弘
ニナの同僚C＝少ゆり
ビーター・パープルトン：依田英助
シーマ・ガラハウ＝真柴摩利
デトローフ・コッセル｜掛川裕彦
ユーリー・ハスラー　青森伸
ハマーン・カーン　榊原良子
ヴィリィ・グラートル｜稲葉実
ノイエン・ビッター｜池田勝
ケイリー少尉＝田口昂
カリウス軍長＝飛田展男
グウデン艦長＝山崎たくみ
ニック・オービル｜塩屋翼
ドライゼ中佐　仲木隆司
UBD1副長｜伊井篤
タッケン書官＝巻島直樹
アダムスキー少尉＝田原アルノ
ボブ中尉｜佐藤正治
ディック・アレン｜秋元羊介
ラバン・カークス：森川智之
マーネリ准将＝阪脩
ビコック大尉＝楠本晃一
エギーユ・デラーズ・小林清志
ナレーター・小林清志
予告編ナレーター｜佐久間レイ

声優リスト ■機動戦士ガンダム 第08MS小隊

シロー・アマダ　鳴山修之
アイナ・サハリン｜井上喜久子
ミケル・ニノリッチ・結城比呂
カレン・ジョシュワ　小山茉美
テリー・サンダースJr.　玄田哲章
エレドア・マシス｜菅原醇治
ジダン・ニッカート　永井一郎
キキ・ロジータ｜西村ちなみ
ギニアス・サハリン｜速水奨
ノリス・パッカード｜市川治
ギレン・ザビ：緒河万丈
艦長｜有本欽隆
兵｜中博史
兵＝山崎たくみ
パイロット：菅原淳一
工兵　千葉一伸
ナビゲーター｜今井由香
コジマ｜藤本譲
兵A｜千葉一伸
兵B＝山崎たくみ
兵C：中博史
兵D：菅原淳一
パレスト＝広瀬正志
マサト｜中博史
ヒゲ・茶風林
ノッポ　長原淳一
チビ｜千葉一伸
男A・古澤徹
男B　岩永哲哉
男C　高戸靖広
男D　土井俊明
男E｜仁古景
男F｜石川和之
ユーリ＝上条之介
ロブ　長原淳一
マイク｜千葉一伸
声A｜諏部弘
声B＝古澤徹
マリア＝山口崇々
士官・有本欽隆
女｜中谷ゆみ
補給係A＝石田弘志
補給係B＝中嶋聡彦
兵士A＝菅原淳一
兵士B｜千葉一伸
兵士C｜古澤徹
牧童　伊倉健太郎
ラジオDJ　横山智佐
秘書官｜本多知恵子
通信士A＝中嶋聡彦
通信士B＝菅原淳一
兵士A＝伊藤健太郎
兵士B＝千葉一伸
ボーン＝堀内賢雄
バリー＝中島聡彦
マゼラン艦長＝岸野幸正
官僚＝沢木郁也
情報将校＝中博史
ガウエンシニア　佐藤浩之
ガウパイロット・大塚真人
ライヤー｜永井一郎
トップ　榊原良子
デル｜中嶋聡彦
アス・梅津秀行
MPA｜中村大樹
サリー｜松井菜桜子
パイロット＝細井治
オペレーター＝千葉一伸
ジオン兵A：相沢正輝
ジオン兵B｜中博史

参考文献

■機動戦士ガンダム大事典
【一年戦争編】復刻版
●ラポート株式会社

■機動戦士ガンダム大事典PART-2
●ラポート株式会社

■Model Graphix Special Edition
GUNDAM WARS III
ガンダムセンチネル
THE BATTLE OF REAL GUNDAM
●株式会社　大日本絵画

■GUNDAM CENTURY
宇宙翔ける戦士達
●株式会社　みのり書房

■モビルスーツバリエーション
テクニカル＆ヒストリー
1.ザク編
2.ジオン軍MS・MA編
3.連邦軍編
●株式会社　講談社

■ニュータイプ100%コレクション20
機動戦士ガンダム0083
オペレーション・プログラム
●株式会社　角川書店

■THE OFFICIAL
ART OF MOBILE SUIT GUNDAM
機動戦士ガンダム　設定大全集
●株式会社　サンライズ

■機動戦士ガンダム外伝　設定資料集
●ソフトバンク株式会社

INDEX

スレッガー・ロウ（ファースト）——017
スレンダー（ファースト）——052
セイラ・マス（ファースト）——010
ソル（ファースト）——102

タ

タチ（ファースト）——067
チャップ アデル（0083）——023
ディック アレノ（0083）——024
デトローフ コッセル（0083）——093
デニム（ファースト）——050
テミトリー（ファースト）——061
デラーズ兵補虜（0083）——103
テリー サンダースJr（第08MS小隊）——028
デル（第08MS小隊）——096
トクワン（ファースト）——060
ドズル・ザビ（ファースト）——048
トップ（第08MS小隊）——096
ドラッツェのパイロット（0083）——103
ドレン（ファースト）——063

ナ

ニキ（ガンダムZZ）——104
ニムバス・シュターゼン（ブルーディスティニー）——100
ノイエン ビッター（0083）——090
ノリス（第08MS小隊）——095

ハ

バーグマン（0083）——103
バーナード ワイズマン（0080）——082
バーニィの友人（0080）——103
バタシャム（ファースト）——081
バムロ（ファースト）——065
ハヤト コバヤシ（ファースト）——014
バリー（第08MS小隊）——097
ハンブル（ファースト）——075
フィックス（ファースト）——074
ヒービ（ファースト）——077
フィリップ ヒューズ（ブルーディスティニー）——032
フラナガン ブーン（ファースト）——058
ベルナルド モンシア（0083）——022
ヘンケン・ベッケナー（Zガンダム）——104
ボーン（第08MS小隊）——097
ボブ（0083）——092
ホラスキニフ（ファースト）——072

マ

マーチ（ファースト）——102
マ クベ（ファースト）——057
マチュウ（ファースト）——074
マリオン・ウェルチ（ブルーディスティニー）——101
ミケル ニノリッチ（第08MS小隊）——029
ミサキ（ファースト）——102
ミデアのパイロット（0083）——102
ミハイル・カミンスキー（0080）——084

ヤ

ユウ カジマ（ブルーディスティニー）——030

ラ

ラインバック隊隊長（0083）——102
ラカン・ダカラン（ガンダムZZ）——104
ラバン・カークス（0083）——024
ラムジ（ファースト）——080
ララァ スン（ファースト）——044
ラング（ファースト）——102
ランバ・ラル（ファースト）——046
リー・ホアン（ファースト）——079
リュウ・ホセイ（ファースト）——016
ルネン（第08MS小隊）——097
ロヘルト（Zガンダム）——104
ロンメル（カンダムZZ）——104
ロンメル隊の兵士（ガンダムZZ）——104
ロンメル隊の兵士B（ガンダムZZ）——104

索引

MOBILE SUIT GUNDAM
MS PILOT LIST ～ONE YEAR WAR～

ア

アイナ　サハリン（第08MS小隊）――094
アカハナ（ファースト）――059
アコース（ファースト）――054
アス（第08MS小隊）――096
アダムスキー（0083）――092
アナベル・ガトー（0083）――086
アポリー（Zガンダム）――104
アムロ・レイ（ファースト）――006
アルファ　A・ベイト（0083）――021
アンディ　ガルシア（0080）――085
イリューノノ（ファースト）――102
イワノフ（ファースト）――080
ウォルフガング　ヴァール（0083）――093
ウノディー（ファースト）――018
エイブ（ファースト）――069
エレドア　マシス（第08MS小隊）――029

カ

カイ　シデン（ファースト）――012
ガデム（ファースト）――053
ガトーの遺衛（0083）――103
カワハワ（ファースト）――081
カラハ（ファースト）――071
カラハノ（ガンダムZZ）――104
カリウス（0083）――091
ガルマ・ザビ（ファースト）――064
カレン・ジョノュア（第08MS小隊）――027
カレント（0083）――024
カンプ（ファースト）――076
ギーン（ファースト）――077
キグナン（Zガンダム）――104
ギャル（ファースト）――066
ククルス　ドアン（ファースト）――058
クラウレ　ハモン（ファースト）――068
クラウン（ファースト）――062
クラフト（ファースト）――080
クリスチーナ・マッケンジー（0080）――019
クリンク（ファースト）――078
クルト（0083）――093
黒い三連星（ファースト）――040
ケイリー（0083）――092
ゲージ（ファースト）――076
ゲビル（ファースト）――076
ケリィ　レズナー（0083）――088
ゲルググMのパイロットA（0083）――103
ゲルググMのパイロットB（0083）――103
コーカ　ラサ（ファースト）――070
コズン　グラハム（ファースト）――055
ゴダール（ファースト）――079
コム（ファースト）――075
コム（ファースト）――075
コムサイのパイロット（0083）――103
ゴロ（ファースト）――102
コワル（ファースト）――102

サ

サウス　バニング（0083）――020
ザクのパイロット（0083）――103
サトウ（ガンダムZZ）――104
サマナ　フュリス（ブルーディスティニー）――033
シーマ　ガラハウ（0083）――089
ジーン（ファースト）――051
シュタイナー（0080）――083
ジェイスキュー（ファースト）――074
ジョタル（ファースト）――079
シムス（ファースト）――073
シャア　アズナブル（ファースト）――036
シャリア　ブル（ファースト）――049
ショニー　ライデン（MSV）――098
ジョブ　ション（ファースト）――018
ンロー・アマダ（第08MS小隊）――025
ンン（ファースト）――018
ノン・マツナガ（MSV）――099
ステッチ（ファースト）――078

機動戦士ガンダム
MSパイロット名鑑〈一年戦争編〉

STAFF

■構成　仁木伸明　御手洗光司（STUDIO HARD）
■文　池上隆之　藤田毅　加納新太　御手洗光司
■カバーデザイン　久保寺ひろし
■本文デザイン　岡崎善保
■イラスト　長谷川正治
■担当編集　大塚訓章

©創通エージェンシー　サンライズ
©BANDAI 1996
©BANDAI 1997
©BANDAI 1998

1998年12月16日初版第1刷発行

●発行人　高橋恭
●編集人　池山一二
●発行所　株式会社ティーツー出版
〒164-0012　東京都中野区本町3-28 19
電話　03-3370-3061（営業）
03 3370-2361（編集）
FAX　03-3370-2419
●製版　株式会社エコープロセス
●印刷　株式会社飛来社
●製本　東京美術紙工

ISBN4-88749-015-1　C0376



©1998 T2 PUBLISHING CO LTD Printed in Japan　落丁・乱丁本はおとりかえいたします。定価はカバーに表示してあります。
本書の内容の一部あるいは全部を無断で複製・転載・上演・放送することは
法律で認められた場合を除き　著作者及び出版社の権利の侵害になります。
その場合は予め小社宛に許諾をお求め下さい。

ISBN4-88749-015-1

C0376 ¥1400E

9784887490154

1920376014007

定価：本体1,400円（税別）
株式会社ティーツー出版
©T2 PUBLISHING CO.,LTD.
Printed in Japan



©創通 エージェンシー・サンライズ
©BANDAI 1996 ©BANDAI 1997 ©BANDAI 1998

Cover Design : HIRO KUBODERA